上小阪遺跡第３次発掘調査報告書

１９９８

財団法人　東大阪市文化財協会

序

東大阪市は、古代より大和と並び日本の中枢地域であった河内の一画を占めています。市内からは現在、旧石器時代以降各時代の遺跡が約130箇所発見されており、まさに埋蔵文化財の宝庫と言えます。なかでも、市域の北半に往時存在した河内湖の縁辺には、瓜生堂遺跡・鬼虎川遺跡など弥生時代の大集落として全国的にも著名な遺跡が存在し、当時の繁栄の様子を今に示しています。

江戸時代以降は商都大阪の近郊農村地帯でしたが、早くから開発が進み現在市域の大半は住宅・工場などが立ち並びまとまった水田地帯はわずかとなり、市街化が進んでおります。

今回報告する上小阪遺跡第３次調査は、下水管埋設工事にともない実施したものであります。

上小阪遺跡は、瓜生堂遺跡の南西に位置する遺跡です。若江寺や織田信長もたびたび訪れた若江城が存在した地として知られる若江遺跡のすぐ西に所在しています。今まで余り調査が実施されておらず、まだ不明な点が多い遺跡です。この度の調査では、弥生時代後期を中心に本遺跡の実態を知ることのできる新たな発見がありました。また、土器を中心とした出土品は当時の人々の生活を偲ばせてくれるものであります。

本書が、地域の歴史を解明するうえでお役に立てれば幸いであります。また文化財の学習資料となりますことを願っております。

最後になりましたが、調査および整理を実施するうえに多大なご協力をいただきました東大阪市教育委員会、東大阪市下水道部をはじめとする関係機関、方々に心より謝意を表します。

財団法人　東大阪市文化財協会

理事長　日吉　亘

例　　言

1．本書は東大阪市若江西新町４～５丁目内において東大阪市下水道部が計画した平成元年度公共下水道第26工区管渠築造工事に伴う、上小阪遺跡第３次調査の発掘調査報告書である。

2．本調査は財団法人東大阪市文化財協会が、東大阪市下水道部の委託を受けて実施した

3．主要な現地調査は、平成１年６月５日から９月25日まで福永信雄を担当として実施した。

4．本書は附編のⅣ章を除き、執筆と編集は福永が行なった。Ⅳ章の花粉分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。観察表については、整理部嘱託の津田美智子が作成した。

5．遺構写真は福永が撮影し、遺物写真撮影はＧ・Ｆプロに委託した。

6．現地調査実施にあたっては、東大阪市下水道部・高宮土木株式会社の方々から多大なご協力いただいた。記して謝意を表する。

7．遺構実測図は調査に参加した全員で作成し、整図を津田が担当した。遺物実測図は、喜多裕子・竹田博美・西川美奈子が、整図および観察表の作成は津田が行なった。なお、本書掲載の遺物の挿図番号は、図版番号と一致させている。

8．遺構実測図の水準高はT.P値を用いた。

9．調査および本書作成にあたって、下記の方々から多くの協力を得た。心より謝意を表する。（敬称省略・順不同）

西谷真治・金関恕・山内紀嗣・金原正明

10．現地調査および整理作業には、下記の方々の参加を得た。また、平成９年度の整理作業は整理部が担当した。

今池広樹・西浦完次・大内衛・西村千恵・田中和佳子・喜多裕子・小原久美代・西山由美・百合藤厚子・井上容子・渡辺法子・西川美奈子・竹田博美・藤井文子・西村慶子・八田美代子

本　文　目　次

Ⅰ．はじめに …… 1
Ⅱ．位置と環境 …… 2
　1．位置 …… 2
　2．環境 …… 2
Ⅲ．調査概要 …… 4
　1．層序 …… 4
　2．遺構 …… 9
　　弥生時代の遺構 …… 9
　　奈良時代の遺構 …… 10
　3．出土遺物 …… 15
　　遺構出土遺物 …… 15
　　包含層出土遺物 …… 21
　　古墳時代以降の遺物 …… 24
Ⅳ．附編　上小阪遺跡第３次調査で採取した土壌の花粉分析報告 …… 40
Ⅴ．まとめ …… 44

挿　図　目　次

第１図　既往の調査と本報告調査地点位置図 …… 1
第２図　周辺遺跡分布図 …… 4
第３図　調査地区割図 …… 5
第４図　土層断面図 …… 6
第５図　土層断面図 …… 7
第６図　土層断面図 …… 8
第７図　検出遺構実測図 …… 11
第８図　検出遺構実測図 …… 12
第９図　検出遺構実測図 …… 13
第10図　検出遺構実測図 …… 14
第11図　溝出土弥生土器実測図 …… 16
第12図　溝出土弥生土器実測図 …… 17
第13図　溝出土弥生土器実測図 …… 18
第14図　落ち込み出土弥生土器実測図 …… 19
第15図　落ち込み出土弥生土器実測図 …… 20
第16図　土壙・ピット出土弥生土器実測図 …… 21

第17図　包含層出土弥生土器実測図 …… 22
第18図　包含層出土弥生土器実測図 …… 23
第19図　包含層出土弥生土器実測図 …… 24
第20図　土師器・須恵器・瓦器・砥石実測図 …… 24
第21図　弥生時代石製品実測図 …… 24
第22図　上小阪遺跡第３次調査の溝５の断面図および花粉分析試料の採取位置 …… 41
第23図　上小阪遺跡第３次調査の溝５埋積物の花粉化石群集の分布図 …… 43

表　目　次

表１　出土遺物観察表 …… 25
弥生土器 …… 25
弥生時代石製品 …… 39
土師器・須恵器・石製品 …… 39
表２　上小阪遺跡第３次調査の溝５埋積物の花粉分析結果 …… 42

図　版　目　次

図版１　調査地　上．Ｅ～Ｉ地区作業風景（西より）下.第１～３トレンチ完掘状況（西より）
図版２　土層断面　上．第１～２トレンチ北壁断面（南東より）下．第１～２トレンチ北壁断面（南東より）
図版３　土層断面　上．第３トレンチ落ち込み２北壁断面（南西より）下．第２トレンチ北壁断面（東より）
図版４　土層断面　上．第２トレンチ北壁断面ピット26検出状況（南より）下．第２トレンチ北壁断面土壙18検出状況（南より）
図版５　土層断面　上．Ａ地区北壁断面（東より）下．Ｂ地区北壁断面（南より）
図版６　土層断面　上．Ｄ地区北壁断面（南西より）下．Ｄ地区北壁断面ピット検出状況（南より）
図版７　土層断面　上．Ｄ・Ｅ地区北壁断面（西より）下．Ｄ・Ｅ地区北壁断面（南より）
図版８　土層断面　上．Ｆ地区北壁断面（南より）下．Ｇ地区北壁断面（南より）
図版９　土層断面　上．Ｈ・Ｉ地区北壁断面溝５検出状況（南より）下．Ｊ地区北壁断面（東より）
図版10　土層断面　上．Ｊ地区北壁断面（南より）下．Ｊ・Ｋ地区北壁断面落ち込み４検出状況（南より）
図版11　土層断面　上．Ｋ・Ｌ地区北壁断面（南より）下．Ｌ地区東壁断面（西より）
図版12　遺構（弥生・奈良時代）　上．第１～３トレンチ第１遺構面遺構検出状況全景（東より）下．第１～２トレンチ溝３検出状況（北より）
図版13　遺構（弥生・奈良時代）　上．第１トレンチ土壙10検出状況（南より）下．第２・３トレン

チ第１遺構面土壙17・18、第２遺構面土壙16検出状況（南西より）

図版14　遺構（弥生時代）　上．第１トレンチ溝４検出状況（南より）下．第２トレンチ第２遺構面土壙19・20、ピット26検出状況（南東より）

図版15　遺構（弥生時代）　上．第３トレンチ落ち込み２検出状況（東より）下．第３トレンチ落ち込み２弥生土器出土状況状況（南より）

図版16　遺構（弥生時代）　上．Ａ地区土壙１検出状況（南より）下．Ｂ地区溝２弥生土器出土状況（南より）

図版17　遺構（弥生時代）　上．Ｅ～Ｉ地区第１遺構面遺構検出状況（西より）下．Ｅ地区第２遺構面溝12、ピット40・41検出状況（南より）

図版18　遺構（弥生時代）　上．Ｆ地区第１遺構面土壙28、ピット34～38検出状況（南より）下．Ｆ地区第１遺構面溝11検出状況（南西より）

図版19　遺構（弥生時代）　上．Ｆ地区第２遺構面土壙29、溝13・14検出状況（南より）下．Ｆ地区第２遺構面ピット42・43、土壙50、溝14検出状況（南東より）

図版20　遺構（弥生時代）　上．Ｇ地区第１遺構面土壙26・27、ピット32・33検出状況（南より）下．Ｆ・Ｇ地区第１遺構面ピット34～38、土壙28、溝10検出状況（南西より）

図版21　遺構（弥生時代）　上．Ｇ地区第２遺構面土壙32、ピット47、溝15検出状況（南より）下．Ｇ・Ｈ地区第１遺構面ピット30・31、土壙23～25、溝９検出状況（南西より）

図版22　遺構（弥生時代）　上．Ｈ地区第１遺構面溝５他検出状況（南西より）下．Ｈ地区第１遺構面溝５弥生土器甕出土状況（南より）

図版23　調査状況　上．Ｈ地区第１遺構面溝５調査風景（南より）下．Ｋ・Ｌ地区調査状況（南西より）

図版24　溝１・２・５・11・12出土遺物（弥生時代後期）　上．壺（13・15）下．壺（１～12・14・16・17・20）

図版25　溝２・５・11・12出土遺物（弥生時代後期）　上．壺（18・19・21・22・35）下．鉢（35～40）．

図版26　溝２・５・11・12・14出土遺物（弥生時代後期）　上．甕（43・57・82）下．甕（42・44～56・59～61）

図版27　溝２・４・５・11・12出土遺物（弥生時代後期）　上．底部（62・63・66～73・76・77・79～81）下.甕蓋（64・65・74・75・78・83・100）

図版28　溝２・４・５・11・12・14出土遺物（弥生時代後期）　上．高杯（84～86・88～94）下．高杯（95～97・99・105）

図版29　溝５、落ち込み１出土遺物（弥生時代後期）　上．壺（108・110・111・117・118）下．

図版30　落ち込み１出土遺物（弥生時代後期）　上．壺（106・107・112～114・116・119～121）器台（109・122）壺蓋（134）下．甕（123・125～133）

図版31　落ち込み１出土遺物（弥生時代後期）　上．高杯（136～138・140～145）鉢（146・147）手焙形土器（153）下．鉢（149～151）底部（154～173）

図版32　溝２・５、落ち込み１・２出土遺物（弥生時代後期）　上．壺（15・111・118）甕（43・82）鉢（148）下．高杯（135）鉢（148・152）器台（139）

図版33　土壙５・６・７・９・27、ピット39出土遺物（弥生時代後期）　上．壺（174～182）底部（193～195）下．甕（183～185）高杯（196～201）底部（186～192）

図版34　包含層出土遺物（弥生時代後期）　上．壺（202～214・219・220）下．甕（221～230）鉢（234）壺蓋（247・248）

図版35　包含層出土遺物（弥生時代後期）　上．底部（231～233・235～245）下．甕（249～251）高杯（2252・253・256～259）鉢（254・255）

図版36　包含層出土遺物（弥生時代後期）　上．壺（260～263・269～271）甕（264～266）高杯（285～287）器台（267）甕蓋（284）底部（272・274・275・277～283）下．壺（288）甕（290）鉢（268）高杯（274）底部（276・289・291～293）

図版37　包含層出土遺物（弥生時代後期）　上．壺（295～300・302）底部（301・307～309）下．甕（303～306）高杯（313～317）底部（310～312）

図版38　包含層出土遺物（弥生時代後期・古墳～中世・石器）　上．土師器皿（318・319）杯蓋（320）杯身（321・322）下．砥石（323）石錘（324）石皿（325）

図版39　花粉化石

図版40　花粉化石

Ⅰ．はじめに

１．既往の調査と調査に至る経過

上小阪遺跡は、昭和38年に下水管埋設工事の際に弥生土器などが出土したことから遺跡の存在が知られた。その後、現在までに調査の規模は小さいが昭和49年に上小阪配水場の西側で試掘調査（第１次調査、今回の調査地点より800m付近）昭和50年（第２次調査、今回の調査地点の北に隣接）に上水管埋設工事等に伴う調査が実施されている。いずれも小規模なもので東大阪市内の他の遺跡に比べて、あまり実態のわかっていない遺跡といえる。

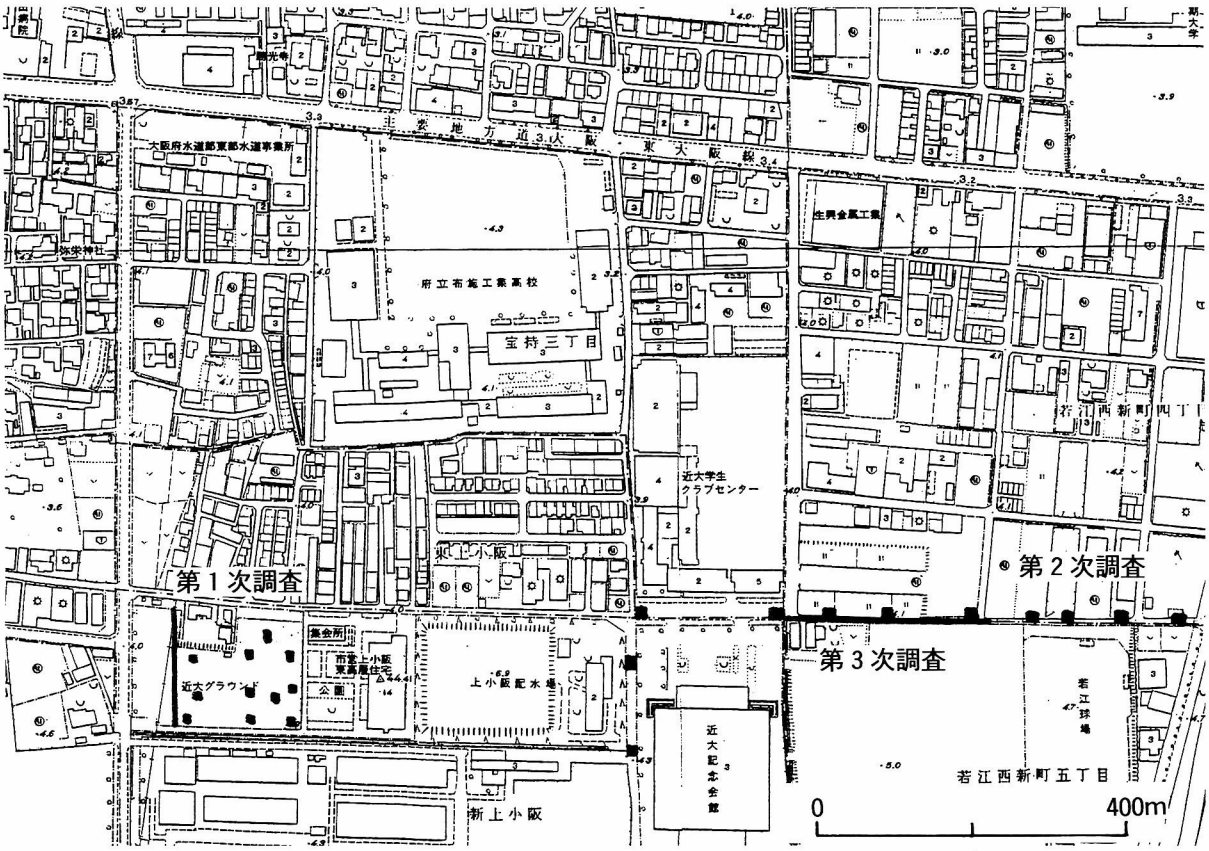
第１次調査[注1]では、現地表下２ｍから弥生時代後期の土器、1.5mから奈良時代から平安時代前期の須恵器・土師器、１ｍから鎌倉時代の瓦器・土師器が出土している。遺溝は未検出である。

第２次調査[注2]は、上水管埋設予定地内に平均1.5×４ｍのトレンチを５箇所設定して行なわれた。遺溝はやはり未検出であるが、現地表下１ｍから弥生時代後期の土器多量と0.8mより須恵器・土師器が少量出土している。

今回報告する第３次調査は、東大阪市下水道部が計画した下水管埋設工事に先だち東大阪市教育委員会が、試掘調査を行ったところ弥生土器などが検出されたため発掘調査を実施することとなった。工事予定地ではあるが、試掘で遺物が出土していない地点は、立会調査を実施することとなった。発掘調査および工事に並行して行う立会調査は、本協会が東大阪市教育委員会の指導のもとに東大阪市下水道部の委託を受けて行なった。

注１　下村晴文「上小阪遺跡試掘調査報告書」東大阪市遺跡保護調査会　1975年

注２　勝田邦夫「上小阪・瓜生堂・新家遺跡調査報告書」東大阪市遺跡保護調査会　1976年



第１図　既往の調査と本報告調査地点位置図

2．位置と環境

位置

上小阪遺跡は、旧大和川の自然堤防上に営まれた弥生時代後期の集落跡である。北に若江北遺跡、東に山賀遺跡、南に小若江遺跡などが存在し、弥生から古墳時代の遺跡密集地の一角を占める。

調査地周辺は旧河内国のほぼ中心にあたり河内平野の一画に位置する。近鉄奈良線八戸の里駅の南約1.3㎞、東大阪市上小阪と若江西新町４・５丁目を中心とした地（第１図）に所在する。遺跡の中心は上小阪配水場付近に想定されている。遺跡の範囲内には近畿大学学生クラブセンターや近畿大学記念館などが所在する。今回の調査地は、近畿大学グラウンドの北に隣接する市道の中央部分で、近畿大学記念館北東の四つ角から中央環状線までの間である。

環境

河内平野は縄文時代前期の海進により河内湾と呼ばれる海が侵入していた。この時代の終わり河内潟に変化し、本遺跡付近はその南縁部にあたる。弥生時代には河内湖に変わる。潟や湖には旧大和川の前身となる川が南から北に向かって幾筋も流れ込んでいた。湖の岸辺にはこれらの川によって運ばれた土砂によって低湿な地が広がり、流れ込む川は自然堤防や三角州を作り、背後には後背湿地が形成された。

人間活動の痕跡は、新家遺跡（本遺跡の北約２㎞）や山賀遺跡（南西に隣接）で少量の晩期中頃の土器が出土し、この頃から認められる。しかし、活動が本格化するのは弥生時代前期である。後背湿地が稲作の耕作地として当初から利用されたことが、若江北遺跡（北東に隣接）で検出された前期初頭の水田址や土器などの遺物から窺える。

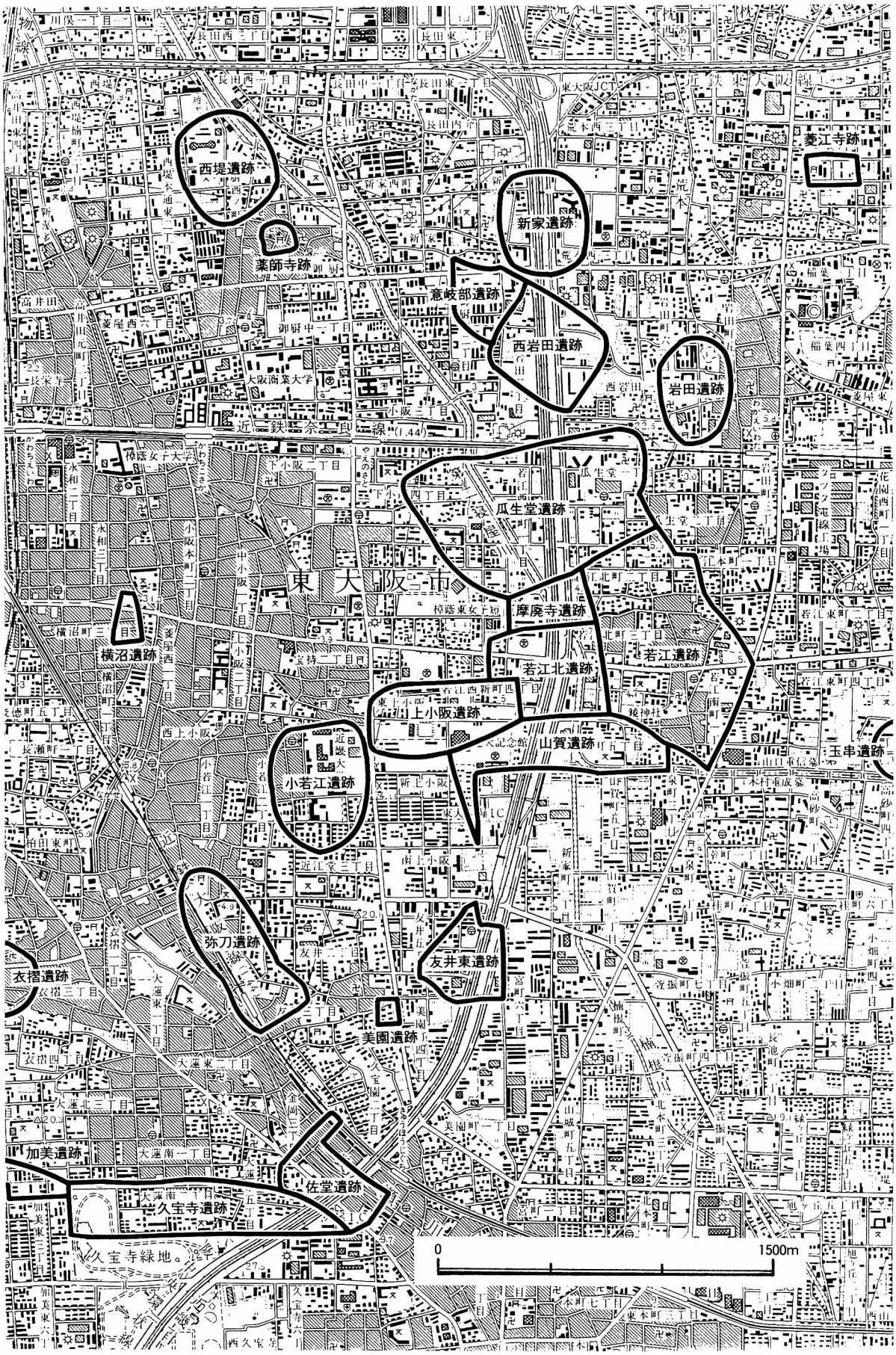
当時の居住地は、自然堤防や三角州上などの微高地を選んで営まれた。山賀遺跡や北約0.5㎞に所在する瓜生堂遺跡は河内湖南辺に営まれた中期の大規模集落であり、河内における中心的な集落の一つである。後の時代の遺跡のありようから見て大規模集落は単に農耕のみでは存在が困難で、背景には、川や湖を利用した水運がもたらす富などが考えられている。北東約0.5㎞に所在する巨摩廃寺遺跡から出土した「貨泉」はその証拠の一つと考えられている。

本遺跡は、現在の玉串川ないし楠根川の前身と考えられる川が形成した南北に延びる自然堤防上、標高５ｍ前後に立地する。山賀遺跡と瓜生堂遺跡の間にあって前・中期の大規模な集落が営まれた様子は知られない。弥生時代後期は、瓜生堂遺跡では南の巨摩廃寺遺跡（北東約0.7㎞）への集落の移動が明らかになっている。本遺跡の出現は、山賀遺跡に隣接しているため同遺跡から派生したとも考えられるが、瓜生堂遺跡の動きと関連する可能性もある。

古墳時代は、前代から続く水運と関係するものとして北約1.5㎞の西岩田遺跡（前期）から山陽・山陰地方の土器や、大型の倉庫と考えられる掘立柱建物（中期前半）などがある。中期後半と後期は仁徳記「堀江」の開削が伝えるように瀬戸内海への出口が狭められたためか、水運を窺わせる資料は今のところ知られていない。中期後半から後期にかけて小型低方墳が、巨摩廃寺遺跡（中期後半）と山賀遺跡（後期前半）で検出されている。この種の古墳は、集落に隣接して営まれるため付近に同時期の集落が存在すると予想されるが明らかでない。

飛鳥・奈良時代は、奈良時代後期の集落の一端が瓜生堂遺跡で、山賀遺跡と友井東遺跡（南約１㎞）で水田址が検出されている。寺院址は、若江遺跡（東約１㎞）で飛鳥時代後期創建の若江寺と白鳳時代に創建された西郡廃寺（南東約１㎞）が存在する。

その後、中世まで若江遺跡に存在した河内守護所（若江城）が示すように河内の中心部として位置し、栄えた地域ということができる。


西堤遺跡
菱江寺跡
新家遺跡
薬師寺跡
意岐部遺跡
西岩田遺跡
岩田遺跡
瓜生堂遺跡
東大阪市
摩廃寺遺跡
若江遺跡
若江北遺跡
横沼遺跡
上小阪遺跡
山賀遺跡
玉串遺跡
小若江遺跡
弥刀遺跡
友井東遺跡
衣摺遺跡
美園遺跡
加美遺跡
佐堂遺跡
久宝寺遺跡
久宝寺緑地
0
1500m

第２図　周辺遺跡分布図

II. 調査概要

今回の調査対象地は、下水道管埋設にともなうもので幅約1.5m、深さ約1.2m、長さ約270mの調査区であった。（一部立会調査区間を含む）調査は立会調査部分を含めて、盛土を機械を用いて掘削した後、床土以下を土留め用の鋼矢板を立て込み人力で掘り下げ行なった。

本遺跡は、過去に２回の調査が実施されているが、いずれも小規模なもので弥生時代後期の遺物包含層などが知られるに過ぎなかった。

今回の調査は、下水管埋設に伴う幅の狭い調査区であるが連続して長いトレンチを東西に設定するのと同じであるため、従前の調査では今一つ明らかでなかった遺構の存在や遺物包含層の広がりを確認することを主目的に実施した。

調査は、東大阪市若江西新町４丁目と５丁目を画す下水管埋設予定の道路上を平成１年６月５日～平成１年９月24日の間に実施した。本調査は、８月29日まで実施した。その後、８月31日からは、事前の試掘調査により遺物・遺構ともほとんど確認できないことが予想された中央環状線に隣接した範囲を、土層の観察と遺物などが出土した際には、本調査に切り替えることに備えて立会調査を実施した。調査面積は250m²（一部立会区間を含む）である。

調査地区の名称は、５m間隔で西から第１～３トレンチ、以西はＡ～Ｌ地区と仮称して進めた。

なお、今回は下水管埋設工事に伴う事前調査のため管が埋められるGL－1.2mまでを調査対象とし、以下については破壊から免れるため調査を実施していない。したがって、弥生時代中期以前の状況については明らかにできなかった。以下、層序・遺構の順に概要を記す。

１．層序

調査地全域にわたって上部と調査地の西側に、既設の水道管などの埋設管が存在した。このため上部の耕土・床土などが攪乱を受けていた。したがって今回確認できた層序は、床土の下部以下である。土層観察用のアゼは、前述のように東西の層序を確認することを中心にしたため、幅約50㎝ほどを北側の矢板に添って残した。調査範囲の幅が狭いため残りの部分をまず平面調査した後、アゼ部分の平面調査を実施した。残念なことに、土層観察用のアゼを調査範囲の関係で鋼矢板沿いに残すしかなかったため、雨あるいは湧水により土層観察以前に崩落した部分があった。

土層の詳細については、土層断面図（第４～６図）を参照されたい。

第１層　茶褐色砂混じり粘土（床土）　厚さ４㎝以上で既設管による攪乱を免れた場所にだけ部分的に残る。上面で耕作に伴うと考えられる溝・杭を検出。

第２層　赤褐色～茶褐色シルト質粘土　厚さ８㎝前後で須恵器・土師器少量含む。中央環状線より西100m付近より以西に存在。奈良時代と考えられる第１遺構面のベースになる層である。須恵器は、６世紀後半のものも見られ、古墳時代後期から奈良時代の包含層と考えられる。

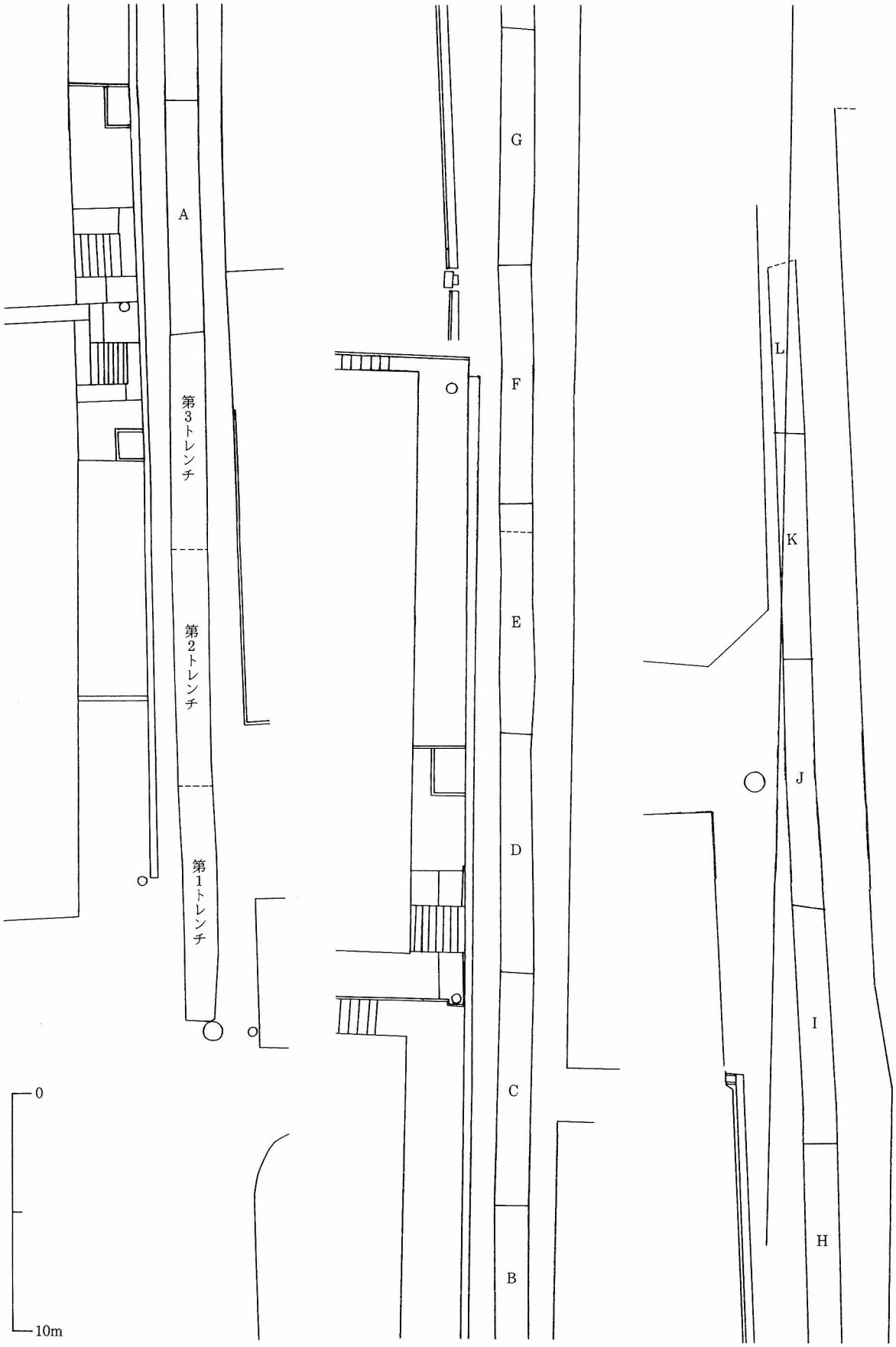
第３層　濃茶褐色シルト質粘土　厚さ10㎝前後で弥生土器少量含む。調査区西半に部分的に存在。弥生時代後期の包含層。

第４層　黄灰色粘土　厚さ10㎝前後で調査区の西半の中央付近に存在。上面で弥生時代後期の溝・柱穴など検出。弥生時代後期の土器少量含む。

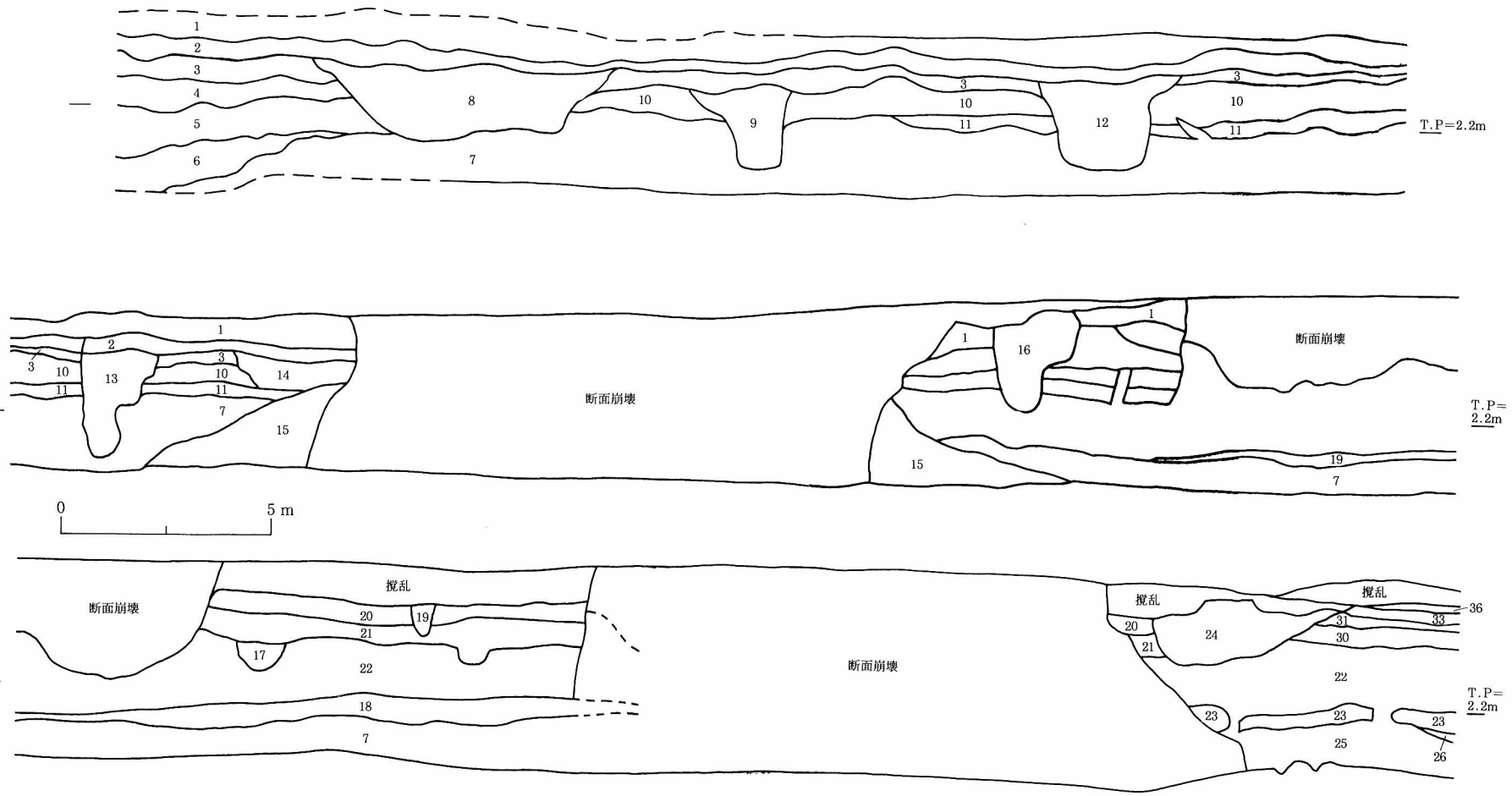
第５層　黄褐色シルト質粘土から黄褐色粘土　厚さ20～30㎝で調査区全体にひろがる。上面で弥生時代後期の溝・柱穴・土壙など検出。

第６層　黄灰色シルト～細砂　厚さ60㎝前後で以下、砂・粘土の互層となる。

以下については前述のように埋設管の深さの関係で未調査。

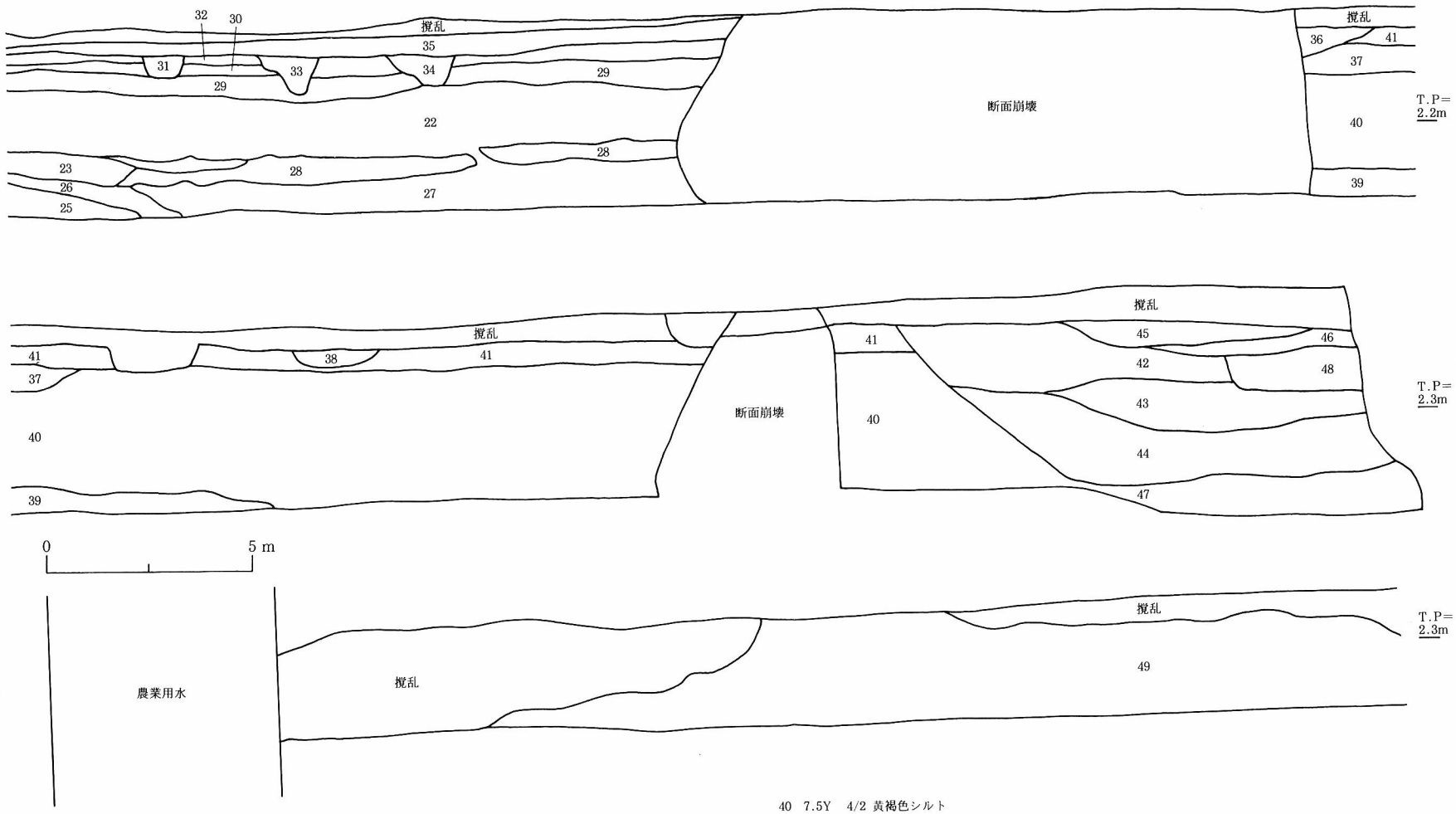


第３図　調査地区割図



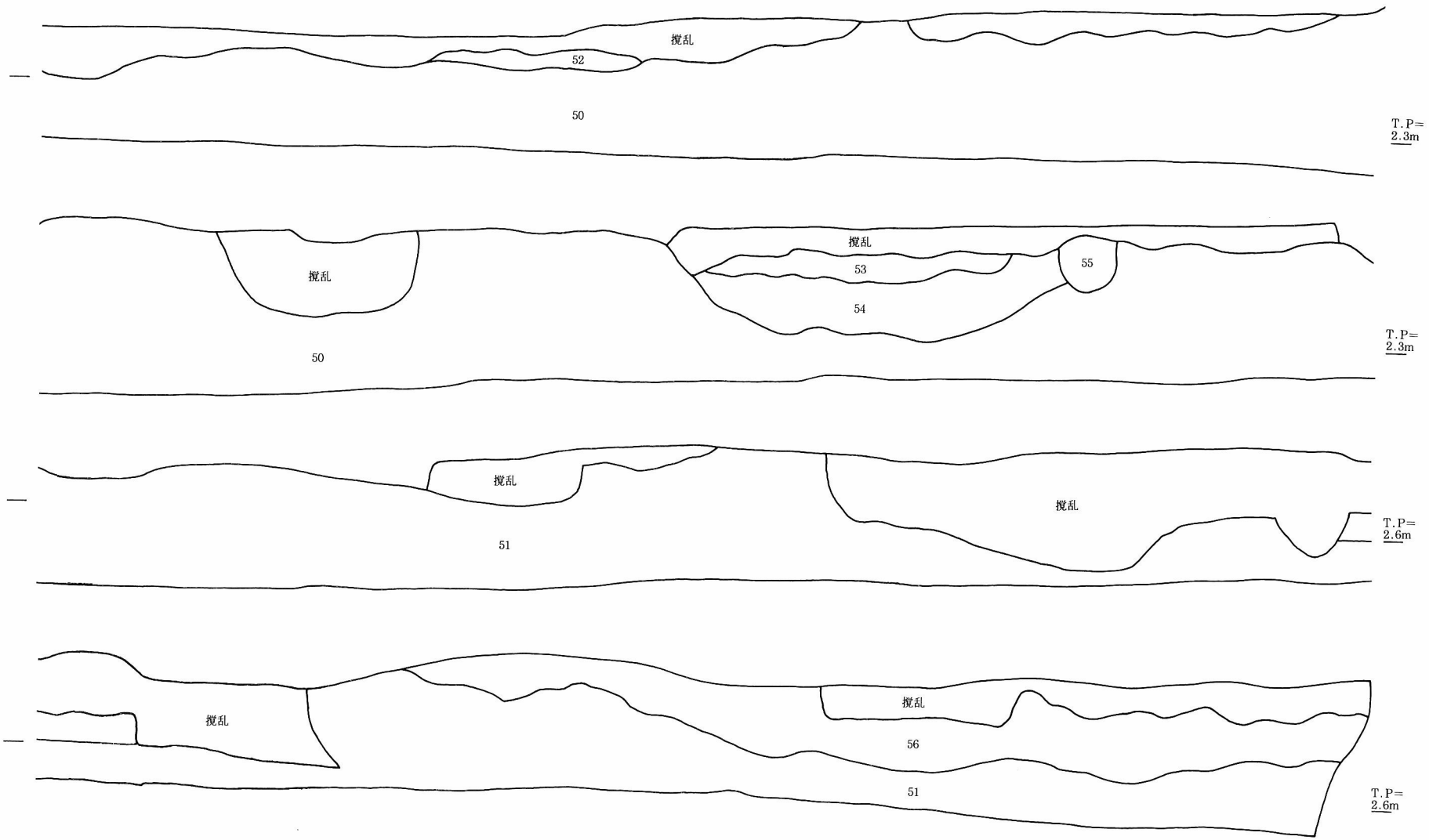
第4図　土層断面図

1			茶褐色砂質粘土
2	7.5YR	4/4	黄褐色砂質粘土
3	7.5Y	5/2	黄灰色粘土
4	5Y	5/3	黄褐色粘土
5	5Y	4/2	灰色シルト
6	10G	4/1	青灰色砂混じり粘土
7	5BG	5/1	青灰色シルト～細砂
8			灰黒色シルト質粘土に2cm前後の黄灰色粘土ブロック　炭多量
9	2.5Y	4/2	粘土に灰黒色粘土ブロック
10	2.5Y	4/6	黄灰色シルト質粘土
11	7.5Y	4/2	灰褐色シルト質粘土
12	5Y	2/2	暗灰色シルト質粘土　炭多量
13	10YR	2/1	
14	10Y	4/1	暗黄褐色シルト質粘土
15	10GY	4/1	青灰色細砂
16	10G	5/1	青灰色シルト質粘土（近世）
17	7.5Y	5/2	暗黄褐色シルト質粘土
18	10G	4/1	
19	7.5Y	5/2	暗黄褐色シルト質粘土
20	2.5Y	5/2	黄褐色シルト
21	118と同じ		
22	7.5Y	4/2	黄灰色シルト
23	2.5GY	4/1	灰色シルト恥李粘土
24	10YR	5/2	暗赤褐色シルト質粘土
25	2.5GY	4/1	茶灰色細砂
26	10BG	5/1	灰色シルト質粘土
27	5GY	5/1	灰色砂混じり粘土
28	5GB	5/1	灰色粘土
29	2.5Y	5/2	茶褐色シルト
30	7.5Y	4/2	黄褐色シルト
31	2.5Y	4/1	暗赤褐色シルト質粘土
32	2.5Y	3/2	暗赤褐色シルト
33	129と同じ		
34	129と同じ		
35	5Y	3/1	暗赤褐色シルト質粘土
36	5Y	3/1	暗茶褐色シルト質粘土



第5図　土層断面図

22　7.5Y　4/2　黄灰色シルト
23　2.5GY　4/1　灰色シルト恥李粘土
24　10YR　5/2　暗赤褐色シルト質粘土
25　2.5GY　4/1　茶灰色細砂
26　10BG　5/1　灰色シルト質粘土
27　5GY　5/1　灰色砂混じり粘土
28　5GB　5/1　灰色粘土
29　2.5Y　5/2　茶褐色シルト
30　7.5Y　4/2　黄褐色シルト
31　2.5Y　4/1　暗赤褐色シルト質粘土
32　2.5Y　3/2　暗赤褐色シルト
33　129と同じ
34　129と同じ
35　5Y　3/1　暗赤褐色シルト質粘土
36　5Y　3/1　暗茶褐色シルト質粘土
37　2.5Y　5/2　茶褐色シルト
38　5Y　3/2　茶褐色シルト質粘土
39　10BG　4/1　灰色粘土
40　7.5Y　4/2　黄褐色シルト
41　2.5Y　4/3　黄褐色シルト
42　2.5Y　2/1　黒褐色シルト質粘土
43　N　3/　黒灰色シルト質粘土
44　2.5GY　2/1　暗灰色シルト質粘土（焼木）自然木・土器多数含む
45　7.5YR　4/2　灰褐色粘土
46　2.5Y　4/2　灰褐色粘土
47　7.5Y　4/2　灰色シルト質
48　2.5GY　4/1　灰褐色シルト質粘土
49　黄灰色中粒砂



49　黄灰色中粒砂
50　茶褐色砂混じり粘土
51　上部30cmは茶褐色中粒砂、下部30cmは青灰色細粒砂
52　5GY 5/1 灰色砂混じり粘土
53　5Y2.5GY 4/2 暗茶褐色砂混じり粘土
54　5Y　4/1 暗茶灰色中粒砂（暗茶灰色シルト質粘土のブロック含む）
55　10YR　3/3 赤褐色混じり粘土
56　5Y　4/2 落ち込み5　灰色砂混じりシルト質粘土　鉄分沈着多

0　5 m

第6図　土層断面図

２．遺構

今回検出した遺構は、先に層序の項で触れたように近世以降の溝・杭（耕作に伴う）奈良時代と考えられる土壙、弥生時代後期の土壙・柱穴・溝などである。以下、古い時期の遺構から順に記述するが近世以降の耕作に伴うものの説明は割愛する。

弥生時代後期の遺構「第１遺構面」

今回の調査で検出した遺構の中心を占める。調査区の中央付近Ｅ～Ｈ地区で、２面の遺構面を確認したがそれ以外は１面である。以下、主要な溝について説明する。

溝

８条の溝を確認した。調査範囲が狭いため土壙の可能性も残る。

溝２

Ｂ地区で検出した。幅1.8m、深さ0.4mで断面形は皿状を呈し、南から北に走る溝である。東半分を農業用水路で破壊されている。堆積土は、黄褐色砂質粘土１層である。弥生土器が出土した。

溝４

第１トレンチで検出した。幅1m、深さ0.1mで断面形は皿状を呈し、南西から北東に走る溝である。堆積土は、黄褐色シルト質粘土である。遺物は出土していない。

溝５

Ｈ・Ｉ地区の境で検出した。今回の調査で検出した中では最大の規模をもつ。幅2.5m以上、深さ１mで断面形は皿状を呈し、南から北に走る溝である。東半分を農業用水路で破壊されている。堆積土は、７層に別れる。各層より弥生土器が出土したが下層（遺物観察表では３層）と上層（遺物観察表では１層）からの出土が多かった。

溝11

Ｆ地区で検出した。上層の遺構である。幅0.7m、深さ0.4mで断面形はコの字状を呈し、南から北に走る。南端は調査区外に延び堆積土は、１層で暗灰色シルト質粘土である。弥生土器が出土した。

溝12

Ｅ地区で検出した。上層の遺構である。幅1.2m、深さ0.15mで断面形は皿状を呈し、南から北に走る溝である。堆積土は、黄褐色シルト質粘土である。弥生土器が出土した。

土壙

調査範囲の関係で今回は土壙としたが、溝や柱穴になるものも存在する可能性が高い。

土壙５

Ｅ地区で土壙６の東に隣接して検出した。平面形が三角形を呈すると思われる。溝になる可能性もある。最大長辺1.5m以上、最小短辺0.7mで最大の深さは、0.1mである。断面形は、皿形を呈す。堆積土は、黒褐色シルト質粘土１層である。弥生土器が出土した。

土壙６

Ｅ地区で検出した。平面形が楕円ないし不整円形を呈すると思われる。最大長辺1.6m以上、最小短辺1.5mで最大の深さは、0.1mである。断面形は、皿形を呈す。堆積土は、オリーブ黒色シルト質粘土１層である。弥生土器が出土した。

土壙７

Ｄ地区で検出した。平面形が楕円ないし不整円形を呈すると思われる。最大長辺1.5m以上、最小短辺1.4mで最大の深さは、0.1mである。断面形は、皿形を呈す。堆積土は、灰オリーブ色粗粒砂混じりシルト質粘土１層である。弥生土器が出土した。

土壙９

Ｄ地区で検出した。平面形が不整円形を呈し、最大長辺1.5m以上、最小短辺0.45mで最大の深さは、0.15mである。断面形は、皿形を呈す。堆積土は、暗褐色粗粒砂混じりシルト質粘土１層である。弥生土器が出土した。

土壙29

Ｆ地区で検出した。平面形が楕円ないし不整円形を呈すると思われる。最大長辺1.3m以上、最小短辺0.2mで最大の深さは、0.1mである。断面形は、皿形を呈す。堆積土は、暗オリーブ褐色シルト質粘土１層である。弥生土器が出土した。

土壙31

Ｆ地区で検出した。上面遺構である。平面形が楕円形を呈する。最大長辺0.4m、最小短辺0.2mで最大の深さは、0.4mである。断面形は、２段のＵ字状を呈す。堆積土は、青灰色シルト質粘土１層である。土壙としたが、断面形から柱穴の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。

ピット

掘立柱建物の柱穴と考えられるピットを第１・２トレンチとＤ～Ｈ地区で検出した。柱根の遺存は認められなかった。

長軸0.6m短軸0.4m平面形が楕円形を呈し、深さ0.6m堆積土が黒色シルト質粘土のピット70が最大で、大半は径0.2m前後の平面形が円ないし楕円形を呈し、深さ約0.2m程度のものである。堆積土は、暗黄褐色シルト質粘土などである。Ｇ・Ｈ地区では上下２面の遺構面とも確認された。

調査範囲の関係で建物の規模は復元できない。

落ち込み

形態が今一つ不明なため、落ち込みとした遺構を５個所で確認した。この中には、自然の窪地に堆積した包含層の可能性のあるものも存在する。

落ち込み１

Ｂ地区で検出した。幅５ｍ、深さ0.7mで断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は、７層に別れる。各層より弥生土器が出土したが下層の黄褐色砂混じり粘土・黄灰色砂質粘土と上層の黄褐色シルト・茶褐色シルトからの出土が多かった。

落ち込み２

第３トレンチで検出した。幅2.1m、深さ0.5mで断面形は逆台形を呈し堆積土は、下層より暗緑灰色シルト混じり粘土、灰色シルト混じり粘土、明黄褐色細砂の３層に別れる。弥生土器が出土した。

これらの遺構は、調査区西端の第１トレンチから中央環状線の西約110m付近のＪ地区付近まで存在する。この付近が集落の一画にあたると考えられる。特に、第１・２トレンチとＤ～Ｈ地区遺構の密度も高いことからこの付近が集落の中心部分に近いところと言えるであろう。

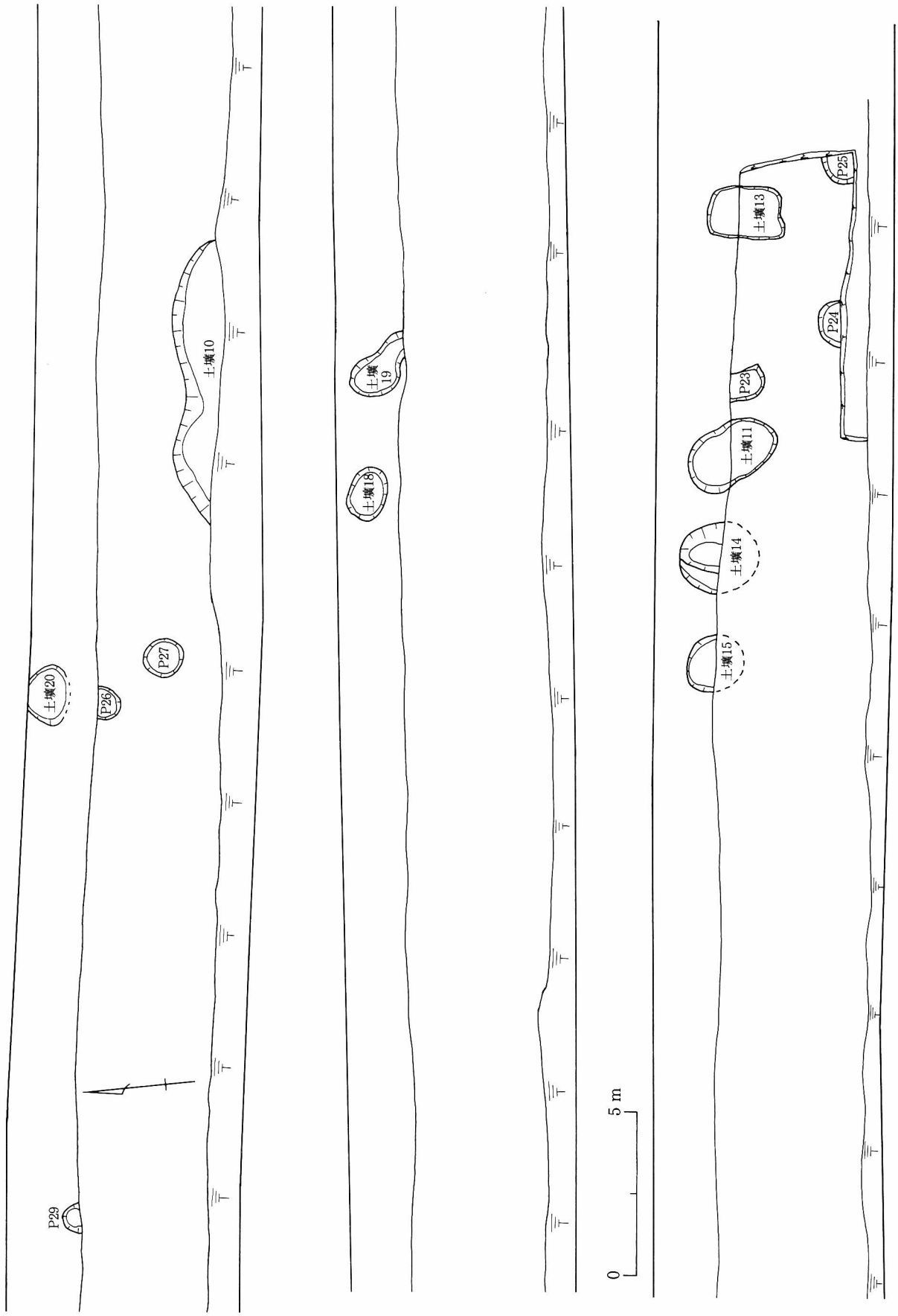
奈良時代の遺構「第２遺構面」

第１トレンチ～Ｂ地区付近の約20mの間に土壙が散漫に存在する。

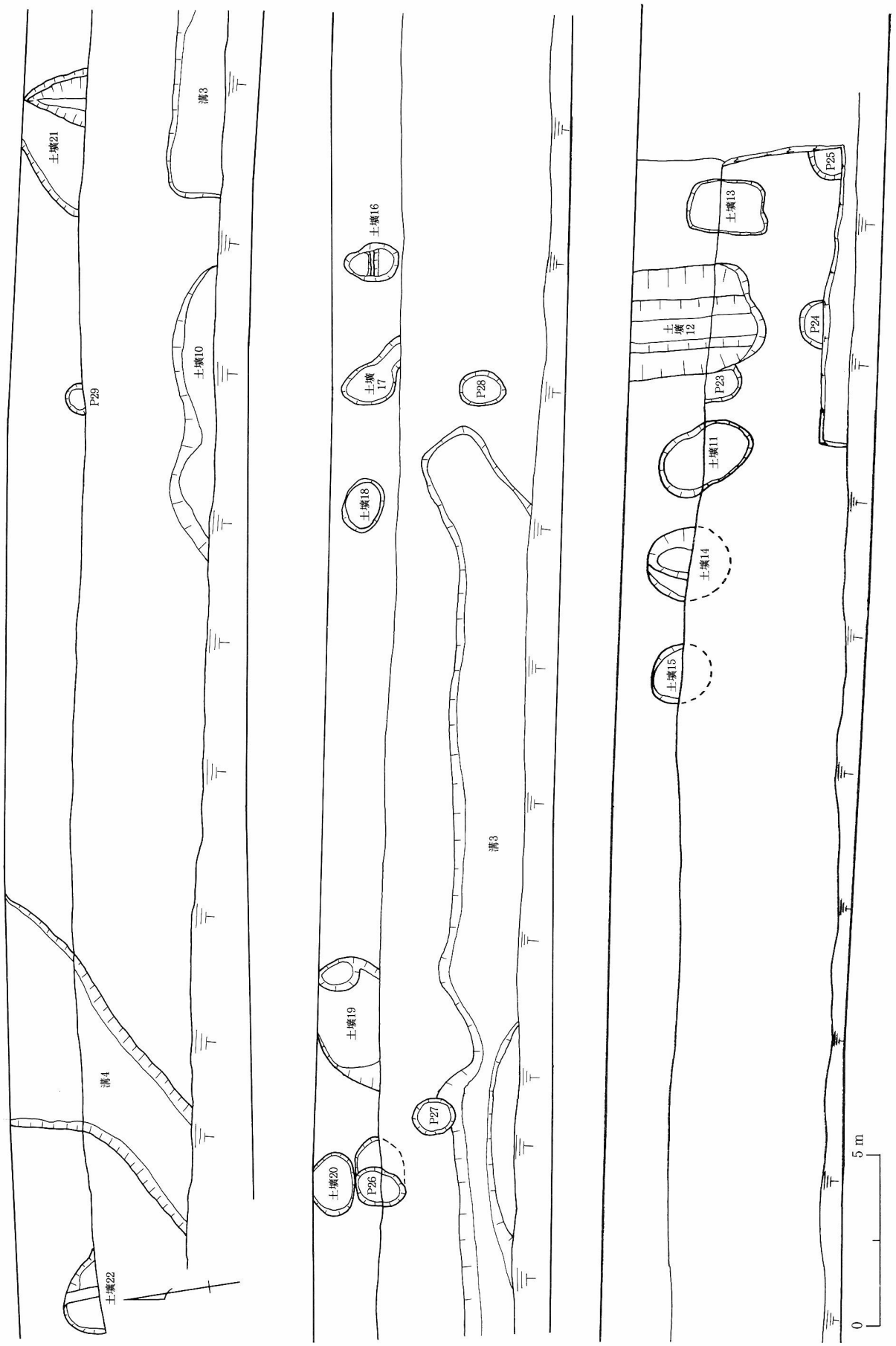
土壙

長軸40㎝前後、短軸30㎝前後、深さ20㎝前後のものが多い。遺構内堆積土は、すべて灰色シルトである。土壙内より遺物はほとんど出土しなかった。土壙の上部は、直上に床土が存在することから後世に削平されたものと考えられる。

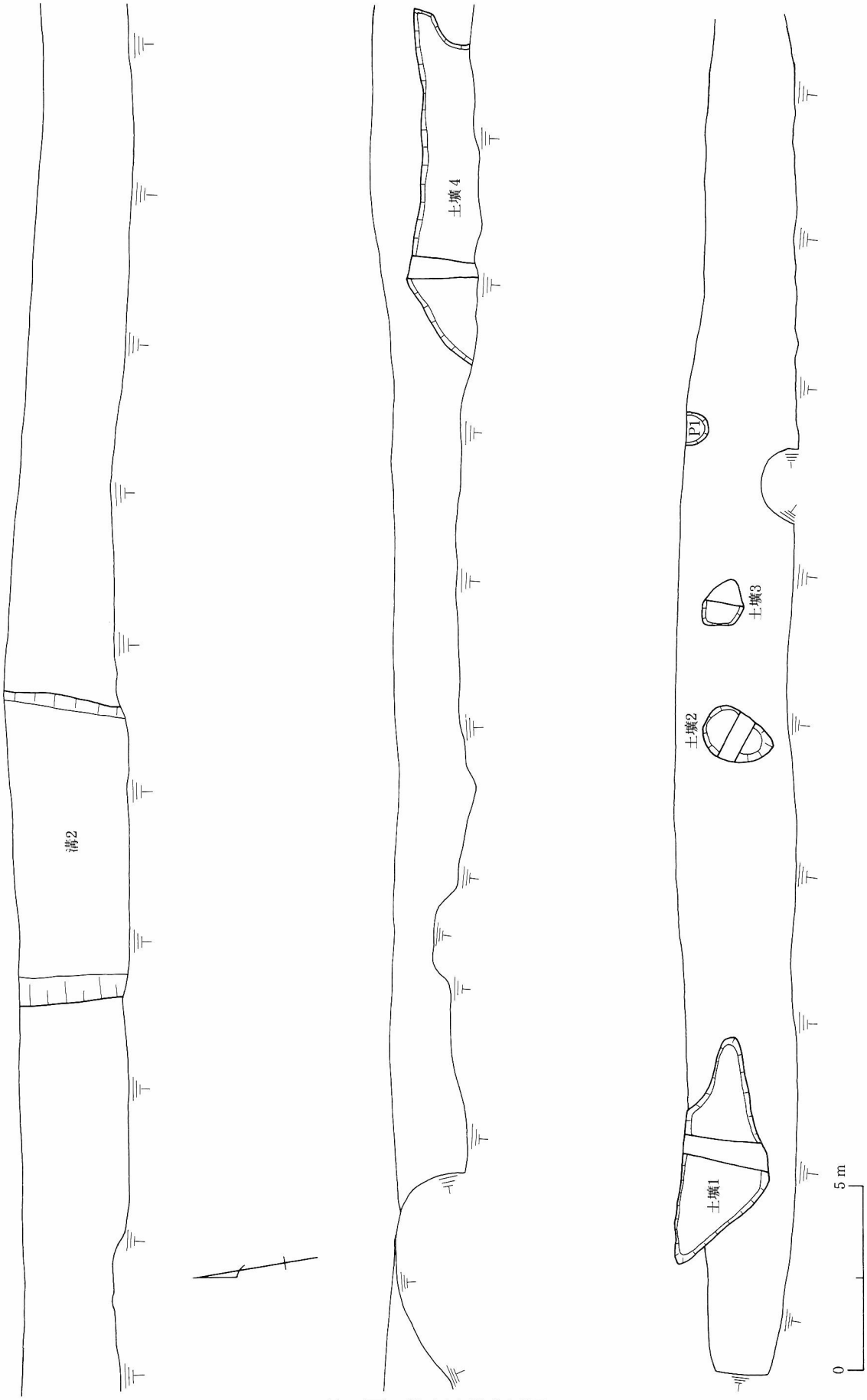
遺構が密集しておらず、遺物もほとんど認められないことから今回の集落の縁辺にあたると考えられる。おそらくこの時代の集落は、今回の調査地の西側に存在するものと思われる。


土壙20
P29
P26
P27
土壙10
土壙18
土壙19
0
5 m
土壙15
土壙14
土壙11
P23
土壙13
P24
P25

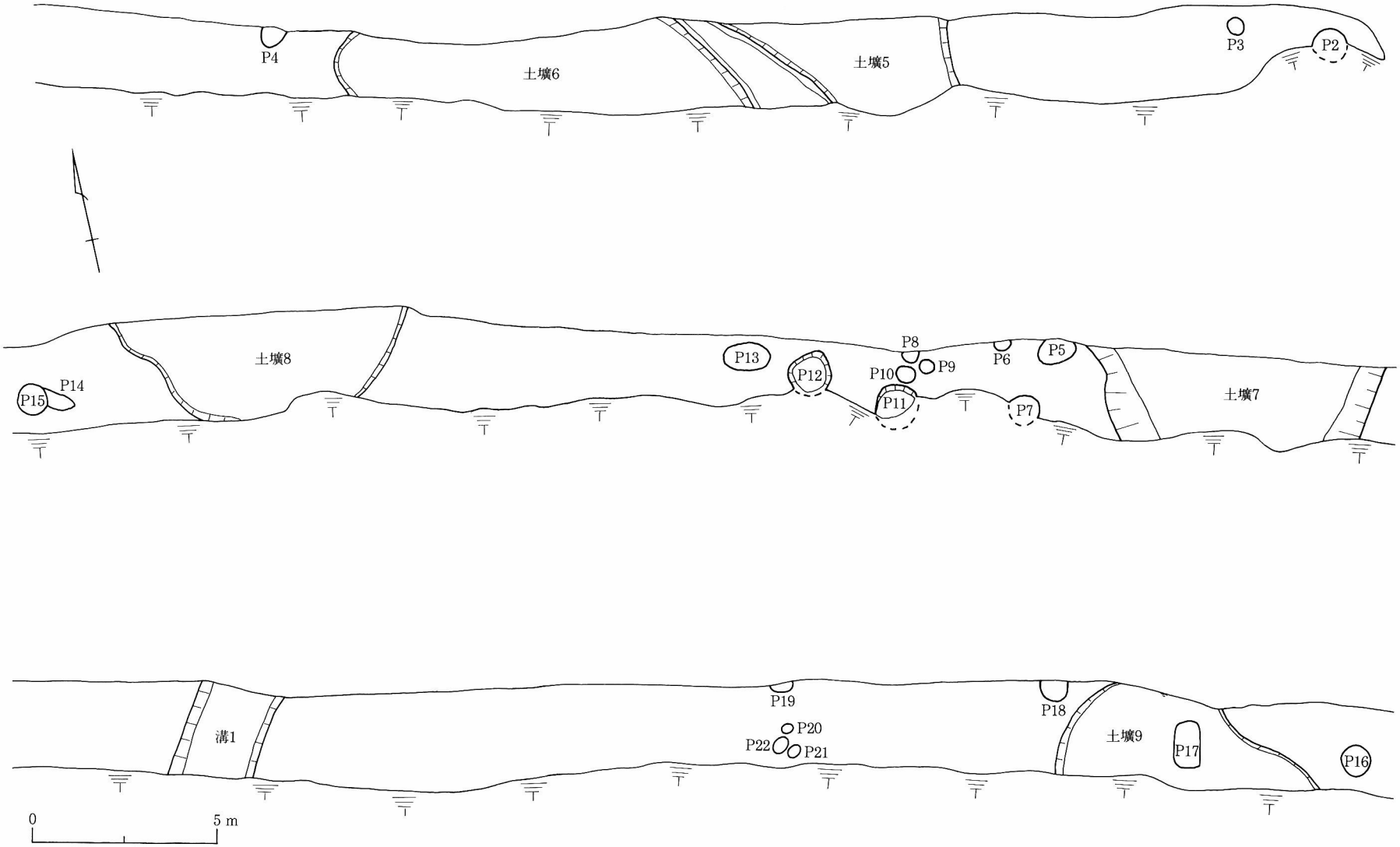
第７図　検出遺構実測図


土壌21
溝3
土壌10
P29
溝4
土壌22
土壌16
土壌17
P28
土壌18
溝3
土壌19
P27
土壌20
P26
土壌13
P25
土壌12
P24
P23
土壌11
土壌14
土壌15
5 m
0

第８図　検出遺構実測図



第９図　検出遺構実測図



第10図　検出遺構実測図

3．出土遺物

今回の調査では、コンテナ20個分の弥生時代後期から近代までの遺物が出土した。出土した遺物の大半は、弥生時代後期の土器でコンテナ19個分である。他に、少量の須恵器・土師器・瓦器・石器などが見られるが細片が多い。近代の遺物は割愛し、中世以前の遺物について古い時期から遺構・包含層の順に、小破片であっても可能なもの（口縁部・底部）は全て図化し説明する。

なお、本文中では概要を記すこととし、個々の遺物の詳細については観察表を参照されたい。また、弥生土器のうち生駒西麓産と報告するものは、胎土に角閃石を含み茶褐色を呈するものである。これ以外の土器の中には、本遺跡で作られたものや、他地域で生産されたものも含まれると思われるが識別が困難であるため一括した。

遺構出土遺物

弥生土器［第11～16図、図版24～33］

溝・落ち込み・土壙・ピットから出土しているが、溝から出土したものが多い。出土した器種は壺・長頸壺・台付鉢・鉢・手焙形土器・甕・甕蓋・高坏である。

溝出土土器

最も規模の大きかった溝５を中心に弥生土器が出土している。以下、図化できた土器の多い順（出土量に比例している）に概説する。

溝５

壺Ａ（２点）・Ｃ（３点）・Ｄ（１点）Ｇ（１点）、鉢Ｂ（２点）、甕Ｂ（７点）・Ｃ（10点）、大型甕Ａ（１点）、高杯Ｂ（２点）Ｃ（１点）と壺底部（６点）甕底部（４点）高杯脚部（４点）計44点が図化できた。うち生駒西麓産は、20点である。

図15の壺Ｇや図56の甕Ｃにみられる受け口状口縁は、生駒山西麓の上六万寺遺跡出土品と共通の要素である。

溝２

壺Ａ（１点）・Ｃ（１点）Ｇ（２点）、長頸壺Ｂ（２点）、台付鉢（１点）、鉢Ｂ（２点）、手焙形土器（１点）、甕Ｂ（４点）Ｃ（４点）、高杯Ｂ（２点）小型甕（１点）、甕蓋（１点）と壺体部（１点）壺底部（３点）甕底部（１点）高杯脚部（２点）計29点が図化できた。うち生駒西麓産は、14点である。

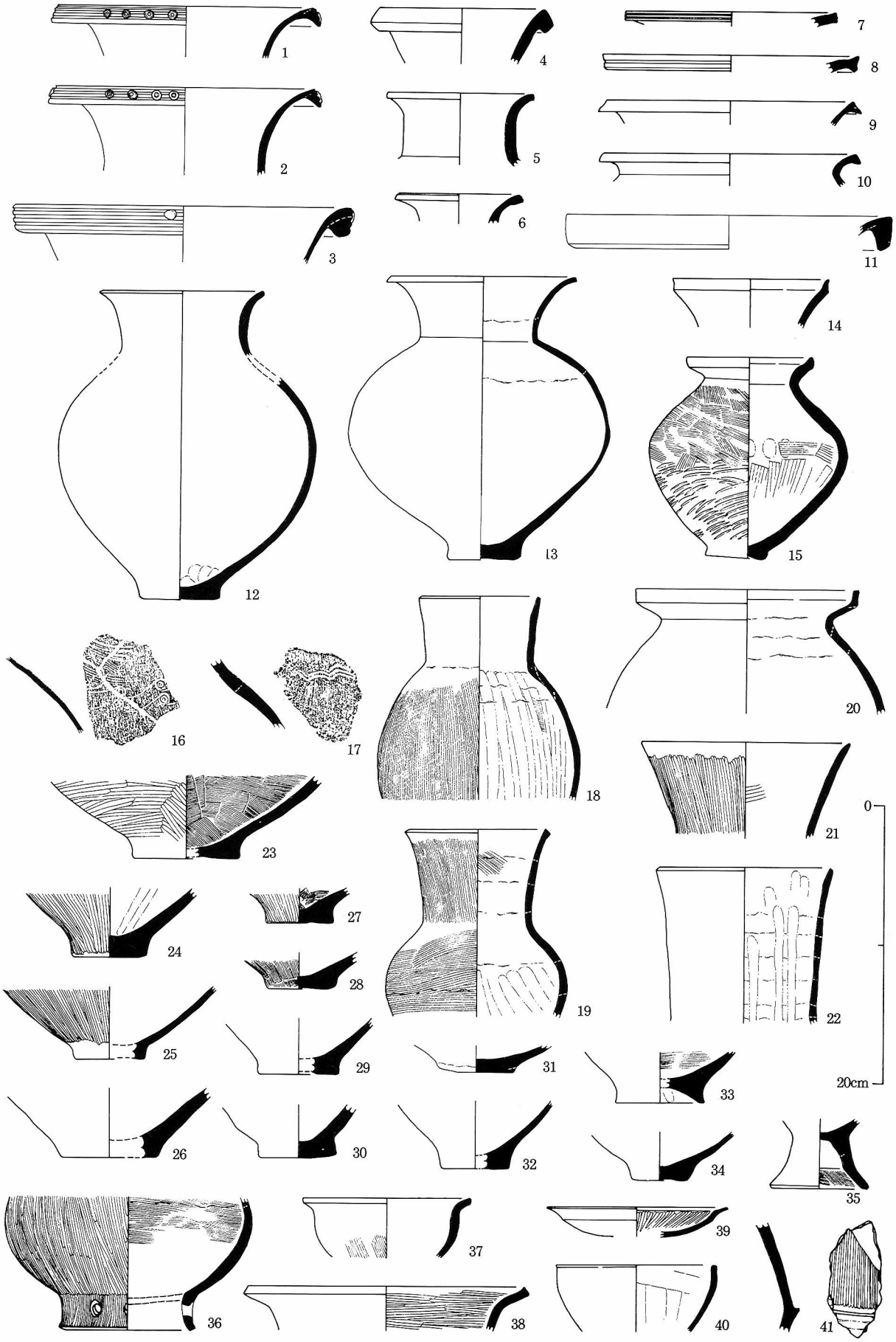
図20のような受け口状口縁の壺Ｇが存在する。また、図105のような円盤充塡の手法を用いた高杯の脚部も残存している。図82の小型甕は、生駒西麓産で大きさから実用品というよりも祭祀用の土器と考えておきたい。図41の手焙形土器は、体部の小破片であるが広範囲の地域で見られるものであり注意しておきたい。図83の甕蓋や図36の台付鉢もこの時期としては類例の少ないものである。

溝11

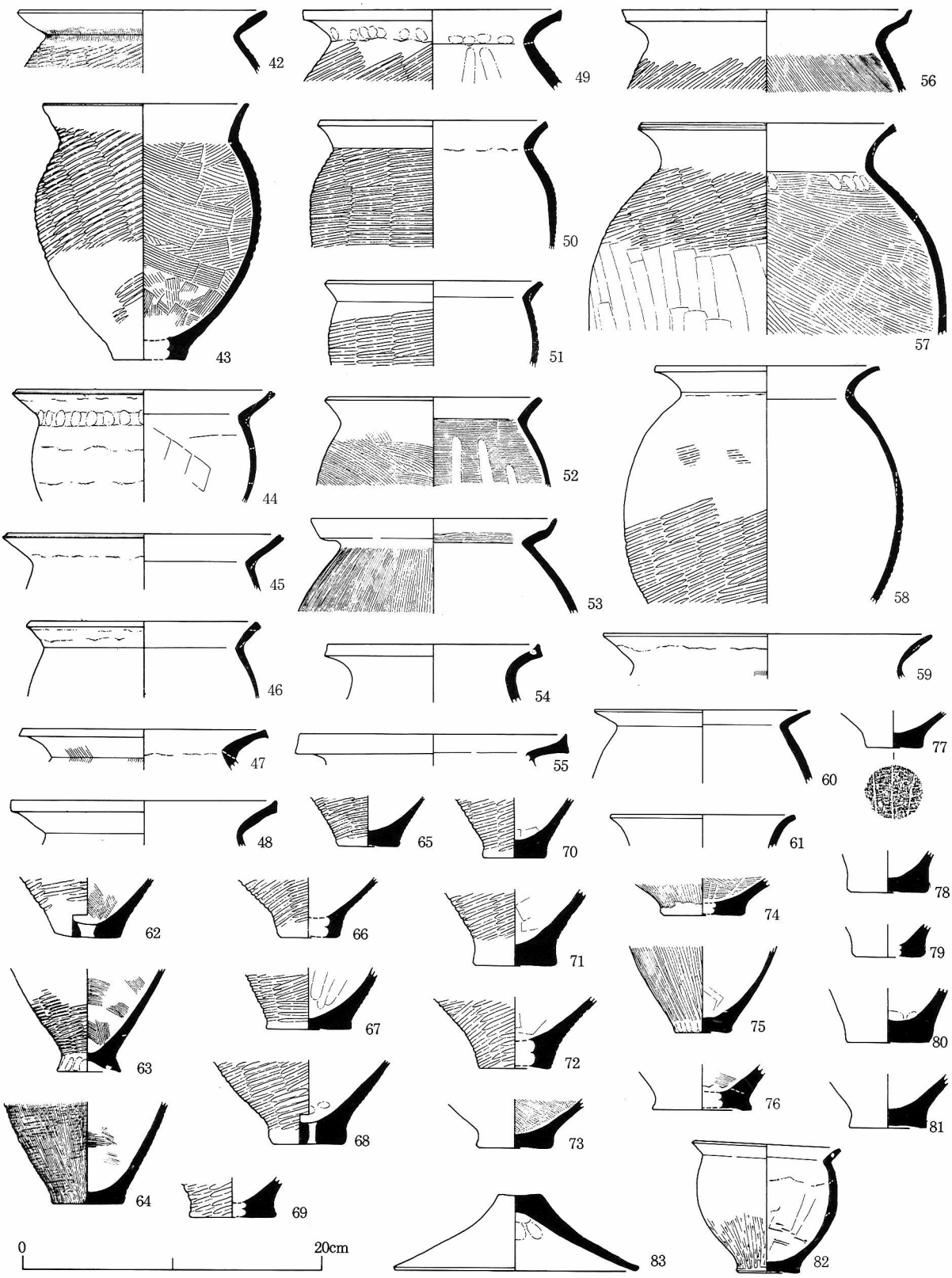
壺Ａ（２点）・Ｃ（１点）、長頸壺Ｂ（２点）、甕Ｃ（４点）、高杯Ｂ（３点）と壺体部（１点）壺底部（２点）甕底部（１点）高杯脚部（３点）の計19点が図化できた。うち生駒西麓産は、８点である。壺体部（図16）の外面には櫛描き文および、ヘラ描沈線と竹管文の組み合わせにより渦文が描かれている。

溝12

壺Ａ（１点）・Ｃ（１点）、台付鉢（１点）、甕Ｂ（１点）Ｃ（１点）、高杯Ｂ（１点）と壺底部（１点）高杯脚部（１点）計８点が図化できた。うち生駒西麓産は、４点である。



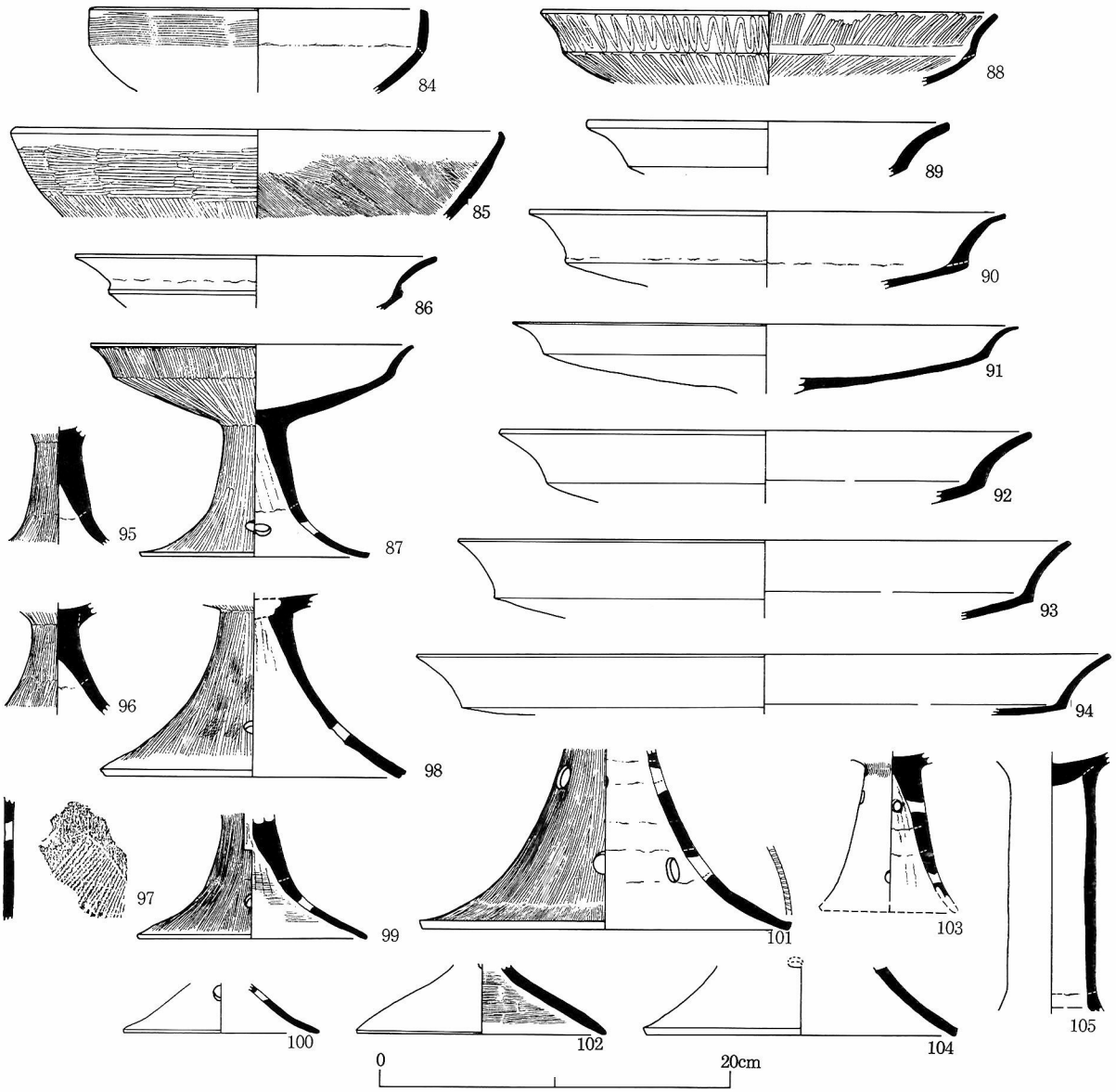
第11図　溝出土弥生土器実測図



第12図　溝出土弥生土器実測図

その他の溝

溝14から甕Ｂ２点（いずれも生駒西麓産）高杯脚部１点、溝１から壺Ａ１点（生駒西麓産）、溝４から高杯Ｂ１点と、この時期にしては珍しい木葉底の甕底部１点、溝10から高杯Ｂ１点が出土土器のうちから図化できた。



第13図　溝出土弥生土器実測図

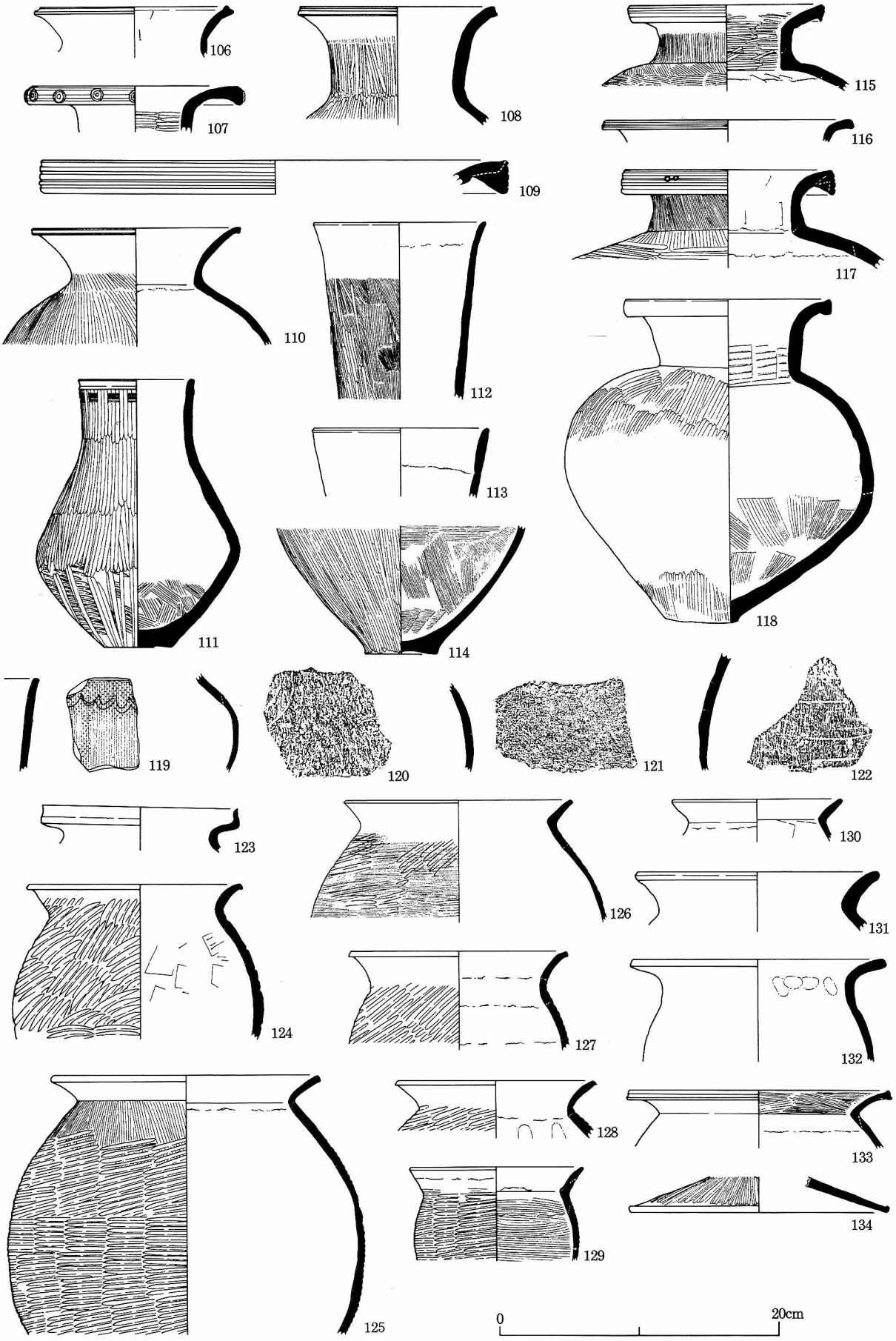
落ち込み出土土器

遺構の項でも述べたが形態が今一つ不明なため、落ち込みとした遺構からも土器が出土した。落ち込みとした5個所のうちで遺物が出土したのは、落ち込み1と2である。落ち込み2は、体部上位にヘラによる列点文を施す壺体部（1点）を図示できただけで他は、1がほとんどである。

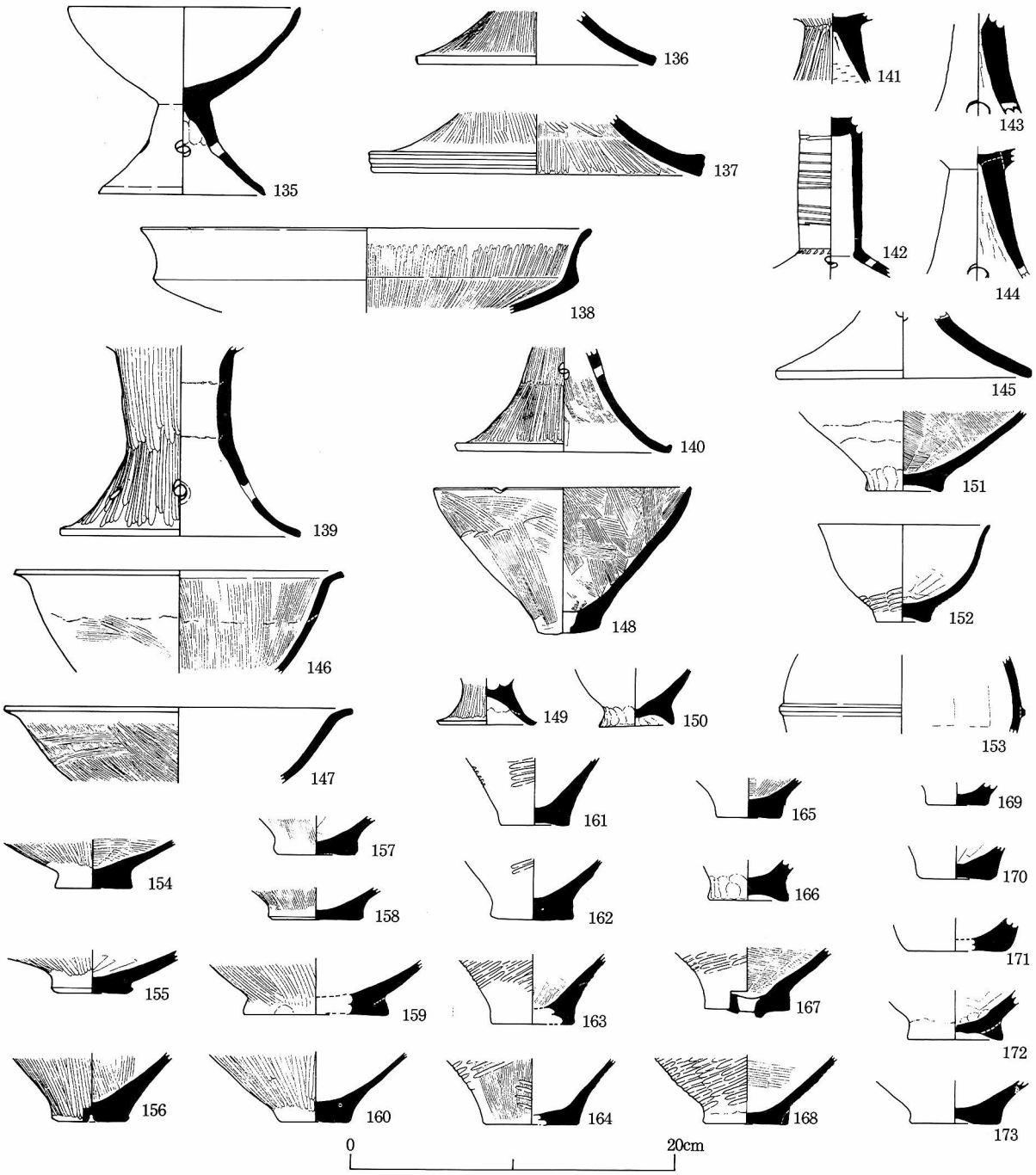
落ち込み1

壺A（2点）・C（4点）・D（3点）、長頸壺B（3点）、鉢B（3点）、台付鉢（1点）、手焙形土器（1点）、器台（1点）、甕B（5点）・C（6点）、甕蓋（1点）、高杯B（1点）C（1点）と壺底部（4点）壺口縁部（1点）壺体部（1点）頸部（1点）甕底部（10点）壺・甕底部（7点）高杯脚部（8点）鉢底部（2点）計66点が図化できた。うち生駒西麓産は、29点である。

図119の長頸壺の口縁部は、外面にヘラによる波状文を描きベンガラと思われる朱彩を施している。祭祀用の土器であろうか。図98の高杯脚部は円盤充塡で外面にヘラによる直線文を施す古い要素を残すものである。



第14図　落ち込み出土弥生土器実測図



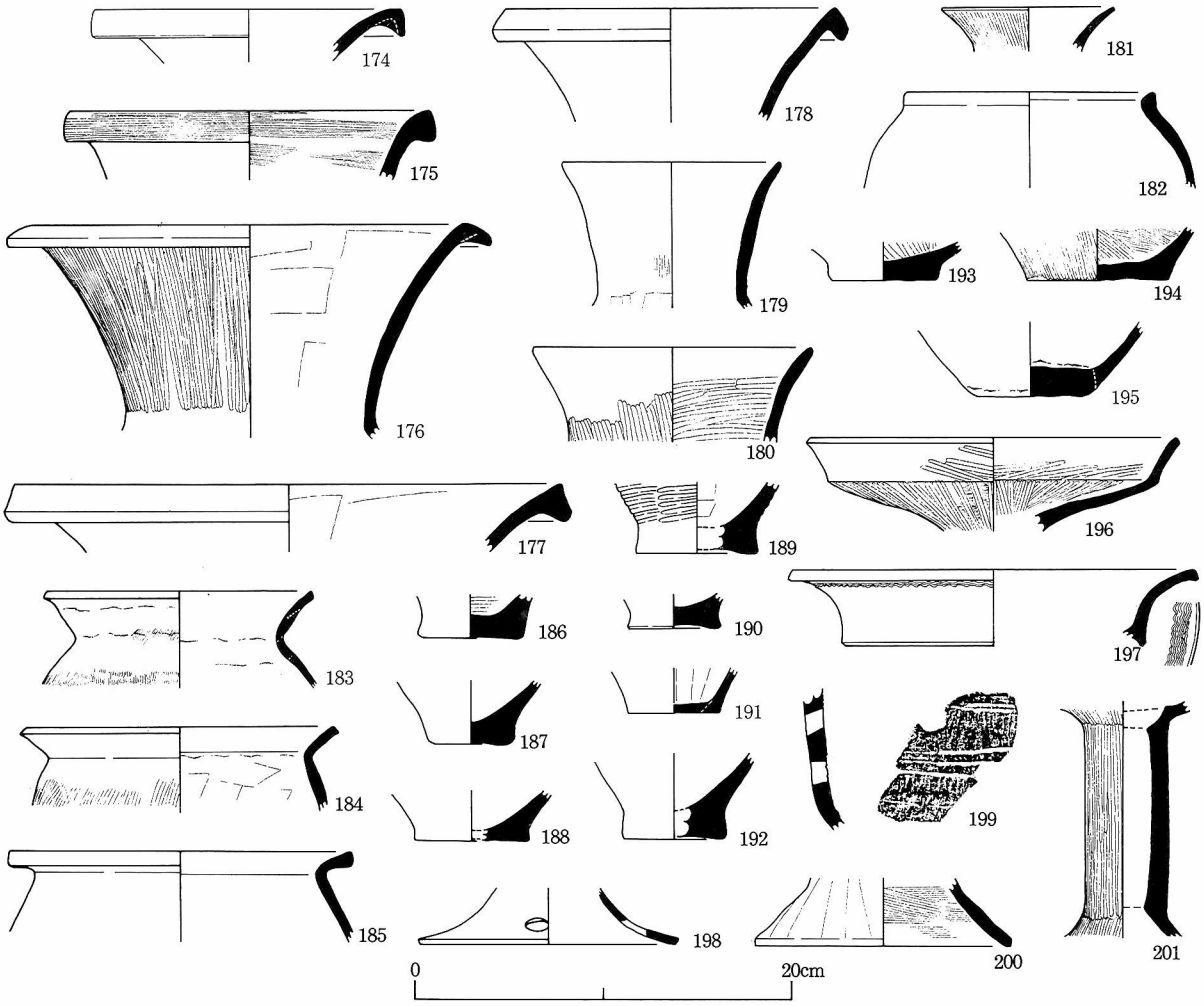
第15図　落ち込み出土弥生土器実測図

土壙・ピット出土土器

土壙・ピット内から出土した弥生土器は、溝や落ち込み出土品に比して多くない。その中で土壙９からは比較的まとまった量が見られる。ピットは同39の１点を図示するにとどまる。

土壙９

壺Ａ（２点）、甕Ｂ（２点）Ｃ（１点）、高杯Ｂ（２点）と壺底部（１点）甕底部（４点）高杯脚部（３点）計15点が図化できた。うち生駒西麓産は、４点である。図197の器台は庄内式に属す。包含層よりこの時期の土器が微量出土しており混入と考えられる。



第16図　土壙・ピット出土弥生土器実測図

土壙７

壺Ａ（１点）、長頸壺Ｂ（２点）と甕底部（１点）計４点が図化できた。生駒西麓産は２点である。

土壙６

無頸壺Ｂ（１点）、甕Ｂ（１点）と甕底部（１点）、高杯脚部（１点）計４点が図化できた。生駒西麓産は２点である。

土壙５

壺Ａ（１点）、長頸壺Ｂ（１点）と壺ないし甕底部（１点）計３点が図化できた。うち生駒西麓産は、２点である。

石製品〔第21図、図版38〕

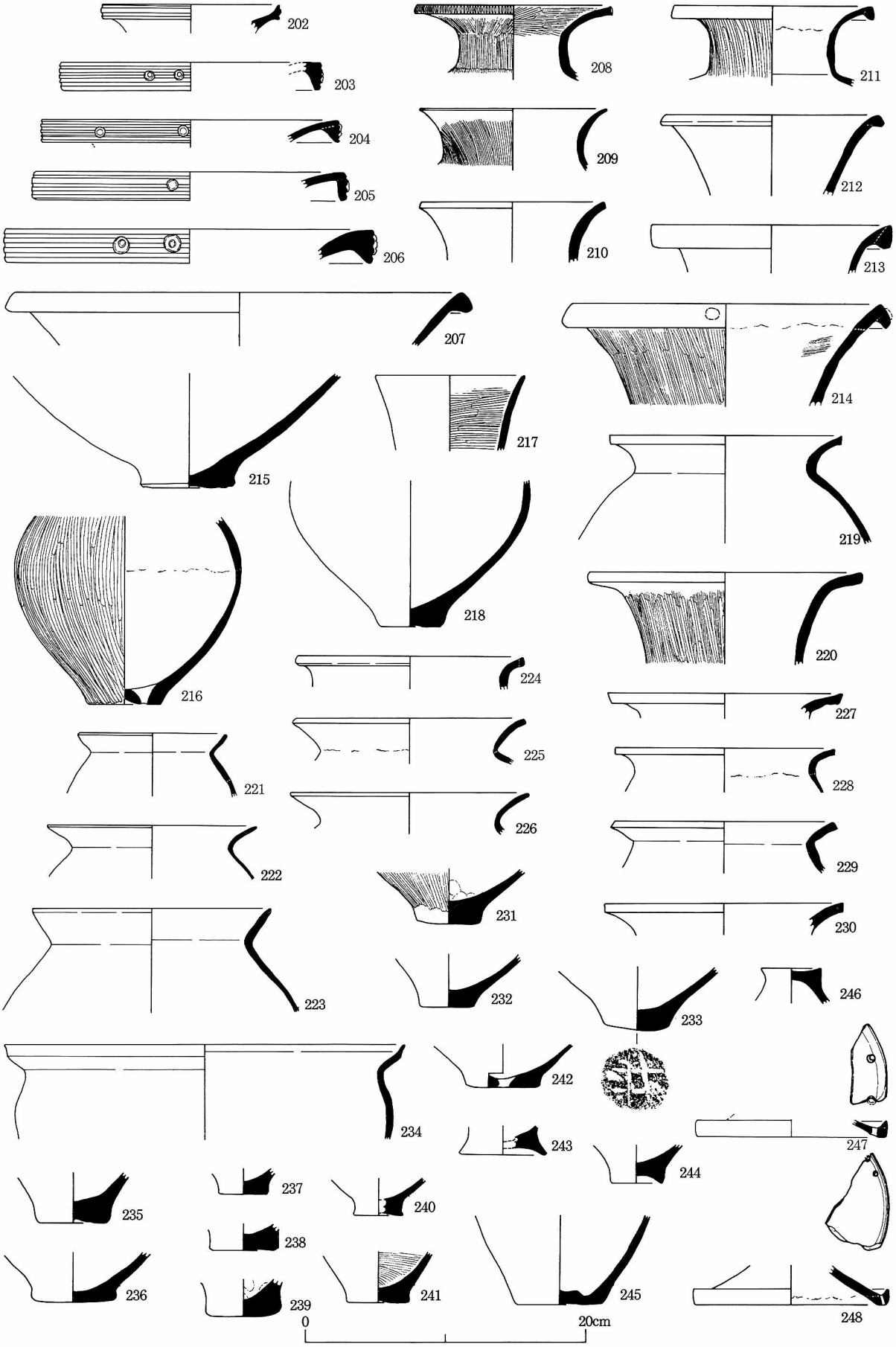
土壙９より図325の石皿（砂岩製）、土壙６より図324の石錘（砂岩製）が各１点出土している。

包含層出土遺物

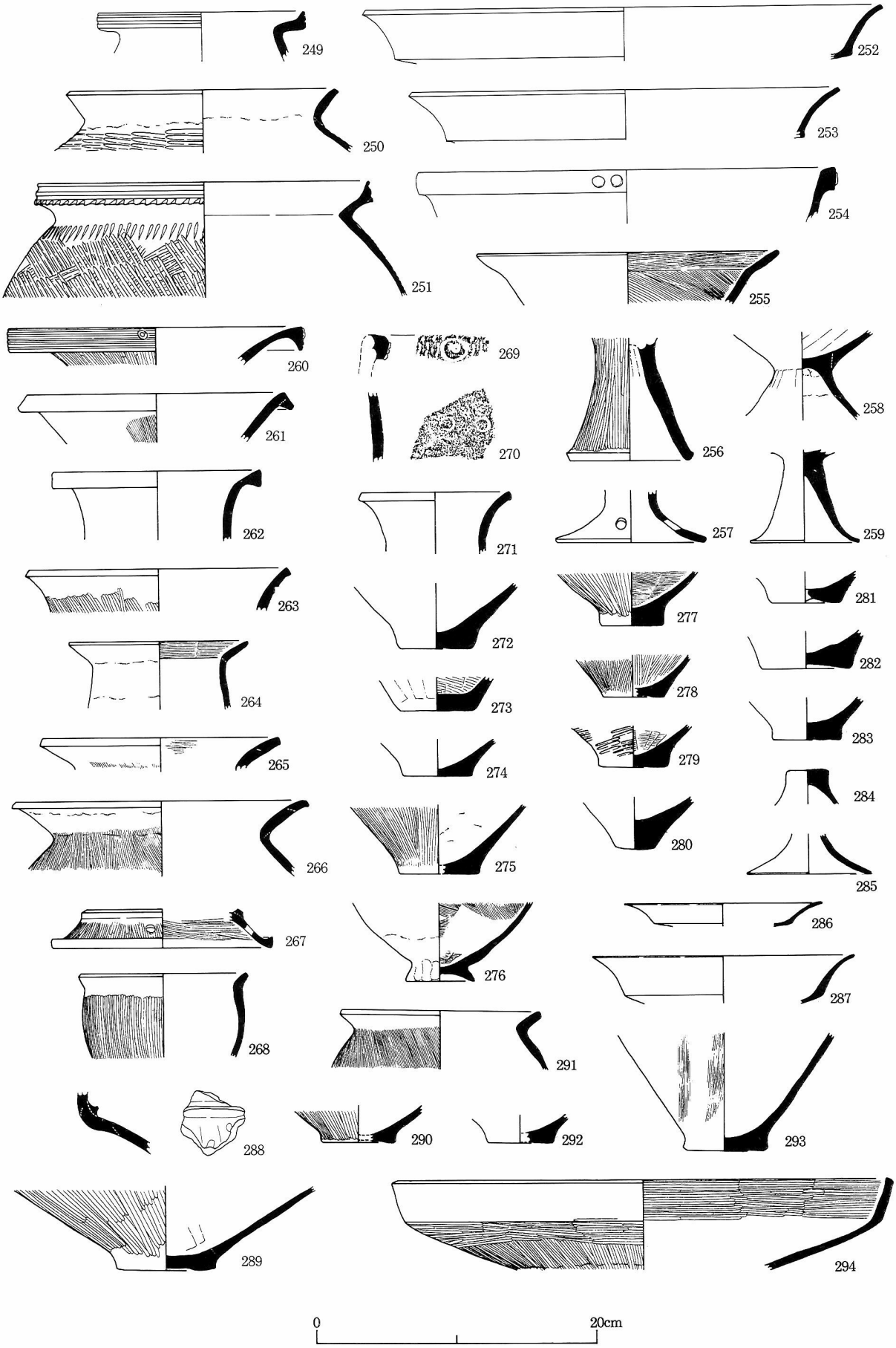
弥生土器〔第17～19図、図版34～37〕

115点を図示した。遺構出土土器とほとんど変わらない器種が出土している。図247・248の壺蓋がは古い要素の残存形態と考えられる。図267の器台は庄内式に属すもので、今回出土した弥生土器の中では新しい時期に属す。図233は、底部にヘラにより「井」状の線刻が施されている。また、図251は角閃石を含むが、形態・調整は山麓部に通有のものではなく山陽地方の土器に類似する。

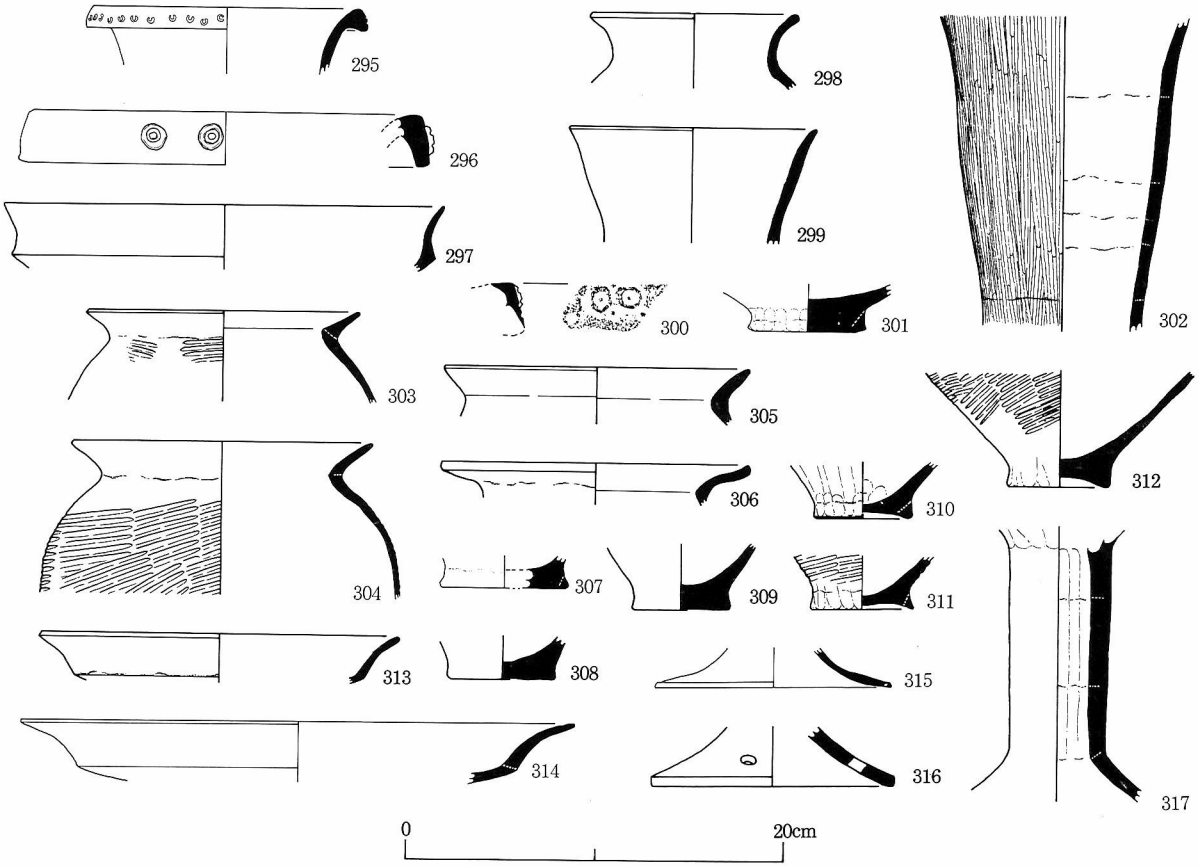
石製品　サヌカイトの剝片なども含めて出土していない。



第17図　包含層出土弥生土器実測図



第18図　包含層出土弥生土器実測図



第19図　包含層出土弥生土器実測図

古墳時代以降の遺物〔第20図、図版38〕

第１トレンチから、Ｆ地区にかけて部分的に残存していた包含層や床土などより少量出土している。

土師器

平安時代後期（12世紀代）に属す図318の小皿と図319の大皿を図示できた。

須恵器

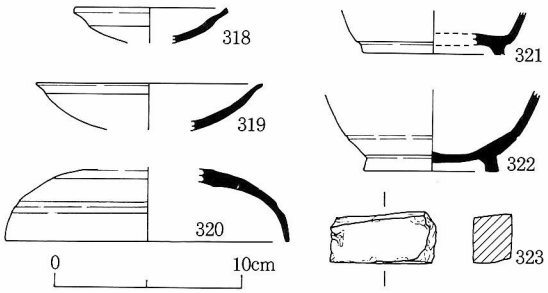
古墳時代後期（６世紀後半）に属す図320の須恵器杯蓋と、奈良時代（８世紀代）に属す図321の杯と図322の壺を図示できた。

瓦器

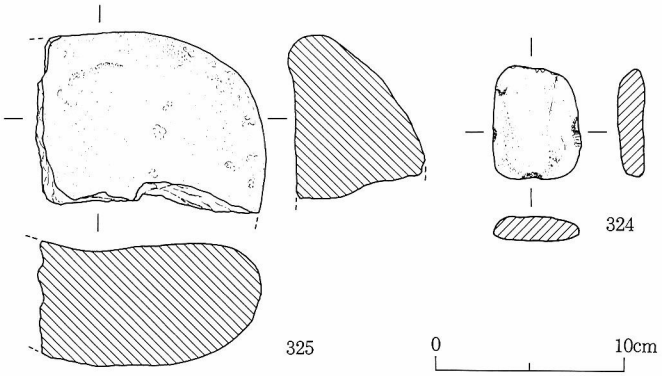
平安時代後期（12世紀代）に属す椀が少量出土しているが細片のため図示できなかった。

砥石

図323の小型品が１点出土した。



第20図　土師器・須恵器・瓦器・砥石実測図



第21図　弥生時代石製品実測図

表１　出土遺物観察表

弥生土器

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器	壺A	1	口 18.4 高（3.55）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面に、３条の凹線文と竹管押捺円形浮文を施す。 ○内外面共に口頸部、風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面にぶい橙色5YR7/4	○溝11 ○黒斑
		2	口 18.4 高（6.3）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面に、３条の凹線文と竹管押捺円形浮文を施す。 ○内外面共に口縁部、風化のため詳細不明。	○内面にぶい橙色5YR7/3、外面5YR6/4	○溝11
		3	口 23.8 高（4.0）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面に、３条の凹線文と竹管押捺円形浮文を施す。 ○内外面共に口縁部、ナデ調整を行う。	○内外面共褐色7.5YR4/3	○溝１ ○生駒西麓産
		4	口 11.8 高（3.9）	○漏斗状の口縁部をもち、口縁端部を下方に拡張する。	○内外面共に口頸部、風化のため詳細不明。	○内面黄褐色2.5YR5/3、外面暗褐色10YR3/2	○溝５ ○生駒西麓産
	壺C	5	口 10.4 高（5.1）	○筒状の頸部に外反する口縁部、口縁端部はそのまま面をもっておわる。	○内外面共に口頸部、風化のため詳細不明。	○内面にぶい橙色7.5YR7/3、外面にぶい黄橙色10YR7/4	○溝５ ○内面煤付着
		6	口 8.6 高（2.1）	○外反する口縁部に、口縁端部はそのまま面をもっておわる。	○口縁部端面に１条の凹線文を施す。 ○内外面共に口縁部、ヨコナデ調整を行う。	○内面灰黄褐色10YR6/2、外面にぶい褐色7.5YR6/3	○溝５ ○生駒西麓産
		7	口 14.8 高（1.05）	○外反する口縁部に、口縁端部はそのまま面をもっておわる。	○口縁部端面に１条の凹線文を施す。 ○内外面共に口縁部、ヨコナデ調整を行う。	○内面灰黄褐色10YR6/2、外面にぶい黄橙色10YR6/3	○溝５ ○外面煤付着
	壺D	8	口 18.2 高（1.25）	○外反する口縁部に、口縁端部は上下に肥厚する。	○口縁部端面に１条の凹線文を施す。 ○内外面共に口縁部、ハケメ調整を行う。	○内面灰黄褐色10YR5/2、外面暗灰黄色2.5YR5/2	○溝５ ○生駒西麓産
	壺A	9	口 17.4 高（1.7）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○内外面共に口縁部、ヨコナデ調整を行う。	○内外面共にぶい黄橙色10YR7/3	○溝12 ○生駒西麓産
		10	口 17.8 高（2.3）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○内外面共に口縁部、ヨコナデ調整を行う。	○内面灰黄褐色10YR4/2、外面にぶい黄褐色10YR4/3	○溝５ ○生駒西麓産
		11	口 23.0 高（2.3）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○内外面共に口縁部、ヨコナデ調整を行う。	○内外面共オリーブ褐色2.5YR4/3	○溝２ ○生駒西麓産
	壺C	12	口 11.4 高 22.0 底 5.6	○球体に短く直立する頸部をもち、口縁部は外反する。口縁端部はそのまま終わる。 ○平底の底部。	○口縁部から体部、風化のため詳細不明。 ○底部内面ユビ圧痕、外面ナデ調整を行う。	○内面橙色7.5YR6/6、外面にぶい橙色5YR7/4	○溝２
		13	口 13.0 高 20.2 底 4	○球体に短く直立する頸部をもち、口縁部は外反する。口縁端部はそのまま終わる。 ○平底の底部。	○内外面共に、風化のため詳細不明。	○内面灰色5Y6/1、外面橙色7.5YR7/6	○溝11
	壺G	14	口 11.1 高（3.5）	○外方にひろがる口縁部をもち、口縁端部は屈曲して上方に拡張する。	○内外面共に口縁部、ヨコナデ調整を行う。	○内面にぶい黄褐色10YR5/3、外面にぶい黄褐色10YR6/3	○溝２ ○外面煤付着
		15	口 8.9 高 14.45 底 4.2	○腹部中央が最大径となる算盤型をもつ体部に、口縁部は外折する。口縁端部は上方に拡張する。 ○やや上げ底の底部をもつ。	○外面体部下位にタタキ調整、中位に頸部にハケメ調整を施す。 ○内面体部中位にユビ圧痕とハケメ調整を行う。	○内外面共灰白色2.5Y8/1	○溝５ ○完形
	壺体部	16			○外面板状工具によるナデ調整のち、櫛描による直線文と、円形竹管の組あわせによる渦文を施す。 ○内面ナデ調整を行う。	○にぶい黄橙10YR6/3、外面にぶい褐色7.5YR5/4	○溝11 ○生駒西麓産
		17			○外面ハケメ（8/㎝）調整のち、２条の波状文を施す。 ○内面ナデ調整を行う。	○内外面共灰黄色2.5YR6/2	○溝２
	長頸壺B	18	口 8.2 高（14.4）	○腹部の張り出さない体部に、頸部はやや外傾して立ち上がる。口縁部がわずかに外傾する。	○外面体部ナデ調整のち縦方向のハケメ（9/㎝）調整を施す。 ○内面体部縦方向のユビナデ調整を行う。一部にハケメが残存する。	○内面灰色5Y4/1、外面灰黄色2.5YR6/2	○溝２ ○外面煤付着
		19	口 9.6 高（13.4）	○丸味をもつ体部に、頸部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁端部は肥厚して面をもつ。	○内外面口縁部にハケメ（7/㎝）調整を施す。 ○内面体部下位にユビナデ調整を行う。	○内面にぶい黄色2.5Y6/3、外面灰黄色2.5Y7/2	○溝２
	壺G	20	口 15.8 高（8.8）	○丸味をもつ体部に、口縁部は外反する。口縁端部は上方に拡張して面をもつ。	○内外面共に、風化のため詳細不明。	○にぶい黄褐色10YR5/3、外面にぶい褐色7.5YR5/4	○溝２ ○生駒西麓産

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器	長頸壺B	21	口 14.8 高（6.8）	○外傾して立ち上がる頸部に、口縁部はわずかに外反する。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ユビナデ調整を施す。一部にハケメが残存する。	○内外面共灰黄色2.5Y7/2	○溝11
		22	口 12.2 高（11.2）	○外傾して立ち上がる頸部に、口縁部はわずかに外反する。	○外面風化のため詳細不明。 ○板状工具によるナデ調整を施す。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3	○溝11 ○生駒西麓産
	壺底部	23	底 7.4 高（5.85）	○やや上げ底の底部。	○外面ヘラミガキ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内外面共暗灰黄色2.5YR5/2	○溝5 ○生駒西麓産
		24	底 5.2 高（5.0）	○平底。	○外面ヘラミガキ調整、内面ユビナデ調整を施す。	○内面黄褐色2.5Y5/3、外面黒色2.5Y2/1	○溝2 ○生駒西麓産
		25	底 4.8 高（5.2）	○やや上げ底の底部。	○外面ヘラミガキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面灰黄色2.5Y7/2、外面黒色2.5Y2/1	○溝5 ○外面煤付着
		26	底 6.6 高（4.9）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面暗灰色N3/、外面淡黄色2.5Y8/3	溝12
		27	底 4.6 高（2.5）	○底部中央やや上げ底。	○外面ヘラミガキ調整、内面ハケメ調整を施す。 ○内外面共に磨滅している。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/4	○溝5 ○黒斑
		28	底 4.3 高（2.6）	○底部中央やや上げ底。	○外面ハケメ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄色2.5Y6/3、外面黄褐色2.5Y5/3	○溝5 ○生駒西麓産 ○黒斑
		29	底 3.6 高（4.0）	○底部中央上げ底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰黄色2.5Y7/2、外面灰白色5Y7/2	○溝11
		30	底 5.4 高（3.85）	○平底。	○内外面体部、ナデ調整を施す。 ○外面底部、板状工具によるナデ調整を行う。	○内外面共灰オリーブ5Y5/2	○溝5 ○生駒西麓産
		31	底 5.3 高（1.9）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰白色2.5Y8/2、外面灰色5Y4/1	○溝11 ○黒斑
		32	底 4.8 高（4.85）	○平底。	○内外面共にナデ調整を施す。	○内外面共灰黄色2.5Y6/2	○溝2 ○内外面煤付着
		33	底 6.2 高（3.6）	○高台状の上げ底をもつ底部。	○外面風化のため詳細不明、内面ハケメ（10/㎝）調整を施す。 ○内面磨滅している。	○内面にぶい黄色2.5Y6/3、外面黄灰色2.5Y4/1	○溝2
		34	底 3.9 高（3.5）	○底部中央やや上げ底。	○外面ナデ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい褐色7.5YR6/3、外面にぶい黄褐色10YR6/3	○溝5
	台付鉢	35	裾 6.8 高（5.0）	○「ハ」の字形にひらく裾部に、上方に少し立ち上がる脚柱部から内傾して天井部につづく。	○内面裾部ハケメ調整を施す以外は、風化のため詳細不明。	○内面褐色10YR4/1、外面にぶい赤褐色5YR4/3	○溝12 ○生駒西麓産 ○黒斑
		36	裾 9.0 高（9.5）	○やや「ハ」の字形にひらく裾部に、球体の体部をもつ。裾端部は面をもつ。	○裾脚部に円孔を穿孔する。 ○外面ヘラミガキ調整、内面体部上位に横方向のハケメ調整を施す。	○内面にぶい黄色2.5Y6/3、外面浅黄色 2.5Y2/3	○溝2
	鉢B	37	口 11.8 高（4.25）	○半球形の体部に、口縁部は外反する。口縁端部は面をもつ。	○外面下位ハケメ調整、内面横方向のヘラミガキ調整を施す。	○内面にぶい橙色7.5YR7/4、淡黄色2.5Y8/3	○溝5
		38	口 19.8 高（3.2）	○半球形の体部に、口縁部は外反する。口縁端部は面をもつ。	○外面風化のため詳細不明、内面横方向のヘラミガキ調整を施す。	○内面浅黄色2.5Y8/3、外面灰白色2.5Y8/2	○溝5
		39	口 12.8 高（2.05）	○偏平な体部に、口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	○外面ナデ調整、内面縦方向のヘラミガキ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR5/4、外面10YR4/4	○溝2 ○生駒西麓産
		40	口 11.4 高（4.8）	○外方にひらく体部に、口縁部は屈曲して直口する。	○外面風化のため詳細不明、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内面灰黄褐色10YR5/2、外面にぶい灰黄褐色10YR6/2	○溝2
	手焙形土器	41		○外面に凸帯が巡らされる。	○外面体部縦方向のヘラミガキ調整、内面ハケメ（9/㎝）を施す。	○内面黒褐色10YR2/2、外面灰黄褐色10YR6/2	○溝2
	甕C	42	口 17.0 高（7.5）	○鋭く外折する口縁部ぶに、口縁端部は丸くおさめる。	○外面ハケメ（8/㎝）調整のち、タタキ調整を施す。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3	○溝2 ○生駒西麓産
		43	口 13.2 高 17.1 底 4.8	○丸味をもつ体部に、「く」の字形に外反する口縁部をもつ。	○外面頸部から体部中位タタキ調整、体部中位から下位風化のため詳細不明。 ○内面ハケメ（8/0.8㎝）調整、底部ナデ調整を施す。	○内外面共2.5YR6/6	○溝5
	甕B	44	口 17.0 高（7.5）	○丸味をもつ体部に、「く」の字形に外反する口縁部をもつ。 ○口縁部は面をもち、1条の凹線文をめぐらす。	○外面頸部ユビ圧痕、体部風化のため詳細不明。 ○内面体部板状工具によるナデ調整を施す。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3	○溝2 ○生駒西麓産

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器		45	口 18.0 高（3.7）	○丸味をもつ体部に、「く」の字形に外反する口縁部をもつ。 ○口縁部は面をもち、1条の凹線文をめぐらす。	○外面風化のため詳細不明、内面ナデ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR5/4、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○溝2 ○生駒西麓産
		46	口 15.0 高（5.0）	○丸味をもつ体部に、「く」の字形に外反する口縁部をもつ。 ○口縁端部は面をもつ。	○内外面共にナデ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR5/3、灰黄褐色10YR4/2	○溝2 ○生駒西麓産
		47	口 16.2 高（2.7）	○鋭く外折する口縁部に、口縁端部は面をもつ。	○外面ヨコナデ調整のち、ナデ調整を施す。 ○内面ヨコナデを行う。	○外面灰黄褐色10YR6/2、内面灰黄色2.5Y7/2	○溝5 ○生駒西麓産
		48	口 17.4 高（2.95）	○「く」の字形に外反する口縁部に、口縁端部はつまみ上げる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/4	○溝5 ○生駒西麓産
	甕C	49	口 17.0 高（5.25）	○「く」の字形に外反する口縁部に、口縁端部はつまみ上げる。	○外面頚部ユビ圧痕、体部タタキ調整を施す。 ○内面ナデ調整のち一部板状工具によるナデ調整を行う。	○内面にぶい黄褐色10YR5/4、外面にぶい橙7.5YR6/4	○溝5 ○生駒西麓産
		50	口 15.0 高（8.4）	○肩のはる体部に、口縁部は「く」の字形に外反する。口縁端部は面をもつ。	○外面タタキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR6/2、外面にぶい黄褐色10YR5/4	○溝2 ○生駒西麓産
		51	口 14.2 高（5.65）	○「く」の字形に外反する口縁部に、口縁端部は面をもつ。	○外面体部タタキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR7/3、外面にぶい黄褐色10YR5/4	○溝11
	甕B	52	口 14.0 高（5.85）	○「く」の字形に外反する口縁部に、口縁端部は面をもつ。	○外面斜方向ハケメ（4/0.8㎝）調整、内面横方向ハケメ（11/㎝）のち一部板状工具によるナデ調整を施す。	○内面灰黄色2.5YR7/2、外面灰黄色2.5Y6/2	○溝2 ○外面煤付着
		53	口 16.2 高（6.3）	○鋭く外折する口縁部に、口縁端部はつまみ上げる。	○外面体部縦方向のハケメ調整、内面頚部横方向のハケメ調整、体部風化のため詳細不明。	○内面にぶい褐色7.5YR6/3、外面にぶい褐色7.5YR5/4	○溝14 ○生駒西麓産
		54	口 14.0 高（3.85）	○「く」の字形に外反する口縁部に、口縁端部はつまみ上げ面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい褐色7.5YR3/4	○溝 ○生駒西麓産
		55	口 17.6 高（2.1）	○鋭く外折する口縁部に、口縁端部はつまみ上げ面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面明褐色7.5YR5/6、外面橙色7.5YR6/5	○溝14 ○生駒西麓産
	甕C	56	口 19.2 高（5.4）	○「く」の字形に外反する口縁部に、口縁端部はつまみ上げる。	○外面体部タタキ調整、内面斜方向ハケメ（6/㎝）調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR7/2、外面暗灰色N3/	○溝5 ○外面煤付着
		57	口 16.8 高（14.0）	○球体の体部に、口縁部は「く」の字形に外反する。口縁端部は面をもち1条の凹線文をめぐらす。	○外面体部上位タタキ調整、下位板状工具によるナデ調整を施す。 ○内面体部斜方向ハケメ調整を行う。	○内面灰オリーブ5Y5/2、外面にぶい黄褐色5Y5/4	○溝5 ○生駒西麓産
		58	口 14.8 高（15.8）	○球体の体部に、口縁部は「く」の字形に外反する。口縁端部は面をもつ。	○外面体部タタキ調整のちナデ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい赤褐色5YR5/3、外面にぶい褐色7.5YR5/4	○溝11 ○生駒西麓産 ○黒斑
	大型甕A	59	口 21.8 高（3.0）	○「く」の字形に外反する口縁部をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい褐色7.5YR5/4、外面灰黄色2.5YR6/2	○溝5 ○生駒西麓産
	甕B	60	口 14.2 高（4.9）	○鋭く外折する口縁部に、口縁端部は丸くおさめる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/4	○溝12 ○生駒西麓産
		61	口 12.2 高（2.2）	○「く」の字形に外反する口縁部とおもわれる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい褐色7.5YR5/4、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○溝5 ○生駒西麓産
	甕C底部	62	底 4.4 高（4.0）	○丸味をもつ底部。 ○底部中央に穿孔。	○外面タタキ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR6/4、外面にぶい黄橙色10YR6/3	○溝11 ○生駒西麓産
		63	底 4.1 高（6.8）	○凹む底部。	○外面タタキ調整、内面ハケメ調整を施す。 ○内外面共に磨滅している。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面にぶい黄褐色10YR4/3	○溝12 ○生駒西麓産
		64	底 4.1 高（6.8）	○平底。	○外面タタキ調整のちハケメ調整を施す。 ○内面風化のため詳細不明。	○内面褐色7.5YR4/4、外面にぶい黄褐色10YR4/3	○溝2 ○生駒西麓産 ○内外面煤付着
		65	底 4.0 高（3.4）	○底部中央がやや上げ底。	○外面タタキ調整、内面風化のため詳細不明。 外面磨滅している。	○内面黄灰色2.5Y5/1、外面黒色5Y2/1、底部にぶい橙色2.5Y6/3	○溝5
		66	底 3.8 高（4.0）	○平底。	○外面タタキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい褐色7.5YR5/4、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○溝5 ○生駒西麓産
		67	底 5.4 （4.1）	○底部中央やや上げ底。	○外面タタキ調整、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面黄灰色2.5Y4/1	○溝2 ○生駒西麓産

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器		68	底 4.6 高（5.5）	○平底。 ○底部中央に穿孔。	○外面タタキ調整、内面風化のため詳細不明。 ○内面底部ユビオサエ調整を行う。	○内面暗灰黄色2.5Y5/2、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○溝5 ○生駒西麓産
		69	底 5.4 高（2.7）	○底部中央やや上げ底。	○外面タタキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○溝5 ○生駒西麓産
		70	底 4.0 高（4.0）	○平底。	○外面タタキ調整、内面板状工具によるナデ調整。	○内面灰黄褐色10YR5/2、外面にぶい黄色2.5Y6/3	○溝5 ○生駒西麓産
		71	底 5.6 高（5.1）	○底部中央やや上げ底。	○外面タタキ調整、内面板状工具によるナデ調整。	○内面にぶい黄褐色10YR5/4、外面褐色7.5YR4/5	○溝5 ○生駒西麓産
		72	底 4.6 高（4.8）	○上げ底の底部。	○外面タタキ調整、内面風化のため詳細不明（ハケメ？）	○内面灰黄色2.5YR7/2、外面灰黄色2.5Y6/2	○溝11
	甕底部	73	底 4.8 高（3.3）	○やや上げ底気味の底部。	○外面風化のため詳細不明、内面ハケメ調整を施す。	○内外面共にぶい黄橙色10YR7/3	○溝5
	甕B底部	74	底 5.0 高（2.5）	○平底。	○外面ヘラミガキ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内面黄灰色2.5Y5/1、外面黄灰色2.5Y4/1	○溝5 ○生駒西麓産
		75	底 3.6 高（5.7）	○やや上げ底気味の底部。	○外面ヘラミガキ調整、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内面灰色5YR4/1、外面灰黄色2.5Y7/2	○溝5 ○生駒西麓産
	甕底部	76	底 6.6 高（3.0）	○上げ底の底部。	○外面ナデ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内面にぶい褐色7.5YR5/4、外面にぶい赤褐色5YR5/4	○溝5 ○生駒西麓産
		77	底 5.7 高（2.45）	○やや上げ底気味の底部。	○外面ナデ調整、内面板状工具によるナデ調整を施す。 ○外面底部木の葉圧痕。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3	○溝4
		78	底 4.8 高（2.75）	○底中央やや上げ底気味の底部。	○内外面共にナデ調整を施す。	○内面褐灰色10YR4/1、外面にぶい褐色7.5YR4/3	○溝5 ○外面煤付着
		79	底 4.2 高（2.2）	○上げ底気味の底部。	内外面共に風化のため詳細不明。	○灰色7.5YR4/1、外面にぶい橙色5YR6/4	○溝5 ○生駒西麓産
		80	底 5.4 高（3.6）	○底中央やや上げ底気味の底部。	○外面風化のため詳細不明、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内面灰白色2.5Y8/1、外面黒褐色10YR2/2	○溝2
		81	底 5.0 高（3.6）	○上げ底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面浅黄色2.5Y8/3、外面にぶい褐色7.5YR5/3	○溝11
	小型甕	82	口 9.65 高 8.8 底 4.0	○球体をもつ体部から、口縁部は「く」の字形に外反する。口縁端部は面をもつ。 ○上げ底気味の底部。	○外面体部下位ヘラケズリ調整、体部上位風化のため詳細不明。 ○内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内外面共灰黄褐色10YR4/2	○溝2 ○生駒西麓産 ○完形
	甕蓋	83	口 16.0 高（4.4）	○笠形を呈する。	○内外面共ナデ調整を施す。 ○内面天井部付近ユビ圧痕。	○内面暗灰黄色7.5Y5/2、外面暗灰黄色2.5Y4/2	○溝2 ○生駒西麓産
		84	口 19.2 高（4.65）	○杯部は下半が斜め上方にのび、上半は屈曲して直口の口縁となる。口縁端部は面をもつ。	○外面口縁部ハケメ（9/1.2㎝）調整、体部風化のため詳細不明。 ○内面口縁部ヨコナデ、体部ナデ調整を施す。	○内面黄灰色2.5Y4/1、外面黄灰色2.5Y6/1	○溝4
	高杯C	85	口 27.6 高（5.05）	○杯部は直線的にひろがる体部から、口縁部につづく。口縁端部は内折して丸くおさめる。	○外面横方向、体部縦方向のヘラミガキ調整を施す。 ○内面斜方向のハケメ（8/㎝）調整を行う。	○内面暗灰黄色2.5Y5/2、外面灰黄褐色10YR6/2	○溝5 ○生駒西麓産
	高杯B	86	口 20.4 高（3.0）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部は丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○内外面共にナデ調整を施す。	○内面浅黄色2.5Y7/3、外面にぶい黄橙色10YR6/3	○溝5
		87	口 18.1 高 12.0 裾 12.8	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部は丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。 ○脚部は「ハ」の字形にひろがる裾部から内傾する脚柱部をもつ。 ○裾部と脚柱部の境に円孔を穿つ。	○外面全面に縦方向のヘラミガキ調整、脚柱部一部にハケメ調整が施される。 ○内面杯部ナデ調整、脚柱部にシボリメがみられる。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○溝11 ○生駒西麓産
		88	口 25.5 高（4.2）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○内外面共に縦方向のヘラミガキ調整を施す。 ○外面口縁部にジグザグ状の文様のヘラミガキを行う。	○内面にぶい黄橙色10YR6/4、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○溝11 ○生駒西麓産

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器		89	口 20.2 高（3.05）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○外面ナデ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR7/2、外面にぶい黄橙色10YR7/3	○溝5
		90	口 27.0 高（4.35）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面面共にぶい橙色7.5YR7/4	○溝10
		91	口 28.6 高（4.0）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面橙色5YR6/6、外面橙色7.5YR6/6	○溝12
		92	口 29.8 高（4.2）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面橙色5YR6/6、外面にぶい橙色5YR6/4	○溝2
		93	口 34.5 高（4.5）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○にぶい黄橙色10YR6/4、にぶい黄褐色10YR5/4	○溝11 ○生駒西麓産 ○黒斑
	高杯B	94	口 39.1 高（3.5）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい橙色7.5YR7/4、外面にぶい橙色7.5YR6/3	○溝11 ○生駒西麓産 ○黒斑
	高杯脚部	95		○裾部欠失。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ナデ調整を施す。	○内面黒褐色10YR3/1、外面にぶい黄橙色10YR6/3	○溝5 ○生駒西麓産 ○黒斑
		96		○裾部欠失。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ナデ調整を施す。	○内外面共にぶい黄褐色10YR4/3	○溝5 ○生駒西麓産
		97		○器台付高杯 ○一部に円孔の穿孔の痕あり。	○外面ナデ調整のち、ヘラによる斜線文様を施す。 ○内面風化のため詳細不明。	○内外面共淡黄色2.5YR8/3	○溝14 ○黒斑
		98	裾 16.6 高（10.4）	○「ハ」の字形にひろがる脚柱部、裾端部に面をもち1条の凹線文をめぐらす。 ○3方の円孔が穿孔される。	○外面ハケメのち縦方向のヘラミガキ調整、内面にシボリメがみられる。	○内面にぶい褐色7.5YR6/3、外面にぶい橙色7.5YR8/3	○溝5 ○黒斑
		99	裾 12.8 高（7.1）	○「ハ」の字形にひろがる脚柱部、裾端部は丸くおさめる。 ○円孔が穿孔される。	○外面縦方向、内面横方向のハケメ（10/㎝）調整を施す。 内面にシボリメがみられる。	○内面浅黄色2.5Y7/3、外面にぶい黄橙色10YR7/3	○溝11 ○黒斑
		100	裾 11.0 高（2.8）	○「ハ」の字形にひろがる脚柱部、裾端部は丸くおさめる。 ○円孔が穿孔される。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面灰白白2.5Y2/2	○溝5 ○黒斑
		101	裾 20.4 高（10.2）	○「ハ」の字形にひろがる脚柱部、裾端部は面をもち、その上部に細かな刻目をめぐらす。 ○円孔は2段に穿孔されている。	○外面ハケメ（9/㎝）、内面ナデ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR5/4、外面にぶい黄橙色10YR6/3	○溝11 ○生駒西麓産
		102	裾 14.2 高（3.9）	○丸味をもつ「ハ」の字形にひろがる脚柱部、裾端部はやや尖り気味におわる。 ○円孔は2カ所に穿孔されている。	○外面ナデ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR7/3、外面浅黄色2.5YR7/3	○溝12
		103		○裾部欠失。 ○円孔は2段に穿孔されている。	○外面一部ハケメ（11/㎝）調整が施される。 ○内面風化のため詳細不明、脚柱部にシボリメがみられる。	○内外面共浅黄色2.5YR7/3	○溝11
		104	裾 17.4 高（3.95）	○「ハ」の字形にひろがる脚柱部、裾端部に面をもつ。 ○円孔が穿孔されている。	○外面ナデ調整、内面ハケメのちナデ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR5/3、外面にぶい黄褐色10YR5/4	○溝2 ○生駒西麓産
		105		○裾部欠失。 ○筒形の脚柱部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面褐色10YR4/4、外面明暗褐色5YR5/6	○溝2 ○生駒西麓産
	壷C	106	口 13.1 高（3.6）	○なだらかに外反する口縁部に、口縁端部はそのまま面をもっておわる。	○口縁端部に1条の凹線文がめぐらされる。 ○内外面共に口縁部ヨコナデ調整、内面頸部板状工具によるナデ調整を施す。	○内外面共灰黄色2.5Y7/2、浅黄色2.5Y7/3	○落ち込み1
	壷A	107	口 14.7 高（3.3）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部を下方に拡張する。	○口縁端部拡張面に5条の沈線文と竹管押捺円形浮文を施す。 ○外面風化のため詳細不明、内面ヘラミガキ調整を行う。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3、4/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器	壺C	108	口 13.7 高（8.4）	○やや外傾気味の短く直立する頸部に、なだらかに外反する口縁部。口縁端部はそのまま面をもっておわる。	○口縁端部は1条の凹線文がめぐらされる。 ○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ナデ調整を施す。 ○内外面共に磨滅している。	○内面にぶい黄橙色10YR7/3、外面にぶい黄橙色10YR7/2	○落ち込み1
	壺A	109	口 32.8 高（2.4）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部を下方に拡張する。	○口縁端部拡張面に4条の沈線文がめぐらされる。 ○内外面共にナデ調整が施される。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3、黄褐色2.5Y5/3	○落ち込み1
	壺C	110	口 14.7 高（8.3）	○なだらかに外反する口縁部に、口縁端部はそのまま面をもっておわる。	○口縁端部は1条の凹線文がめぐらされる。 ○内外面共に口頸風化のため詳細不明、外面体部縦方向のハケメ調整、内面体部横方向のナデ調整を施す。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産
	長頸壺B	111	口 8.2 高 19.0 底 4.8	○腹部中央が最大径となる算盤型をもつ体部に、長い頸部から口縁部はわずかに外反する。口縁端部は面をもつ。 ○やや上げ底の底部をもつ。	○外面体部下位タタキのち粗いヘラミガキ、口縁部から体部縦方向のヘラミガキ調整を施す。 ○内面体部下位から底部はハケメ（8/cm）調整を行う。 ○口縁部に横方向の文様状のハケメを呈する。	○内外面共灰黄色2.5Y7/2	○落ち込み1 ○ほぼ完形
		112	口 12.2 高（12.45）	○長い頸部から外傾して立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。	○外面頸部縦方向のハケメ（11/cm）後ヘラミガキ調整を施す。 ○内面ナデ調整を行う。	○内面灰黄色2.5Y7/2、外面灰黄色2.5Y7/2・6/2	○落ち込み1 ○黒斑
		113	口 12.3 高（4.85）	○長い頸部から外傾して立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。	○外面風化のため詳細不明、内面横方向のナデ調整を施す。	○内面にぶい黄色2.5Y6/3、外面にぶい黄褐色2.5Y5/4	○落ち込み1
	壺底部	114	底 5.1 高（9.05）	○上げ底の底部から、丸味をおびた体部。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ハケメ（6/cm）調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y7/2、外面暗灰黄色2.5Y4/2	○落ち込み1 ○外面煤付着 ○黒斑
	壺D	115	口 13.6 高（6.15）	○太く短い頸部と、外反する口縁部。口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面には、櫛描による4条の沈線文を施す。 ○外面頸体部にハケメ（7/cm）調整、内面頸部横方向のヘラミガキ、体部板状工具によるナデ調整を行う。	○内外面共暗灰黄色2.5Y5/2、黄褐色2.5Y5/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産
	壺C	116	口 17.2 高（1.6）	○外傾気味の頸部に、外折する口縁部。口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面には、櫛描による沈線を施す。 ○内外面共にナデ調整を行う。	○内面にぶい黄色2.5Y6/3、外面灰黄色2.5Y7/2	○落ち込み1
	壺D	117	口 14.6 高（6.9）	○太く短い筒状の頸部と外反する口縁部口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面には、櫛描による4条の沈線文が施される。 ○外面ハケメ（8/cm）調整のち体部横方向のヘラミガキ調整。内面口頸部板状工具によるナデ調整、体部はユビナデ調整を行う。 ○口縁部拡張面に浮文を施すための、ヘラによる刺突が1ケ所みられる。	○内面灰黄褐色10YR6/2・灰黄色2.5Y6/2、外面灰黄褐色10YR6/2・5/2	○落ち込み1 ○生駒西麓産
		118	口 14.5 高 22.85 底 5.1	○平底から、最大径を上位にもつ体部。太く短い筒状の頸部と外反する口縁部。口縁端部は上下に肥厚する。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ハケメ（5/2.5cm・12/2.5cm）調整が施される。 ○外面体部中央磨滅している。	○内外面共暗灰黄色2.5Y5/2	○落ち込み1
	壺口縁部	119		○直線的にのびる長い口頸部。口縁端部は面をもつ。	○外面口縁部にヘラによる波状文を描き、ベンガラを塗布している。 ○内外面共に縦方向のヘラミガキ調整を施す。	○内面黄灰色2.5Y4/1、外面黒褐色2.5Y3/1	○落ち込み1
	壺体部	120		○丸味をもつ体部。	○外面ヘラミガキ調整のち、ヘラ描沈線による文様。 ○内面ハケメ（7/cm）調整を施す。	○内外面共浅黄色2.5Y7/3	○落ち込み
		121		○丸味をもつ体部。	○外面体部上位に2段からなるヘラによる列点文、ハケメ調整が施されるが、磨滅している。 ○内面ユビナデ調整を行う。	○内面灰色5Y5/1、外面浅黄色2.5Y7/3	○落ち込み2
	壺頸部	122		○外反する頸部。	○外面縦方向のハケメ（10/cm）調整のち、間隔をもった1条の沈線文を施す。 ○内面ユビナデとハケメ調整を行う。	○内面褐色7.5YR4/6、外面褐色7.5YR4/4	○落ち込み1 ○生駒西麓産
	甕B	123	口 13.8 高（3.1）	○外折する口縁部、口縁端部は上方につまみ上げる。	○内外面共にナデ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR5/3、外面黒色5Y2/1	○落ち込み1 ○生駒西麓産 ○外面煤付着
	甕C	124	口 15.1 高（11.0）	○丸味をもつ体部に、外反する口縁部。口縁端部は外折する。	○外面タタキ調整、内面板状工具によるケズリ調整を施す。	○内外面共灰黄褐色10YR5/2	○落ち込み1
		125	口 18.6 高（18.3）	○丸味をもつ体部に、外反する口縁部。口縁端部は外折する。	○外面ハケメのちタタキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面暗褐色10YR3/3、外面黒色10YR1.7/1	○落ち込み1 ○生駒西麓産 ○外面煤付着

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器		126	口 15.8 高（8.7）	○丸味をもつ体部に、外反する口縁部。口縁端部は外折する。	○外面ハケメのちタタキ調整、内面ナデ調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y 7/2、外面灰黄褐色10YR6/2	○落ち込み1
		127	口 15.3 高（7.05）	○丸味をもつ体部に、外反する口縁部。口縁端部は外折する。	○外面ハケメのちタタキ調整、内面ナデ調整を施す。	○内外面共暗灰黄色2.5Y5/2	○落ち込み1 ○外面煤付着
		128	口 13.8 高（4.1）	○外反する口縁部に、口縁端部は面をもつ。	○外面タタキ調整、内面ユビナデ調整を施す。	○内面灰白色2.5Y 8/2、外面淡黄色2.5Y8/3	○落ち込み1 ○外面煤付着
		129	口 12.2 高（6.7）	○丸味をもつ体部に、外反する口縁部。口縁端部は丸くおさめる。	○外面タタキ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内外面共灰黄色2.5Y6/2	○落ち込み1
	甕B	130	口 11.8 高（3.05）	○外折する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。	○外面風化のため詳細不明、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y 7/2、外面黄橙色10YR7/3	○落ち込み1
		131	口 16.9 高（4.25）	○外折する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。	○内外面共にナデ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面にぶい黄橙10YR6/3・にぶい黄褐色10YR5/3	○落ち込み1
		132	口 17.8 高（7.3）	○丸味をもつ体部に、外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	○外面ナデ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面灰黄褐色10YR 5/2、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産
		133	口 18.4 高（4.1）	○外折する口縁部、口縁端部は面をもつ。	○口縁端面に1条の凹線文を施す。 ○内外面体部ナデ調整、内面口縁部ハケメ調整を施す。	○内面暗灰黄色2.5Y5/2、外面灰黄2.5Y4/2	○落ち込み1 ○生駒西麓産 ○外面煤付着
	蓋	134	口 18.2 高（2.5）	○甕あるいは壺の蓋。 ○笠形を呈する。	○外面ヘラミガキ調整、内面ナデ調整を施す。 ○内外面に磨滅している。 ○上方に円孔1ケ所あり。	○内面灰黄褐色10YR 5/2、外面灰黄褐色10YR5/2・にぶい黄褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産
	高杯C	135	口 14.1 高 10.1 裾 11.4	○浅い椀形の杯部をもつ。 ○「ハ」の字形に広がる裾部から、内傾する脚柱部。	○内外面共に風化のため詳細不明。 ○脚部中央に円孔が4ケ所穿孔施される。	○内外面共にぶい橙色7.5YR6/4・橙色5YR6/6	○落ち込み1
	高杯脚柱部	136	裾 14.2 高（3.2）	○「ハ」の字形にひろがる裾部をもつ。裾端部は面をもつ。	○外面縦方向のハケメ（8/cm）調整、内面ナデ調整を施す。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3	○落ち込み1
		137	裾 20.0 高（3.65）	○「ハ」の字形にひろがる裾部をもつ。裾端部は面をもつ。	○外面縦方向のハケメ（5/cm）調整、内面ヘラミガキ調整を施す。 ○裾部端面に2条の凹線文。	○内面浅黄色2.5Y 7/3、外面灰黄色2.5Y7/2	○落ち込み1 ○生駒西麓産
	高杯B	138	口 27.3 高（5.2）	○杯部下半斜め上方にのび、上半は角度をかえて立ち上がる。	○外面風化のため詳細不明、内面縦方向のヘラミガキ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR5/3、外面にぶい黄褐色10YR 4/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産
	器台	139	裾 14.7 高（11.5）	○「ハ」の字形にひろがる裾部に直立する脚柱部。裾端部は面をもつ。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ナデ調整を施す。 ○外面磨滅している。 ○裾部付近に円孔が穿孔されている。	○内外面共にぶい黄橙色10YR6/3	○落ち込み1
	高杯脚柱部	140	裾 12.9 高（6.35）	○「ハ」の字形にひろがる裾部、裾端部は上方につまみ上げ、面をもつ。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面脚柱部ハケメ調整、裾部板状工具によるナデを施す。 ○脚柱部中央に円孔が穿孔されている。	○内面にぶい黄褐色10YR5/3、外面灰黄褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産 ○内外面煤付着
		141		○「ハ」の字形にひろがる脚柱部。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面横方向のヘラケズリ調整を施す。 ○内外面共に磨滅している。	○内面灰黄色2.5Y 5/2、外面暗灰黄色2.5Y5/2	○落ち込み1 ○生駒西麓産
		142		○「ハ」の字形にひろがる裾部、屈曲して筒状の脚柱部をもつ。	○外面ヘラミガキ調整のち、櫛描直線文。裾と脚柱部境にキザミを施す。 ○内面ナデ調整を行う。 ○裾部に円孔が穿孔されている。	○内外面共にぶい黄橙色10YR7/3	○落ち込み1
		143		○「ハ」の字形にひろがる脚柱部。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ヘラ状工具によるナデ調整を施す。 ○外面磨滅している。 ○脚柱部に円孔が穿孔されている。	○内外面共にぶい黄橙色10YR7/2・7/3	○落ち込み1
		144		○「ハ」の字形にひろがる脚柱部。	○外面風化のため詳細不明、内面シボリメを施す。 ○脚柱部に円孔が穿孔されている。	○内外面共褐灰色10YR4/1Y、内面脚部にぶい橙色7.5YR6/4	○落ち込み1
		145	裾 15.4 高（4.1）	○「ハ」の字形にひろがる裾部。	○外面風化のため詳細不明、内面ナデ調整を施す。 ○脚柱部に円孔が穿孔されている。 ○内外面共に磨滅している。	○内外面共灰黄2.5Y7/2	○落ち込み1 ○黒斑
	鉢B	146	口 19.8 高（6.25）	○半球形の体部に、口縁部は外反する。口縁端部は面をもつ。	○外面ハケメ（10/cm）のちナデ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面灰黄橙色10YR6/2	○落ち込み1 ○外面煤付着

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器		147	口 21.1 高（4.6）	○半球形の体部に、口縁部は外反する。口縁端部は面をもつ。	○外面ハケメ調整、内面ナデ調整を施す。	○内外面共10YR5/3 ○落ち込み1 ○生駒西麓産	
		148	口 15.8 高 9.0 底 3.8	○やや丸味をもつ底部から、半球形をもつ体部。口縁部は直口し、口縁端部はやや尖り気味におわる。 ○底部中央に穿孔。	○内外面共にハケメ（内面9/1.3cm・外面9/2.0cm）調整を施す。	○内外面共明赤褐色5YR5/6	○落ち込み1
	台付鉢	149	裾 5.8 高（2.9）	○「ハ」の字形に広がる裾部。裾端部は面をもつ。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ナデ調整を施す。	○内面灰黄褐色10YR6/2、外面灰黄色2.5Y7/2	○落ち込み1
	鉢底部	150	底 4.5 高（3.6）	○上げ底の底部から、半球形の体部をもつ。	○内外面共に体部ナデ調整、底部ユビオサエ。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産
		151	底 4.4 高（4.9）	○上げ底の底部から、半球形の体部をもつ。	○外面体部ナデ調整、内面ハケメ（9/cm）調整を施す。 ○底部ユビオサエ。	○内面暗灰黄色2.5Y5/2、外面灰黄褐色10YR5/2	○落ち込み1 ○生駒西麓産
	鉢B	152	口 10.4 高 6.0 底 3.2	○上げ底の底部から、半球形の体部をもつ。口縁部は直口し、口縁端部はやや尖り気味におわる。	○外面体部ナデ調整、底部タタキ調整を施す。内面ナデ調整のちハケメ調整を行う。	○内面灰色5Y4/1、外面灰色5Y5/1	○落ち込み2 ○生駒西麓産
	手焙形土器	153		○外面に凸帯が巡らされる。	○外面風化のため詳細不明、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内面黄灰色2.5Y5/2、外面灰黄色2.5Y7/2	○落ち込み1 ○黒斑
	壺底部	154	底 4.5 高（2.95）	○平底から、屈曲して直線的に外方に広がる体部をもつ。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面横方向のハケメ（6/cm）調整を施す。	○内面灰色5Y4/1、外面暗灰黄色2.5Y5/2	○落ち込み1 ○生駒西麓産
		155	底 4.2 高（2.7）	○平底から、屈曲して直線的に外方に広がる体部をもつ。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y4/1、外面暗灰黄色2.5Y4/2	○落ち込み1 ○生駒西麓産 ○外面煤付着
	甕底部	156	底 4.0 高（4.2）	○平底から、直線的に外方へ広がる体部をもつ。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ハケメ（5/cm）調整を施す。 ○外面底部に未穿孔の痕がみられる。	○内面灰黄色2.5Y7/2、外面にぶい黄橙色10YR6/3	○落ち込み1
		157	底 4.7 高（2.4）	○平底から、直線的に外方へ広がる体部をもつ。	○外面縦方向のハケメ調整、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内面暗灰黄色2.5Y4/2、外面灰褐色7.5Y4/2	○落ち込み1 生駒西麓産
	壺・甕底部	158	底 5.8 高（2.0）	○平底。	○外面縦方向のハケメ（9/cm）調整、内面ナデ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面にぶい黄橙色10YR5/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産
		159	底 8.8 高（3.45）	○平底。	○外面縦方向のハケメ（4/cm）調整、内面ナデ調整を施す。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産 ○外面煤付着
	壺底部	160	底 4.2 高（4.3）	○平底。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ナデ調整を施す。	○内面黄褐色2.5Y5/3、外面黄灰色2.5Y4/1	○落ち込み1 ○生駒西麓産
	甕底部	161	底 4.0 高（4.1）	○上げ底の底部。	○外面タタキのちナデ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面オリーブ黒色5Y3/1、外面灰黄褐色10YR5/2	○落ち込み1 ○生駒西麓産
		162	底 4.9 高（3.7）	○平底。	○外面タタキのちナデ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR6/3、外面暗灰黄色2.5Y5/2	○落ち込み1
		163	底 5.0 高（4.3）	○平底。	○外面タタキ調整、内面ハケメ（10/cm）調整を施す。	○内面黄褐色2.5Y5/3、外面黒色2.5Y2/1	○落ち込み1 ○生駒西麓産 ○外面煤付着
	甕・壺底部	164	底 5.6 高（4.0）	○平底。	○外面ハケメのちタタキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面暗灰黄色2.5Y5/2、外面黄灰色2.5Y4/1	○落ち込み1 ○生駒西麓産
	甕底部	165	底 3.9 高（2.5）	○平底。	○外面ナデ調整、内面ハケメ（6/cm）調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y7/2、外面灰黄褐色10YR5/2	○落ち込み1 ○外面煤付着
		166	底 4.7 高（2.5）	○上げ底気味の底部。	○内外面共にナデ調整を施す。 ○外面底部ユビオサエを行う。	○内面灰黄褐色5YR5/3、外面にぶい赤褐色5YR5/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産
		167	底 5.2 高（3.8）	○底部は内面から穿孔されたために、凸る。	○外面タタキ調整、内面ハケメ（7/cm）調整を施す。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産
		168	底 5.0 高（4.2）	○平底。	○外面タタキ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内面にぶい黄色2.5Y5/3、外面黄褐色2.5Y5/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産
	壺・甕底部	169	底 3.4 高（1.4）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰白色2.5Y8/2、外面にぶい黄橙色10YR7/3	○落ち込み1
	甕底部	170	底 4.4 高（2.1）	○やや上げ底気味の底部。	○外面風化のため詳細不明、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内面灰色5Y4/1、外面にぶい黄橙色10YR6/3	○落ち込み1 ○生駒西麓産

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器	壷・甕底部	171	底 6.0 高（2.05）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄色2.5Y6/3、外面オリーブ黒色5Y2/2	○落ち込み1 ○黒斑
		172	底 5.6 高（3.0）	○丸底の底部に逆三角形の高台をもつ。	○外面ナデ調整、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内外面共にぶい黄橙色10YR7/2	○落ち込み1 ○黒斑
		173	底 5.1 高（2.55）	○中央が凹む底部。	○内外面共にナデ調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y7/2、外面にぶい橙色7.5YR7/3	○落ち込み1
	壷A	174	口 16.0 高（2.75）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄橙色10YR6/4	○土壙9 ○生駒西麓産
		175	口 19.0 高（3.7）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○内外面共にハケメ調整を施す。磨滅のため詳細不明。	○内面灰黄褐色10YR5/2、外面灰黄褐色10YR6/2	○土壙9 ○生駒西麓産
		176	口 22.4 高（11.2）	○漏斗状にひろがる口頸部をもち、口縁端部はやや下方に拡張する。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR5/4、にぶい黄橙色10YR6/3	○土壙7 ○外面煤付着
		177	口 28.6 高（3.6）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○外面ナデ調整、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内外面にぶい黄色2.5Y6/3	○土壙27 ○生駒西麓産
		178	口 17.2 高（5.9）	○漏斗状にひろがる口頸部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR4/3、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○土壙5 ○生駒西麓産
	長頸壷B	179	口 11.4 高（7.65）	○外傾して立ち上がる頸部に、口縁部はわずかに外反する。	○外面風化のため詳細不明、内面ナデ調整を施す。	○内面にぶい褐色7.5YR5/4、外面にぶい黄橙色10YR6/4	○土壙7 ○生駒西麓産
		180	口 14.6 高（5.0）	○外傾して立ち上がる頸部に、口縁部はわずかに外反する。	○内外面共にヘラミガキ調整を施す。	○内面オリーブ色5Y3/1、外面にぶい黄褐色10YR3/1	○土壙5 ○生駒西麓産
		181	口 9.0 高（2.35）	○外傾して立ち上がる頸部に、口縁部はわずかに外反する。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面浅黄橙色7.5YR8/4、外面灰白色2.5Y8/2	○土壙7
	無頸壷B	182	口 13.0 高（5.05）	○球形の体部に、口縁部が「く」の字形に外反する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰黄褐色10YR4/2、外面にぶい赤褐色5YR5/4	○土壙6 ○黒斑
	甕B	183	口 13.8 高（5.1）	○「く」の字形に外反する口縁部に、口縁端部は面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/4	○土壙9
		184	口 16.0 高（4.5）	○「く」の字形に外反する口縁部に、口縁端部は面をもつ。	○外面ハケメ調整、内面板状工具によるナデ調整。	○内面灰黄色2.5YR6/2、外面にぶい黄橙色10YR6/3	○土壙9 ○外面煤付着
		185	口 18.0 高（4.85）	○「く」の字形に外反する口縁部に、口縁端部はやや肥厚し面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄色10YR6/3	○土壙6 ○生駒西麓産
	甕底部	186	底 5.4 高（2.3）	○平底。	○内面と外面底部風化のため詳細不明、外面ナデ調整を施す。	○内面オリーブ黒色5Y3/1、外面灰黄褐色10YR5/2	○土壙9 ○外面煤付着
		187	底 4.4 高（3.4）	○中央がやや上げ底気味の底部。	○外面ナデ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい褐色7.5YR5/4、外面褐色10YR4/6	○土壙9
		188	底 6.0 高（2.65）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面黄褐色2.5Y5/4、外面にぶい黄褐色10YR5/4	○土壙7 ○生駒西麓産
	甕C	189	底 6.2 高（3.85）	○上げ底気味の底部。	○外面タタキ調整、内面板状工具によるナデ調整。	○内面褐灰色10YR4/1、外面灰黄褐色10YR5/2	○土壙9
	甕底部	190	底 4.6 高（1.8）	○上げ底の底部。	○内外面共ナデ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR7/2、外面浅黄橙色10YR8/3	○土壙6
		191	底 4.8 高（2.4）	○平底。	○外面風化のため詳細不明、内面板状工具によるナデ調整を施す。	○内面オリーブ黒色5Y3/1、外面灰黄褐色10YR6/2	○土壙9
		192	底 5.4 高（4.55）	○上げ底の底部。	○外面風化のため詳細不明、内面ナデ調整を施す。	○内面淡黄色2.5Y8/3、外面にぶい褐色7.5YR5/3	○土壙9
	壷底部	193	底 15.4 高（2.05）	○平底。	○外面風化のため詳細不明、内面ハケメ調整を施す。	○内面黒褐色10YR3/1、外面灰黄褐色10YR4/2	○土壙9 ○外面煤付着
	壷・甕底部	194	底 7.3 高（2.7）	○平底。	○内外面共にハケメ調整、外面底部ナデのちケズリ調整を施す。	○内面灰黄色2.5Y7/2、外面にぶい黄橙色10YR7/3	○土壙5 ○黒斑
	壷底部	195	底 5.2 高（3.95）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰色5Y4/1、外面にぶい黄橙色10YR6/4	○ピット39 ○生駒西麓産

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器	高杯B	196	口 19.1 高（4.9）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部は面をもつ。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○内面、外面口縁部にヘラミガキ調整、外面下半ハケメのちヘラミガキ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面にぶい黄色2.5Y6/3	○土壙9
	器台	197	口 21.2 高（4.0）	○体部から屈曲し、外反する口縁部。口縁端部は下方やや肥厚し、面をもつ。 ○口縁部、体部との境に凸帯がめぐる。	○内外面共に詳細不明。 ○外面口縁部にクシ描波状文を施す。	○内面にぶい褐色7.5YR5/4、外面褐色10YR4/6	○土壙9 ○生駒西麓産
	高杯脚部	198	裾 13.4 高（3.0）	○「ハ」の字形にひらく裾部。 ○円孔が穿孔される	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面明褐色7.5YR5/6、外面赤褐色5YR5/4	○土壙9 ○生駒西麓産 ○黒斑
		199		○裾部欠失。 ○筒状の脚部。 ○円孔は2段に穿孔される。	○外面ヘラミガキ調整のち竹管による沈線文、内面ハケメとナデ調整を施す。	○内外面共にぶい黄橙色10YR7/2	○土壙9
		200	裾 15.4 高（3.6）	○「ハ」の字形にひらく裾部。	○外面ヘラミガキ調整、内面ハケメ（6/㎝）調整を施す。	○内面灰黄褐色10YR5/2、外面にぶい黄褐色10YR5/4	○土壙9
		201		○裾部欠失。 ○筒状の脚部。	○外面ヘラミガキ調整、内面ナデ調整を施す。	○内面外面共黄褐色2.5YS5/3	○土壙6 ○生駒西麓産 ○黒斑
	壺G	202	口 12.5 高（2.0）	○外反する口縁部、口縁端部は上方に拡張して面をもつ。	○口縁部端面に、2条の凹線文を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰黄色2.5Y6/2、外面淡黄色2.5Y8/5	○第1層 ○生駒西麓産
	壺A	203	口 19.5 高（1.95）	○口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面に、4条の凹線文と竹管押捺円形浮文を施す。	○内外面共にぶい黄橙色10YR7/3	○第1層 ○生駒西麓産
		204	口 20.9 高（1.65）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面に、4条の凹線文と竹管押捺円形浮文を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰白色10YR8/2、外面にぶい黄橙色10YR7/2	○第1層
		205	口 21.8 高（2.05）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面に、3条の凹線文と竹管押捺円形浮文を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR5/3、外面にぶい黄褐色10YR5/4	○第1層 ○生駒西麓産
		206	口 25.8 高（2.35）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面に、3条の凹線文と竹管押捺円形浮文を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい褐色7.5YR5/4	○第1層 ○生駒西麓産
		207	口 31.4 高（3.8）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○内外面ともに風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄色2.5Y6/3、外面灰黄色2.5Y6/2	○第1層 ○生駒西麓産
	壺C	208	口 13.7 高（5.25）	○短く直立する頸部をもち、口縁部は外反する。口縁端部は面をもつ。	○口縁端部に刻目、外面と口縁部内面にヘラミガキ調整を、内面頸部はナデ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面にぶい黄色2.5Y6/3	○第1層
		209	口 13.2 高（4.4）	○短く直立する頸部をもち、口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	○外面ハケメ（5/㎝）調整、内面ナデ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR7/3、外面にぶい黄橙色10YR7/3	○第1層
		210	口 13.0 高（4.3）	○短く直立する頸部をもち、口縁部は外反する。口縁端部は面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい褐色7.5YR5/4、外面黄褐色10YR5/6	○第1層 ○生駒西麓産
	壺A	211	口 14.0 高（5.6）	○短く直立する頸部をもち、口縁部は外反する。口縁端部は下方に拡張する。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面浅黄色2.5Y8/3、外面灰白色2.5Y8/2	○第1層
		212	口 15.0 高（5.7）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共10YR8/2	○第1層
		213	口 16.8 高（3.45）	○外反する口縁部に、口縁端部は下方に拡張する。	○内外共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR5/3、外面黄褐色2.5Y5/3	○第1層 ○生駒西麓産
		214	口 22.8 高（7.2）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面に円形浮文をもつ。 ○外面ヘラミガキ調整、内面ハケメのちナデ調整を施す。	○内外面共にぶい黄橙色10YR6/3	○第1層 ○生駒西麓産
	壺底部	215	底 6.3 高（7.3）	○中央が上げ底気味の底部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR7/3、外面灰色5Y5/1	○第1層
		216	底 5.2 高（13.3）	○中央が上げ底の底部。 ○底部に内面からの穿孔。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面黄褐色2.5Y5/4、外面にぶい黄色2.5Y6/4	○第1層 ○生駒西麓産 ○黒斑
	長頸壺B	217	口 10.6 高（5.35）	○頸部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	○外面風化のため詳細不明、内面横方向のヘラミガキ調整を施す。	○内外面共にぶい黄橙色10YR5/4	○第1層 ○生駒西麓産
	壺底部	218	底 2.2 高（10.3）	○中央が上げ底気味の底部、球形の体部をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄橙色10YR6/3	○第1層 ○生駒西麓産

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器	壺D	219	口 16.4 高（7.6）	○太く短い頸部と、外反する口縁部。口縁端部はわずかに上下に肥厚。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい橙色5YR6/4、外面灰色N5/	○第1層
	壺C	220	口 19.2 高（6.4）	○漏斗状の頸部に、外反する比較的長い口縁部。口縁端部はそのまま面をもっておわる。	○外面ハケメの縦方向のヘラミガキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内外面共灰白色2.5Y8/2	○第1層
	甕	221	口 10.3 高（4.5）	○「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面明褐色7.5YR5/6、外面赤褐色5YR4/6	○第1層
		222	口 14.8 高（3.7）	○「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面橙色7.5YR7/2、外面にぶい橙色7.5YR7/4	○第1層
		223	口 16.8 高（7.3）	○「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面明赤褐色5YR5/6、外面黄褐色10YR5/6	○第1層 ○生駒西麓産
		224	口 16.0 高（2.3）	○鋭く外折する口縁部、口縁端部はそのまま面をもっておわれる	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面黄灰色2.5Y4/1、外面にぶい赤褐色5Y5/3	○第1層
		225	口 16.0 高（3.2）	○鋭く外折する口縁部、口縁端部はそのまま面をもっておわれる	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面明褐色7.5YR5/6、外面にぶい褐色7.5Y5/4	○第1層
		226	口 16.8 高（2.95）	○ゆるやかに外反する口縁部、口縁端部は丸くおさめる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面橙色5YR6/6、外面にぶい褐色7.5Y5/4	○第1層 ○生駒西麓産
	壺・甕	227	口 16.4 高（1.8）	○鋭く外折する口縁部、口縁端部は上方につまみ上げる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR6/4、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○第1層 ○生駒西麓産
	甕	228	口 15.4 高（3.1）	○「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面にぶい黄褐色10YR5/4	○第1層
		229	口 15.4 高（3.7）	○「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面褐色10YR4/4、外面にぶい黄褐色10YR5/4	○第1層 ○生駒西麓産
		230	口 16.8 高（2.3）	○「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は面をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR6/4、外面にぶい黄褐色10YR5/4	○第1層 ○生駒西麓産
	壺底部	231	底 4.4 高（3.85）	○平底。	○外面ヘラミガキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい橙色7.5YR6/4、外面にぶい黄橙色10YR6/4	○第1層
		232	底 3.7 高（3.8）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面にぶい橙色7.5YR7/3	○第1層 ○黒斑
		233	底 4.6 高（4.55）	○やや丸味をもつ底部。	○外面風化のため詳細不明、内面ナデ調整を施す。 ○外面底部にヘラ状工具による記号?がみられる。	○内面にぶい黄橙色10YR7/3、外面淡黄色2.5Y2/2	○第1層
	鉢	234	口 28.2 高（6.7）	○「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は上方につまみ上げる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面橙色7.5YR7/6、外面7.5YR6/6	○第1層
	壺・甕底部	235	底 4.8 高（3.5）	○中央部が凹む底部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄色2.5Y6/4、外面にぶい黄橙色10YR6/4	○第1層 ○生駒西麓産
		236	底 5.4 高（3.5）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰白色2.5Y7/1、外面淡黄色2.5Y8/3	○第1層
		237	底 3.4 高（1.8）	○平底。	○内外面共にナデ調整を施す。	○内面にぶい橙色7.5YR7/4、浅黄橙色10YR8/3	○第1層
		238	底 4.3 高（1.9）	○やや上げ底気味の底部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共2.5Y8/3	○第1層
		239	底 5.2 高（2.65）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共橙色7.5Y6/6	○第1層
		240	底 3.5 高（2.6）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共明褐色7.5YR5/6	○A地区第1層側溝
	壺底部	241	底 4.4 高（3.6）	○中央が凹む底部。	○外面風化のため詳細不明、内面ハケメ調整を施す。	○内面黒褐色10YR3/1、外面赤橙色10R6/6	○H地区第1層

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器		242	底 5.2 高（3.1）	○平底。 ○底部中央より内面より穿孔。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰黄色2.5Y 6/2、外面明褐色7.5YR5/6	○F地区第1層
	鉢底部	243	底 6.0 高（2.1）	○丸底に逆三角の高台がつく底部。	○内外面共に風化のため詳細不明	○内面にぶい黄橙色10YR7/4、外面にぶい黄橙色10YR 6/4	○A地区第1層 ○生駒西麓産
	甕底部	244	底 3.5 高（2.65）	○上げ底の底部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面褐色7.5YR 4/6、外面明褐色7 YR5/6	○F地区第1層
		245	底 6.0 高（6.3）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい橙色7.5 YR7/3、外面にぶい黄橙色10YR7/4	○E・F地区第1層
	甕蓋	246	つまみ 4.2 高（2.5）	○つまみの上部は凹む。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰白色2.5Y 8/2、外面浅黄色2.5Y7/3	○D地区第1層
	壺蓋	247	口 13.3 高（1.25）	○「ハ」の字形にひろがる口縁部、口縁端部は上方に拡張される。 ○口縁部に円孔が穿孔される。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰褐色5YR 5/2、外面にぶい橙色2.5YR6/4	○H地区第1層
		248	口 13.6 高（2.8）	○「ハ」の字形にひろがる口縁部、口縁端部は上方に拡張される。 ○口縁部に円孔が穿孔される。	○外面風化のため詳細不明、内面ナデ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR6/4、外面にぶい黄褐色10YR 5/4	○H地区第1層 ○生駒西麓産
	甕B	249	口 14.6 高（3.5）	○鋭く外折する口縁部、口縁端部は上方につまみ上げる。	○口縁端面には2条の凹線文を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰白色10YR 8/2、外面にぶい橙色7.5YR6/4	○O地区第1層
	甕C	250	口 18.6 高（4.55）	○「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は面をもつ。	○外面タタキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面黄灰色2.5Y 5/1、外面にぶい橙色7.5YR6/4	○第1層 ○生駒西麓産
		251	口 23.2 高（8.2）	○「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は上方につまみ上げる。	○外面口縁部端面に2条の凹線文、体部上位にヘラによる刻目、体部はタタキ調整を施す。内面体部はケズリ調整を行う。	○内面黒褐色2.5Y 3/2、外面黒色2.5 Y2/1	○F地区第1層 ○角閃石を含む
	高杯B	252	口 36.4 高（3.55）	○外反する口縁部をもち、口縁端部は面をもつ。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○内外面共にナデ調整を施す。	○内外面にぶい黄橙色10YR6/4	○F地区第1層 ○生駒西麓産
		253	口 30.2 高（3.55）	○外反する口縁部をもち、口縁端部は面をもつ。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR6/4、外面黄褐色10YR5/6	○E・F地区第1層 ○生駒西麓産
	鉢A	254	口 29.4 高（3.8）	○直立気味の体部上縁を折り返すことによって、口縁部を段状に成形。	○口縁部端部に円形浮文を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄橙色10YR6/4	○E・F地区第1層 ○生駒西麓産
	鉢B	255	口 21.4 高（3.7）	○外方にひらく体部から、屈曲して外反する口縁部。口縁端部は丸くおさめる。	○外面風化のため詳細不明、内面ハケメ（7/cm）調整施す。	○内面にぶい褐色7.5 YR5/4、外面にぶい黄褐色10YR5/4	○D地区第1層 ○生駒西麓産
	高杯脚部	256	裾 8.4 高（8.7）	○「ハ」の字形の脚柱部。裾端部は面をもつ。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ナデ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR5/3、外面灰黄褐色10YR9/2	○F地区第1層
		257	裾 10.0 高（3.7）	○「ハ」の字形に広がる裾部。裾端部は丸くおさめる。 ○円孔が穿孔される	○外面風化のため詳細不明、内面ナデ調整を施す。	○内面浅黄色2.5Y 7/3、外面淡黄色2.5Y8/3	○F地区第1層
		258		○口縁部、裾部欠失。	○杯部内面板状工具によるナデ調整を施す、他は風化のため詳細不明。	○内面オリーブ黒色5Y5/4、外面にぶい褐色7.5YR5/4	○F地区第1層 ○生駒西麓産
		259	裾 7.6 高（6.45）	○「ハ」の字形に広がる裾部。裾端部は丸くおさめる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR5/4、外面褐色10YR4/6	○C地区第1層 茶褐色シルト質粘土 ○生駒西麓産
	壺A	260	口 20.8 高（2.7）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面に、5条の凹線文と竹管押捺円形浮文を施す。 ○外面ヘラミガキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR7/2、外面にぶい橙色7.5YR6/4	○D地区第2層
		261	口 18.4 高（3.5）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面は風化のため詳細不明。 ○外面ハケメ（10/cm）調整、内面ナデ調整を施す。	○内面灰黄褐色10YR 6/2、外面にぶい黄橙色10YR7/3	○第3トレンチ第2層
	壺D	262	口 14.7 高（4.9）	○太い筒状の頸部をもち、口縁部は外反、口縁端部は上下に肥厚する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR4/3、外面橙色2.5YR6/6	○F地区第2層

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器		263	口 18.2 高（3.0）	○口縁部は外反し、口縁端部は下方に拡張する。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ナデ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR6/3、外面浅黄色2.5Y7/3	○第1トレンチ第2層黄灰色砂
	甕B	264	口 12.5 高（4.85）	○「く」の字形に外反する口縁部をもつ。口縁端部はやや上方につまみ上げる。	○内面口縁部横方向のハケメ調整、体部内外面風化のため詳細不明。	○内面浅黄色2.5Y7/3、外面にぶい黄橙色10YR6/3	○O地区第2層
		265	口 16.8 高（2.4）	○外反する口縁部、口縁端部は面をもちおわる。	○内外面共にハケメ（8/cm）調整がみられるが、風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR6/4、外面黄褐色10YR5/6	○D地区第2層
		266	口 20.2 高（5.4）	○「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は下方にやや拡張気味。	○外面ハケメ（6/cm）調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR7/3、外面にぶい黄橙色10YR6/3	○E地区第2層
	器台	267	裾 15.4 高（2.7）	○「ハ」の字にひろがる裾部、裾端部は上方につまみ上げ面をもつ。 ○1条の凸帯がめぐる。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ハケメ（5/cm）のちヘラミガキ調整を施す。	○内面黄灰色2.5Y5/1、外面灰黄色2.5Y2/2	○E地区第2層
	鉢B	268	口 11.2 高（5.95）	○半球形の体部に、口縁部は外反する。口縁端部は面をもつ。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ナデ調整を施す。	○内面灰オリーブ色5Y5/2、外面灰オリーブ色5Y5/3	○第2トレンチ第2層 ○生駒西麓産 ○黒斑
	壷	269			○口縁部端面に櫛描列点文と竹管押捺円形浮文を施す。	○内外面共浅黄色2.5Y7/3	○第3トレンチ第2層
		270			○外面体部に円形竹管による刺突文を施す。 ○外面風化のため詳細不明、内面ナデ調整を施す。	○内外面共にぶい黄褐色10YR5/3	○D地区第2層
	壷C	271	口 10.4 高（4.3）	○筒状の頸部に外反する口縁部、口縁端部は面をもちおわる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい褐色7.5YR5/4	○E・F地区第2層 ○生駒西麓産
	壷底部	272	底 5.0 高（4.65）	○中央部がやや上げ底気味の底部。	○内外面ともに風化のため詳細不明。	○内面明赤褐色5YR5/8、外面にぶい褐色7.5YR5/3	○D地区第2層 ○生駒西麓産 ○黒斑
		273	底 5.2 高（2.4）	○平底。	○外面板状工具によるナデ調整、内面ハケメ調整を施す。	○内面灰色5Y4/1、外面にぶい黄橙色10YR7/2	○E地区第2層黒色粘土
		274	底 4.8 高（2.6）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面明赤褐色5YR5/6、外面橙色	○D地区第2層
	甕底部	275	底 6.0 高（4.9）	○平底。	○外面縦方向のハケメ調整、内面ケズリ調整を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR6/4、外面にぶい黄橙色10YR5/4	○D地区第2層
	鉢底部	276	底 4.8 高（5.5）	○丸底に逆三角形の高台をもつ。	○外面ナデ調整、内面ハケメ調整を施す。内面磨滅している。	○内面にぶい褐色7.5YR5/3、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○B地区第2層側溝 ○生駒西麓産
	甕底部	277	底 4.3 高（3.85）	○平底。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面ハケメ（9/cm）調整を施す。	○内面灰色5Y4/1、外面灰黄褐色10YR4/2	○D地区第2層 ○外面煤付着
		278	底 4.4 高（3.0）	○中央部がやや上げ底の底部。	○内外面共にハケメ（10/cm）調整を施す。	○内面灰白色2.5Y8/2、外面にぶい褐色7.5YR6/3	○外面煤付着
	甕C	279	底 4.9 高（2.9）	○中央部がやや上げ底の底部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰黄色2.5Y6/2、外面にぶい赤褐色5YR5/4	○E地区第2層黒色粘土 ○外面煤着
	壷・甕底部	281	底 4.8 高（2.3）	○上げ底の底部。底部中央に外面からの穿孔。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR5/4、外面にぶい黄橙色10YR6/3	○A地区第2層 ○生駒西麓産
		282	底 6.2 高（2.65）	○上げ底の底部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰色5Y4/1、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○E地区第2層黒色粘土 ○生駒西麓産
		283	底 4.7 高（3.0）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面浅黄橙色10YR8/3、外面にぶい橙色5YR7/4	○E地区第2層
	甕蓋	284	つまみ 3.0 高（2.4）	○平なつまみ部。	○外面ナデ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面灰黄褐色10YR5/2、外面オリーブ色5Y3/1	○第1トレンチ第2層黄灰色砂
	高杯脚柱部	285	裾 8.8 高（2.85）	○「ハ」の字形にひろがる裾部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄橙色10YR7/4	○D地区第2層
	高杯B	286	口 15.0 高（1.7）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○外面風化のため詳細不明、内面ナデ調整を施す。	○内面にぶい橙色5YR7/4、外面橙色7.5YR6/6	○E・F地区第2層

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器		287	口 18.6 高（3.4）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部ををもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面橙色5YR6/8、外面橙色7.5YR6/6	○E地区第2層
	壺F体部	288		○頸部と体部の境に凸帯を貼付ける。	○内外面共に板状工具によるナデ調整を施す。	○内面灰白色2.5Y8/2、外面浅黄色2.5Y7/3	○B地区落ち込み1茶褐色シルト質粘土
	壺底部	289	底 7.0 高（6.0）	○中央部がやや上げ底の底部。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面板状工具によるナデ調整を施す。内面磨滅している。	○内面黒褐色2.5Y3/1、外面黒褐色2.5Y3/2	○A地区落ち込み1 ○生駒西麓産
	甕B	290	口 14.0 高（4.1）	○「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部は面をもつ。	○外面ハケメ（10/㎝）調整、内面ナデ調整を施す。	○内面にぶい黄褐色10YR5/3、外面褐色10YR4/4	○C地区落ち込み1 ○生駒西麓産
	壺底部	291	底 5.0 高（2.6）	○やや上げ底の底部。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面黄灰色2.5YR5/1、外面にぶい橙色7.5YR6/4	○F地区落ち込み1 ○生駒西麓産
	甕底部	292	底 4.6 高（2.0）	○中央部がやや上げ底の底部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面褐色7.5YR4/3、外面灰褐色5YR4/2	○B地区落ち込み1茶褐色シルト質粘土 ○生駒西麓産
		293	底 5.4 高（8.3）	○中央部が上げ底の底部。	○外面ハケメ調整、内面風化のため詳細不明。内面磨滅している。	○内外面共暗茶黄色2.5Y5/2	○B地区落ち込み1茶褐色シルト質粘土 ○生駒西麓産 ○内面煤付着
	高杯B	294	口 34.4 高（6.4）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部は面をもつ。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○外面体部、内面口縁部へラミガキ調整を施す。内面体部磨滅している。	○内面淡黄色2.5Y8/3、外面にぶい黄橙色10YR7/3	○C地区落ち込み1茶褐色シルト
	壺A	295	口 14.0 高（3.45）	○漏斗状にひろがる口縁部をもち、口縁端部は下方に拡張する。	○口縁端部拡張面に、円形竹管による刺突文を施す。	○内面にぶい黄橙色10YR7/4、外面明褐色7.5YR5/6	○C地区茶褐色シルト質粘土
		296	口 21.5 高（2.8）	○口縁端部やや外方に拡張。	○口縁端部拡張面に竹管押捺円形浮文を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい褐色7.5YR5/4、外面にぶい黄褐色10YR5/3	○B地区茶褐色シルト質粘土 ○生駒西麓産
	壺G	297	口 23.0 高（3.45）	○口縁部を上方に拡張。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR7/3、外面5YR6/6	○C地区茶褐色シルト質粘土
	壺D	298	口 10.8 高（3.95）	○外反する口縁部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい橙色7.5YR6/4、外面にぶい橙色5YR7/3	○E地区包含層
	長頸壺B	299	口 13.0 高（6.1）	○長い頸部から外傾して立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR5/4、外面明赤褐色5YR5/6	○C地区茶褐色シルト質粘土 ○生駒西麓産
	壺A	300		○口縁端部を下方に拡張。	○口縁端部拡張面に竹管押捺円形の浮文と刺突文を施す。 ○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共明褐7.5YR5/6	○C地区茶褐色シルト質粘土 ○生駒西麓産
	壺底部	301	底 6.2 高（2.5）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面黄褐色2.5Y5/3、外面黄褐色2.5Y5/3	○第2トレンチ耕土 ○生駒西麓産
	長頸壺B	302		○長い頸部。	○外面縦方向のヘラミガキ調整、内面風化のため詳細不明。外面磨滅している。	○内面にぶい黄褐色10YR6/3、外面灰黄褐色10YR6/2	○BU地区茶褐色シルト質粘土
	甕C	303	口 14.2 高（4.8）	○「く」の字形に外反する口縁部。口縁端部はやや丸くおさめる。	○外面タタキ調整、内面風化のため詳細不明。外面磨滅している。	○内面灰黄褐色10YR5/2、外面にぶい橙色5YR6/4	○N地区 ○生駒西麓産
		304	口 15.6 高（8.0）	○「く」の字形に外反する口縁部。口縁端部はやや丸くおさめる。	○外面タタキ調整、内面風化のため詳細不明。外面磨滅している。	○内外面共にぶい褐色7.5YR5/4	○B地区茶褐色シルト質粘土 ○生駒西麓産
	甕	305	口 15.9 高（3.0）	○「く」の字形に外反する口縁部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面灰黄褐色10YR5/2、外面にぶい褐色7.5YR5/3	○A・F地区Z
		306	口 16.2 高（2.2）	○「く」の字形に外反する口縁部、口縁端部はつまみ上げる。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄色2.5Y6/3、外面にぶい黄橙色10YR6/3	○E地区包含層 ○生駒西麓産
	壺・甕底部	307	底 6.4 高（1.7）	○平底。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面黄灰色2.5Y4/1、外面褐色10YR4/4	○B地区茶褐色シルト質粘土 ○生駒西麓産
		308	底 5.4 高（2.3）	○中央部がやや上げ底の底部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面黄灰色2.5Y4/1、外面褐色10YR4/4	○B地区茶褐色シルト質粘土 ○生駒西麓産

器形		番号	法量	形態の特徴	技法の特徴	色調	備考
弥生土器		309	底 5.0 高（3.5）	○平底。	○外面ナデ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面浅黄橙色10YR 8/3R、外面にぶい黄褐色10YR4/3	○B地区茶褐色シルト質粘土
	甕底部	310	底 5.2 高（3.0）	○上げ底の底部。	○外面板状工具によるナデ調整、内面ユビナデ調整。	○内面にぶい黄褐色10YR4/3、外面にぶい黄褐色10YR 5/3	○第1トレンチ耕土 ○生駒西麓産
	甕C底部	311	底 5.3 高（2.8）	○上げ底の底部。	○外面タタキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR5/4、外面にぶい黄褐色10YR 4/3	○C地区茶褐色シルト質粘土 ○生駒西麓産
		312	底 5.3 高（6.1）	○上げ底の底部。	○外面タタキ調整、内面風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄褐色10YR6/3、外面黒色10YR1.7/1	○N地区
	高杯B	313	口 18.8 高（2.55）	○外反する口縁部をもち、体部との境に稜をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面褐色7.5YR 4/6、外面黄褐色10YR5/6	○C地区茶褐色シルト質粘土 ○生駒西麓産
		314	口 29.0 高（3.2）	○杯部は外方にひろがる体部から、さらに外反する口縁部をもち、口縁端部はやや丸くおさめる。 ○口縁部、体部との境に稜をもつ。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい橙色2.5 YR6/4、外面橙色2.5YR6/6	○B地区茶褐色シルト質粘土
	高杯脚柱部	315	裾 12.4 高（2.1）	○「ハ」の字形にひろがる裾部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面橙色7.5YR 6/6、外面明褐色7.5YR5/6	○E地区包含層
		316	裾 12.7 高（3.15）	○「ハ」の字形にひろがる裾部。円孔が穿孔されている。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内面にぶい黄橙色10YR7/4、外面灰白色2.5Y8/2	○E地区包含層
		317		○円柱状の脚柱部。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共灰黄褐色10YR6/2	○F地区上層 ○生駒西麓産 ○黒斑

弥生時代石製品

石製品	石錘	324	長 6.0 幅 4.6 厚 1.5 重 71.2	○円石に4ケ所の縄掛け用の切り込みを施した切目石錘。			○E地区土壙6
	石皿	325	長（12.15） 幅（9.5） 厚（8.3） 重	○片面凹む。			○D地区土壙9

土師器・須恵器・石製品

土師器	小皿	318	口 8.0 高（1.85）	○やや丸底の底部から外方にひろがり、段を口縁部はそのまま外傾する。口縁端部は上方につまみ上げる。	○口縁部内外面ヨコナデ調整、体部内外面ユビナデ調整を施す。	○内外面共浅黄褐色10YR8/4	○A地区茶褐色シルト質粘土
	大皿	319	口 12.0 高（2.4）	○丸底から内弯しながら口縁部までつづく。口縁端部は外反する。	○内外面共に風化のため詳細不明。	○内外面共にぶい黄橙色10YR7/4	○B地区第1層茶褐色シルト質粘土
須恵器	杯蓋	320	口 14.8 高（3.8）	○天井部から口縁部にかける丸味を帯びている。口縁端部はやや丸くおさめる。	○天井部と口縁部境の稜は凹線をめぐらすことによって浮かび上がらせたという感じのもの。 ○天井部外面に回転ヘラケズリ調整。	○内面オリーブ灰色2.5GY6/、外面暗オリーブ灰色2.5 GY7/	○A地区第1層杯身
	杯身	321	底 7.4 高（2.3）	○底部端に高台がほぼ直立する形で貼付けされる。	○内外面共に回転ナデ調整を施す。	○内面灰白色7.5Y 7/1、外面灰色7.5 Y6/1	○C地区茶褐色シルト質粘土
		322	底 7.0 高（4.3）	○丸底に直立気味の高台が貼付けされる。	○内外面共に回転ナデ調整を施す。	○内面灰白色N7/、外面灰色N6/	○調査地不明
石製品	砥石	323	長（5.5） 幅（2.6） 厚 2.0	○台形。 ○両端欠失。	○4面砥面。	○灰黄色2.5Y7/2	○F地区

Ⅴ．附編　上小阪遺跡第３次調査で採取した土壌の花粉分析報告

１．はじめに

上小阪遺跡は河内平野に位置する。河内平野は東を生駒山、西を上町台地によって囲まれている。今回の分析調査目的は、第３次調査区内で検出された弥生時代後期前半とされる溝（溝５）の覆土について花粉分析を行い、埋積土壌の花粉・胞子から溝使用時以降の周辺の植生や、溝内の環境に関する情報を提供することにある。

２．試料

試料は、溝５遺構の断面から採取されたものである。（図１）。今回分析に使用した試料は、溝覆土のＣ・Ｅ・Ｇ・Ｉと溝直下堆積物（地山）のＨの５点である。各試料の土質は、発掘調査時の記載によると全てシルト・粘土とされているが分析時に観察した結果ではいずれもシルト質砂であった。

３．分析方法

分析方法は次の通りである。

各試料から湿重約15ｇの試料を秤量し、ＨＦ処理→重液分離→アセトリシス処理→ＫＯＨ処理の順に物理・化学処理を行い、試料から花粉・胞子化石を分離・凝集する。処理後の残渣をグリセリンで封入しプレパラートを作成する。光学顕微鏡下でプレパラート全面を観察し、出現する化石の種類（TAXA）の同定・計数を行う。

検鏡結果は、一覧表（表１）と花粉化石群集分布図（図２）として表示した。その際の出現率は、木本花粉が木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子が不明花粉を除いた総花粉・胞子数をそれぞれ基数として、百分率で算出したものである。

４．結果

結果を表１・図２に示す。溝覆土のうち試料Iでは花粉・胞子化石が良好に検出されたが、その他の試料では悪く、検出される化石の保存状態も良くなかった。

試料Ｉの花粉化石群集は、草本花粉の占める割合が高い。各種類では、木本花粉ではスギ属が最も高率で、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、コナラ属アカガシ亜属、クリ属－シイノキ属がこれに次ぐ高頻度である。草本花粉・シダ類胞子ではイネ科が優先し、ガマ属、オモダカ属、イボクサ属、サンショウモといった水生植物や栽培植物とされるソバ属を伴なう。また、出現したイネ科100粒について、栽培植物とされるイネ属の有無について調べた結果、栽培植物とされるイネ属が68粒検出された（この際のイネ属の同定は、ノマルスキー微分干渉装置を使用して外膜の表面模様を観察し、発芽装置の形態、大きさなどを考慮しながら行った）。

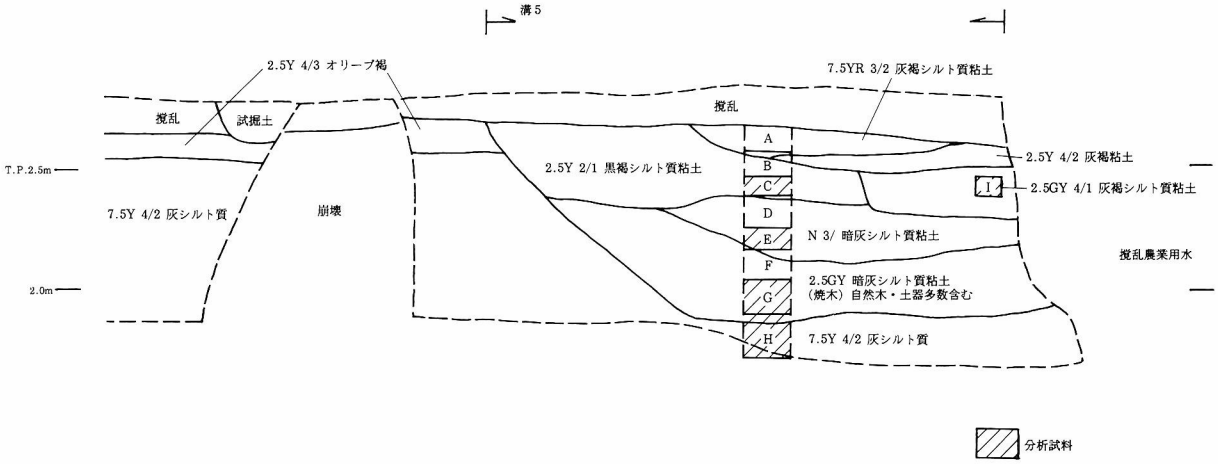
５．考察

溝直下堆積物（地山）と溝覆土のうち試料Iを除く試料では、花粉化石の保存状態が良くなかった。これは、花粉・胞子が堆積した後に変質作用（化学的な酸化分解や土壌微生物による分解など）の影響を受けていることを示している。ここではその具体的な原因について言及できないが、これらの試料では検出された化石以外にも変質作用によって分解・消失した化石が存在した可能性が高い。したがって検出された化石だけで当時の植生について論じるには問題があり、ここではその検討を控える。ただ、これらの試料のうち、地山試料Ｈではヨモギ属が多産し、その中には花粉塊として検出されたものがあったことから、当時の調査地点周辺にはヨモギ属の生息する開けた場所が存在した可能性がある。

溝覆土上位の試料Ｉからは、栽培植物とされるイネ属が検出された。鈴木・中村（1977）によれば、花粉分析の結果は、イネ属比率（イネ科総数に対するイネ属の比率）が30％以上を示す層順では現在に近い集約度で稲作が営まれていた可能性が高いとしている。ここでは、検出されたイネ科全てについてイネ属の検討を検討を行ってはいないものの、イネ科100粒中にイネ属が68粒含まれていたことから見て、かなりの頻度でイネ属が含まれているものと判断される。栽培植物のソバ属が検出されることや、総花粉・胞子の中で草本花粉が占める割合が高いことを考慮すると、当時の調査地点近辺では稲作や畑作が行われていた可能性が高いといえる。また、オモダカ属、イボクサ属、サンショウモなどの水生植物が伴出することから、周辺には水湿地も存在したものと思われる。当時の稲作が水稲であったとすればこれらの水生植物は水田雑草として生育していた可能性もある。一方、後背山地などには、スギ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科などの針葉樹や常緑広葉樹のアカガシ亜属、落葉広葉樹のコナラ亜属などからなる森林が成立していたものと思われる。

引用文献

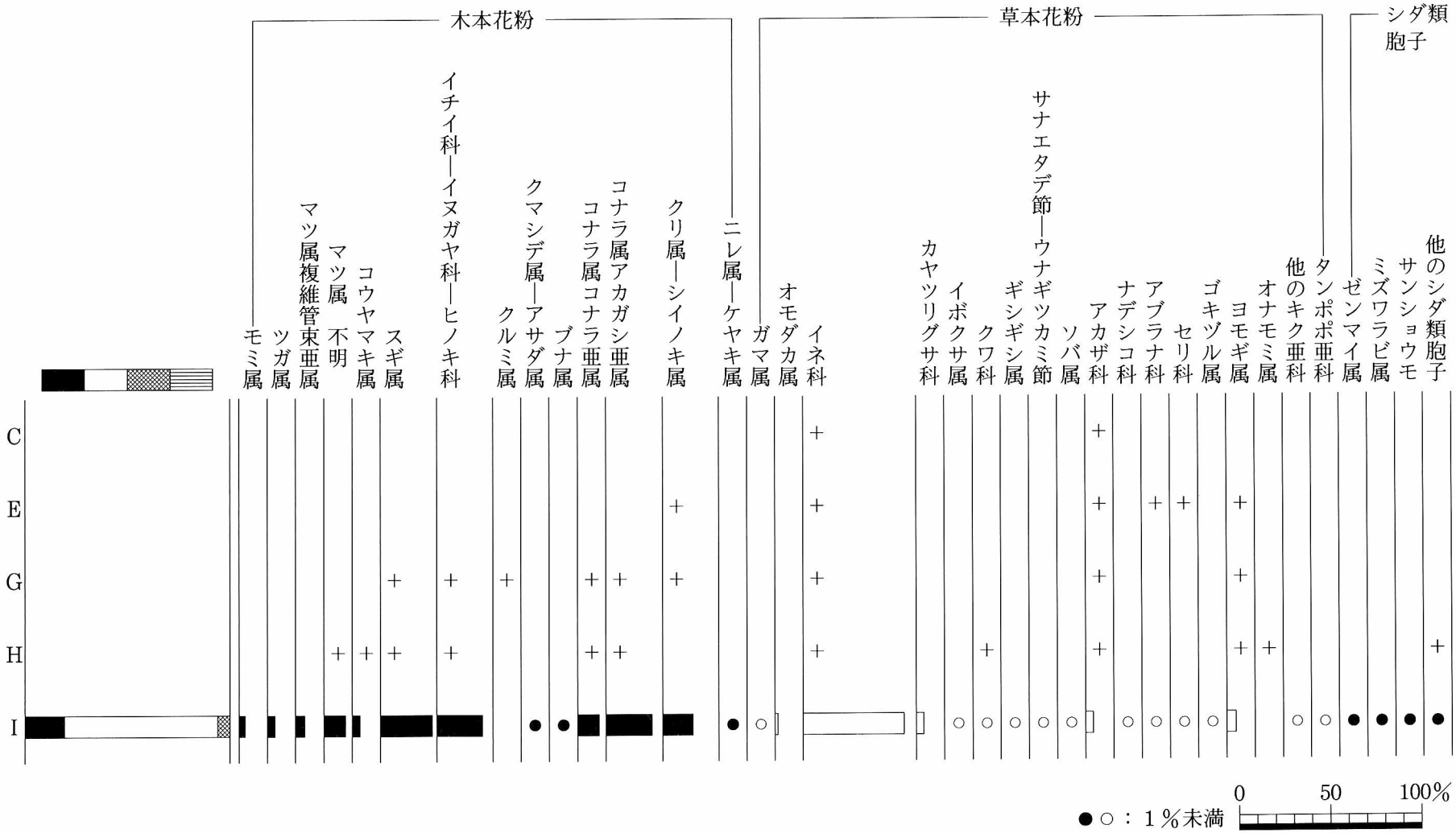
鈴木功夫・中村　純（1977）稲作花粉の堆積に関する基礎的研究.文部省科研費特定研「古文化財」「稲作の起源と伝播に関する花粉分析学的研究－中間報告－」（中村　純編）ｐ.１－10.



第22図　上小阪遺跡第３次調査の溝５の断面図および花粉分析試料の採取位置
（断面図および土層注記は発掘調査時の見解に基づく）

表２　上小阪遺跡３次調査の溝埋積物の花粉分析結果

種　類（Taxa）　試料番号	C	E	G	H	I
木　本　花　粉					
モミ属	−	−	−	−	6
ツガ属	−	−	−	−	7
マツ属複維管束亜属	−	−	−	−	10
マツ属（不明）	−	−	−	2	17
コウヤマキ属	−	−	−	1	8
スギ属	−	−	2	7	75
イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科	−	−	3	6	39
クルミ属	−	−	2	−	−
クマシデ属−アサダ属	−	−	−	−	1
ブナ属	−	−	−	−	2
コナラ亜属	−	−	4	1	22
アカガシ亜属	−	−	4	4	44
クリ属−シイノキ属	−	1	1	−	27
ニレ属−ケヤキ属	−	−	−	−	2
草　本　花　粉					
ガマ属	−	−	−	−	3
オモダカ属	−	−	−	−	12
イネ科	2	2	11	12	544
カヤツリグサ科	−	−	−	−	42
イボクサ属	−	−	−	−	1
クワ科	−	−	−	1	3
ギシギシ属	−	−	−	−	1
サナエタデ節−ウナギツカミ節	−	−	−	−	1
ソバ属	−	−	−	−	4
アカザ科	4	4	2	4	26
ナデシコ科	−	−	−	−	1
アブラナ科	−	2	−	−	9
セリ科	−	1	−	−	1
ゴキヅル属	−	−	−	−	2
ヨモギ属	−	1	12	188	52
オナモミ属	−	−	−	1	−
他のキク亜科	−	−	−	−	5
タンポポ亜科	−	−	−	−	8
不明花粉	−	−	2	5	22
シ　ダ　類　胞　子					
ゼンマイ属	−	−	−	−	1
ミズワラビ属	−	−	−	−	1
サンショウモ	−	−	−	−	1
他のシダ類胞子	−	−	−	1	7
合　計					
木　本　花　粉	0	1	16	21	260
草　本　花　粉	6	10	25	206	715
不　明　花　粉	0	0	2	5	22
シ　ダ　類　胞　子	0	0	0	1	10
総　花　粉・胞　子	6	11	43	233	1007



出現率は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は不明花粉数を除いた総花粉・胞子数をそれぞれ基数として百分率で算出した。また、＋は木本花粉が100個体未満の試料において出現した種類を示す。

第23図　上小阪遺跡３次調査の溝５埋積物の花粉化石群集の分布図

V．まとめ

今回の調査によって明らかになっている点を以下個条書きにしてまとめとする。

1．弥生時代後期の遺構が、東西約150mにわたって多数検出された。今回の調査地の北方約120mの地点で行われた第4次調査[注1]において、東西約100mにわたって井戸・溝・柱穴等が検出され、同時に弥生時代後期に属す土器を主とした遺物が多量に出土している。この成果を踏まえれば、現在の中央環状線の西約160m付近から東西150m以上、南北200m以上の範囲に居住域が広がっていることは確実である。

本遺跡が、弥生時代後期における大規模な集落であったことが確実となった。存続期間は、現在のところ出土土器から見て短く後期中頃の集落であった可能性が高い。

2．溝などより出土した多量の弥生土器は、やや古い要素を残すものも認められるが西ノ辻D・E式に併行するものと考えられ、従前この時期の一括資料に乏しかった平野部において重要な資料となろう。遺構出土の土器にしめる生駒西麓産の割合は、約5割である。この時期の山麓の遺跡からは他地域産の土器は余り出土しないことからすればかなりの高率ということができる。

今後、山麓部の土器との比較検討を進めることで多くの知見が得られると考える。他地域との関係では図251の甕は、角閃石を含み、山陽地方の形態・調整をもつものであり搬入品として注目される。また、この時期には珍しい石皿や石錘が出土したことは、河内湖南辺に位置した本遺跡の生業を考えるうえで興味深い。

3．包含層中より庄内式土器が少量出土した。したがって包含層はこの時期に形成されたと考えられる。この時期の土器は、第2次調査でもわずかな量が出土している。遺構は未検出ながら当時の集落が付近に存在したと考えられる。しかし、遺物の出土量から見て今回の調査地は周辺部にあたると思われる。

4．次に述べる奈良時代の遺構のベースになっている層より古墳時代後期の土器が少量出土した。古墳時代中期から後期にかけての巨摩廃寺・山賀遺跡において小形低方墳が検出されていることからも、集落の存在が付近に予想されるが具体的な場所は明らでない。出土遺物の量などから見て周辺部にあたることは間違いない。

5．奈良時代と考えられる遺構と遺物を検出したことから、第1次調査の結果と併せ今回の調査地西半部分からさらに西に、この時代の集落が存在するのは確実である。実態の解明は今後の調査に期待したい。

6．花粉分析の結果からは、弥生時代後期において調査地点周辺はヨモギ属が生える開けた地でありまた水湿地に近い場所にあたるとされた。また、稲の集約的な栽培や畑作物であるソバの栽培が明らかにされている。

以上をまとめれば、従来調査があまり実施されていないこともあって余り注目されていない本遺跡が、平野部における弥生時代後期の集落の動態を考えるうえで、欠くことのできない遺跡であることを今回の調査を通して明らかにしえたと言えよう。

注1　上野利明「上小阪遺跡第4次調査」『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告－1991年度』財団法人東大阪市文化財協会　1992年

図　　版

図版1　調査地

E～I地区作業風景（西より）

第1～3トレンチ完掘状況（西より）

図版2　土層断面

第1～2トレンチ北壁断面（南東より）

第1～2トレンチ北壁断面（南東より）

図版3　土層断面

第3トレンチ落ち込み2北壁断面（南西より）

第2トレンチ北壁断面（東より）

図版4　土層断面

第2トレンチ北壁断面ピット26検出状況（南より）

第2トレンチ北壁断面土壙18検出状況（南より）

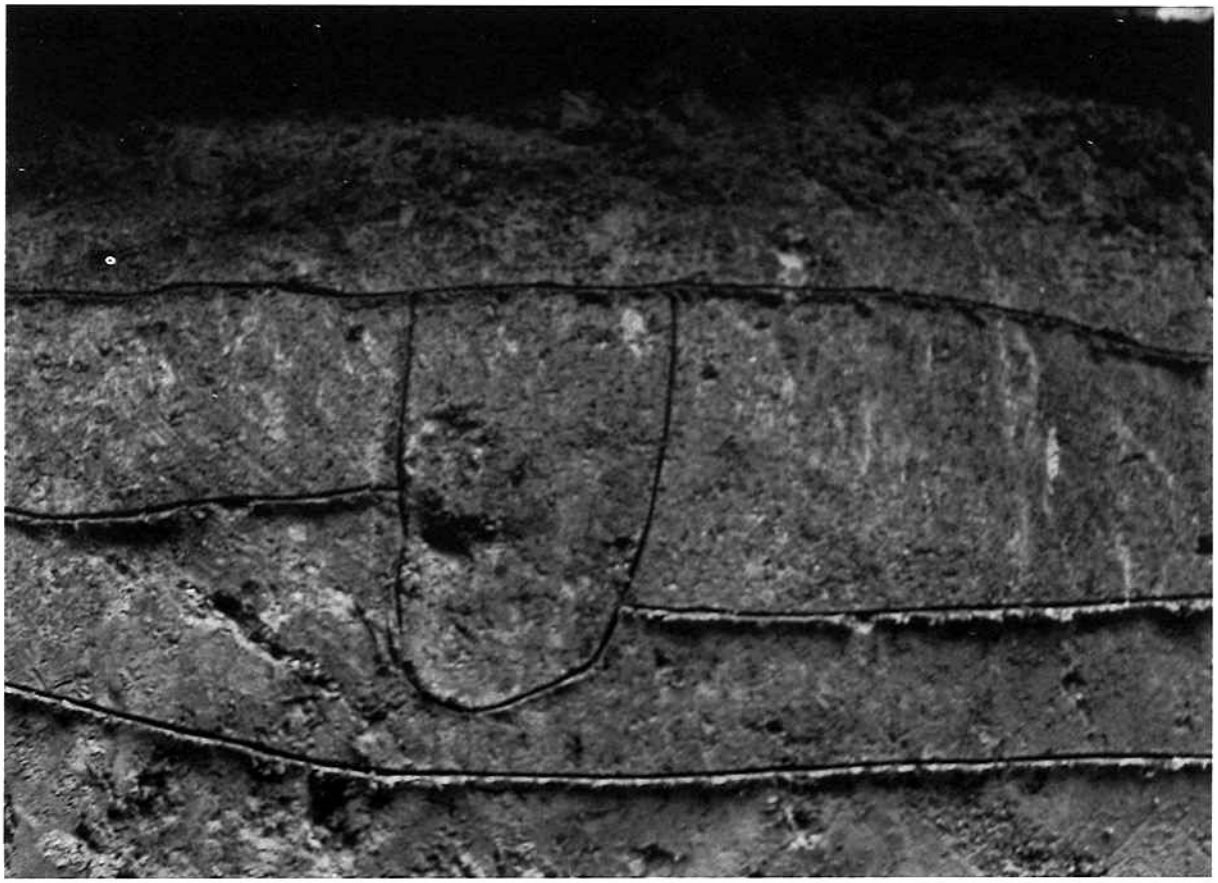
図版5　土層断面

A地区北壁断面（東より）

B地区北壁断面（南より）

図版6　土層断面

D地区北壁断面（南西より）



D地区北壁断面ピット検出状況（南より）

図版7　土層断面

D・E地区北壁断面（西より）

D・E地区北壁断面（南より）

図版8　土層断面

F地区北壁断面（南より）

G地区北壁断面（南より）

H・I地区北壁断面溝5検出状況（南より）

J地区北壁断面（東より）

図版10　土層断面

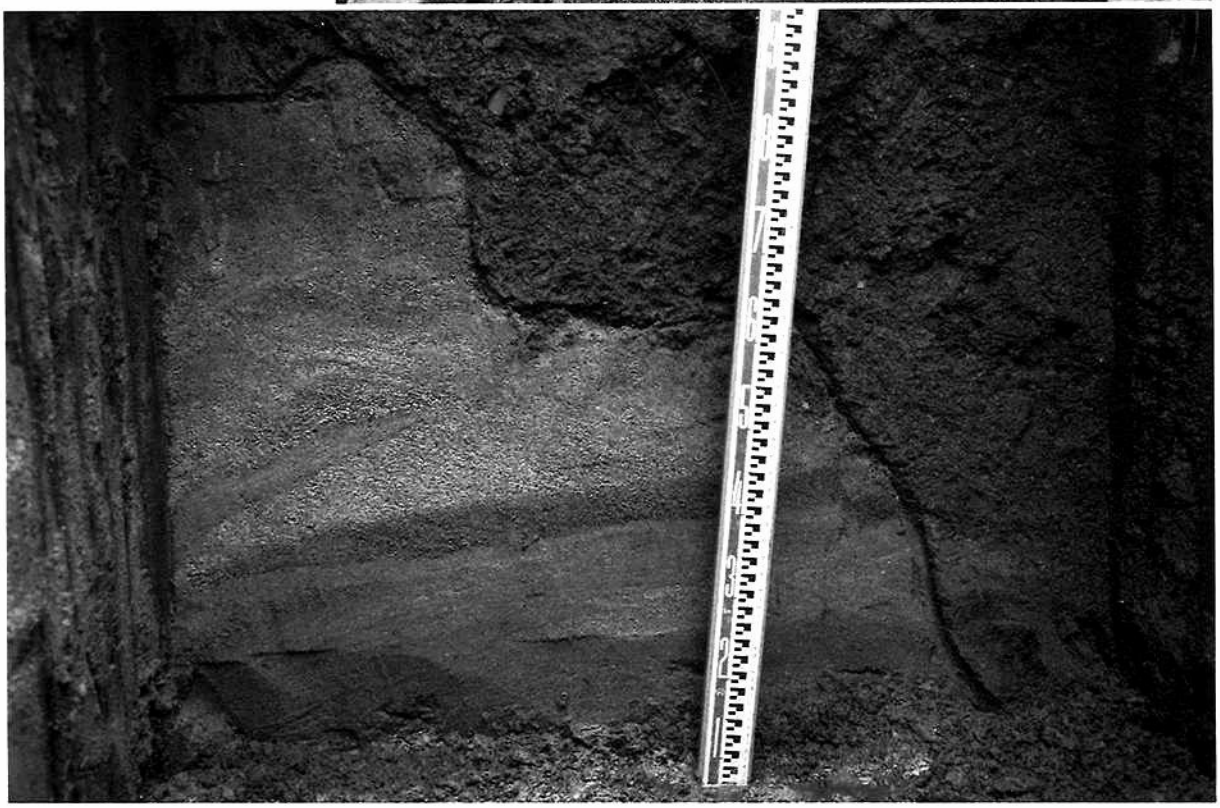
J地区北壁断面（南より）

J・K地区北壁断面落ち込み4検出状況（南より）

図版11　土層断面

K・L地区北壁断面
（南より）

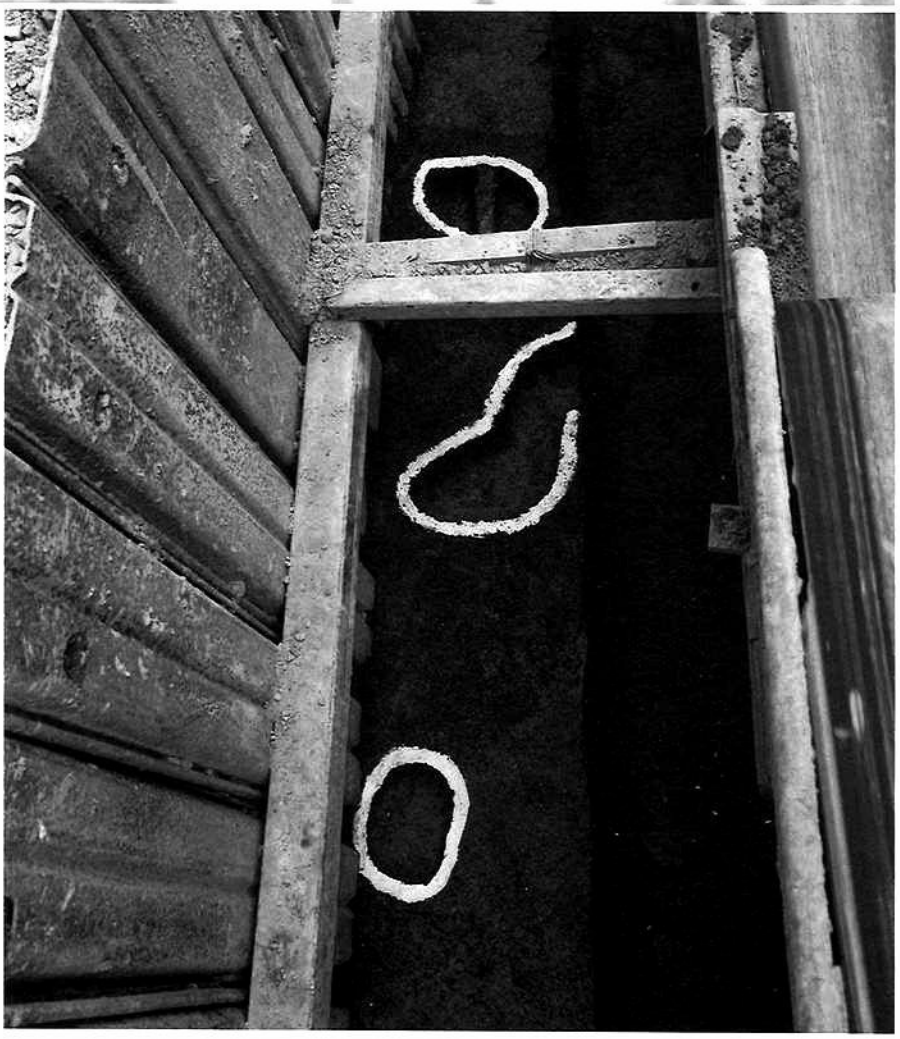
L地区東壁断面（西より）



第1～3トレンチ第1遺構面遺構検出状況全景（東より）

第1～2トレンチ溝3検出状況（北より）

第１トレンチ土壙10
検出状況（南より）

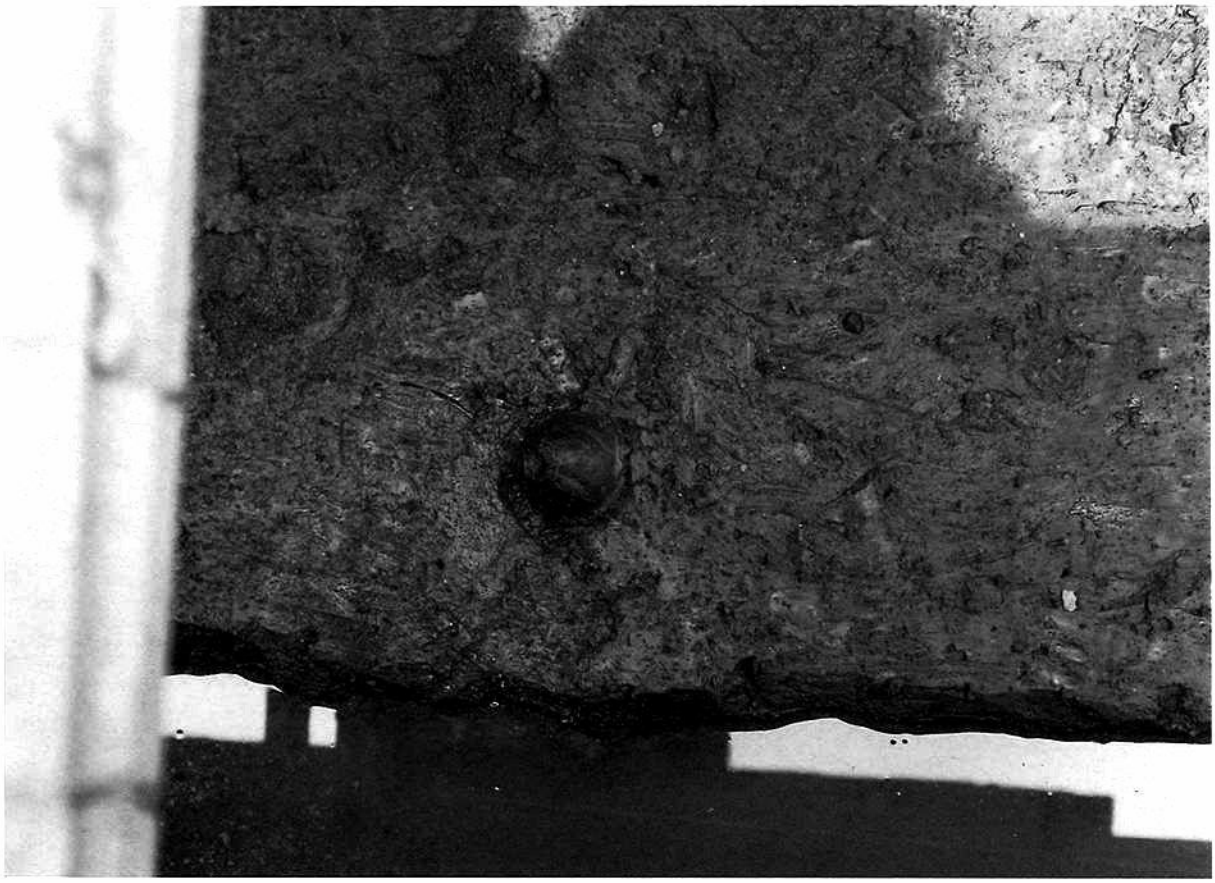


第２・３トレンチ
第１遺構面土壙17・18、
第２遺構面土壙16
検出状況（南西より）

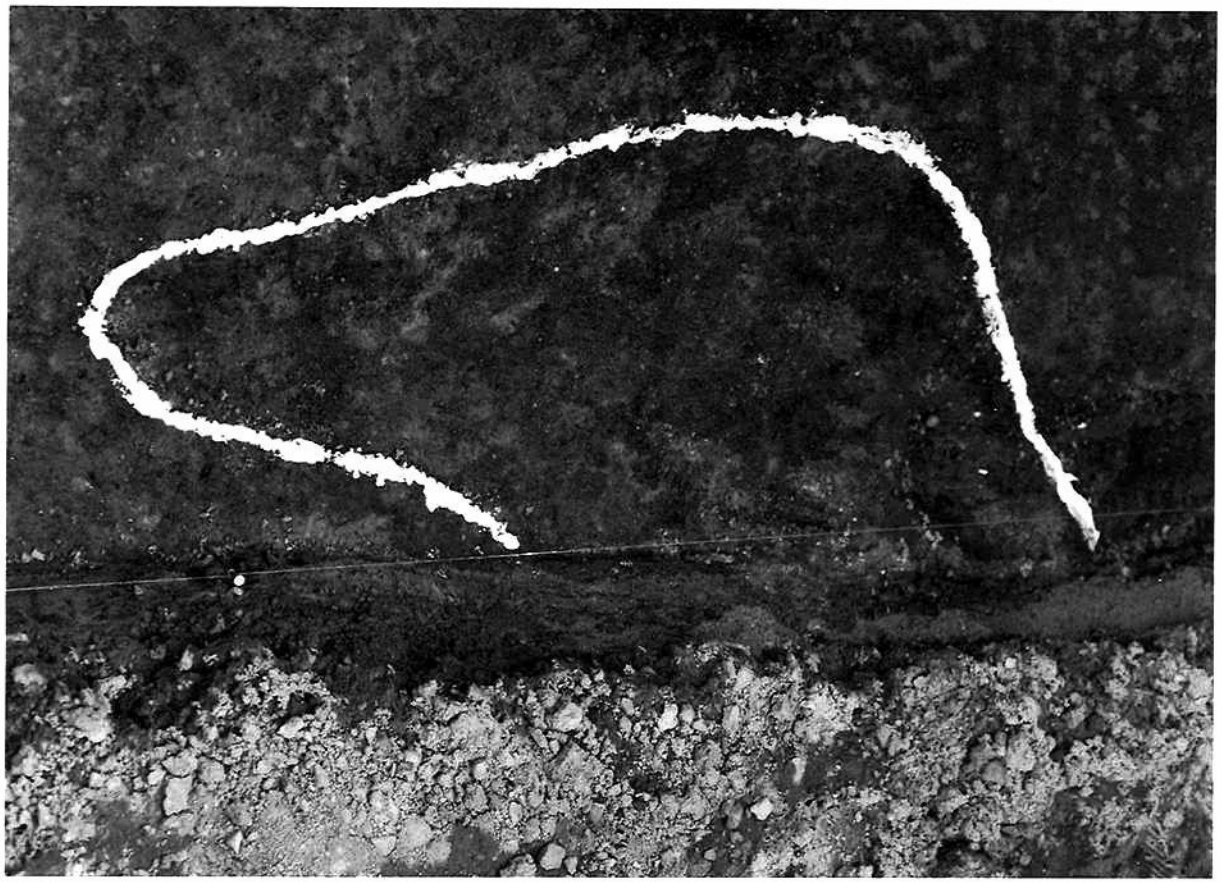
第１トレンチ溝４検出状況（南より）

第２トレンチ第２遺構面土壙19・20、ピット検出状況（南東より）

第３トレンチ落ち込み２検出状況（東より）



第３トレンチ落ち込み２弥生土器出土状況（南より）



A地区土壙1検出（南より）

B地区溝2弥生土器出土状況（南より）

図版17　遺構（弥生時代）

E～I地区第1遺構面
遺構検出状況（西より）

E地区第2遺構面溝12、
ピット40・41検出状況
（南より）

図版18　遺構（弥生時代）

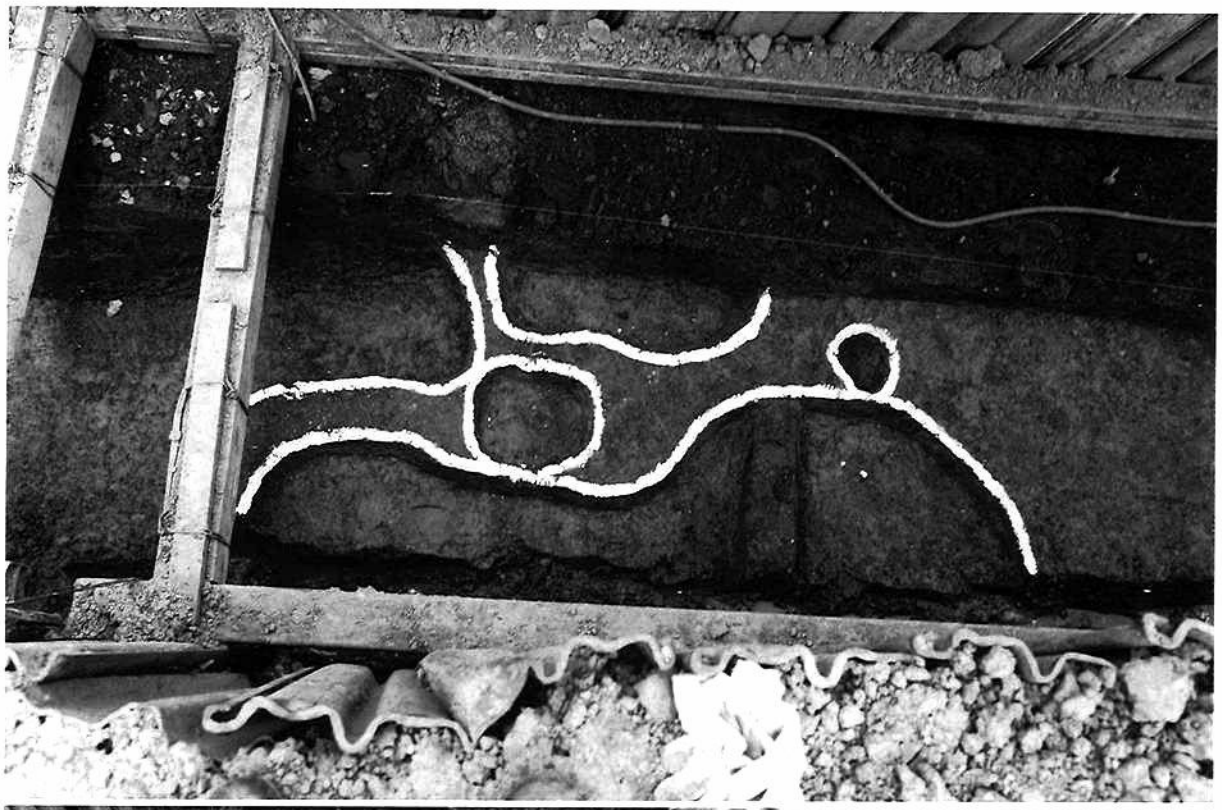
F地区第1遺構面土壙28、
ピット34～38検出状況
（南より）

F地区第1遺構面
溝11検出状況（南西より）

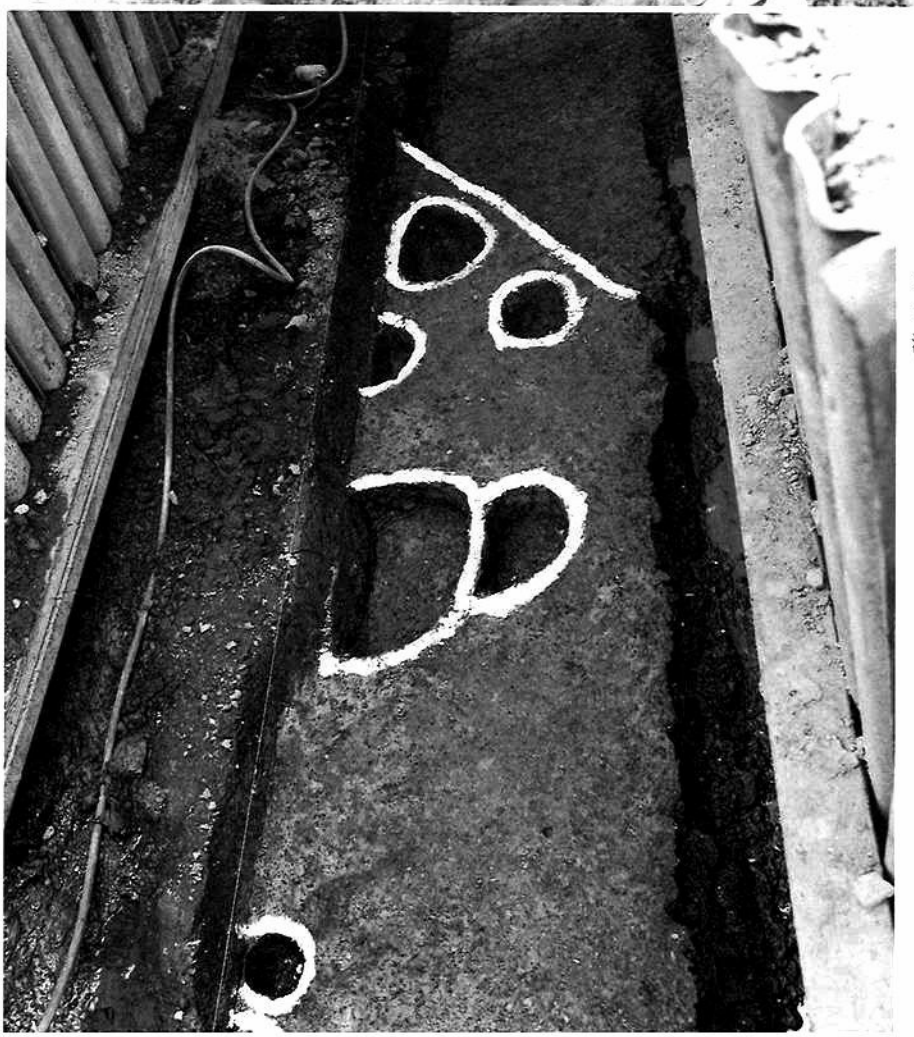
F地区第2遺構面土壙29、溝13・14検出状況（南より）

F地区第2遺構面ピット42・43、土壙50、溝14検出状況（南東より）

図版20　遺構（弥生時代）

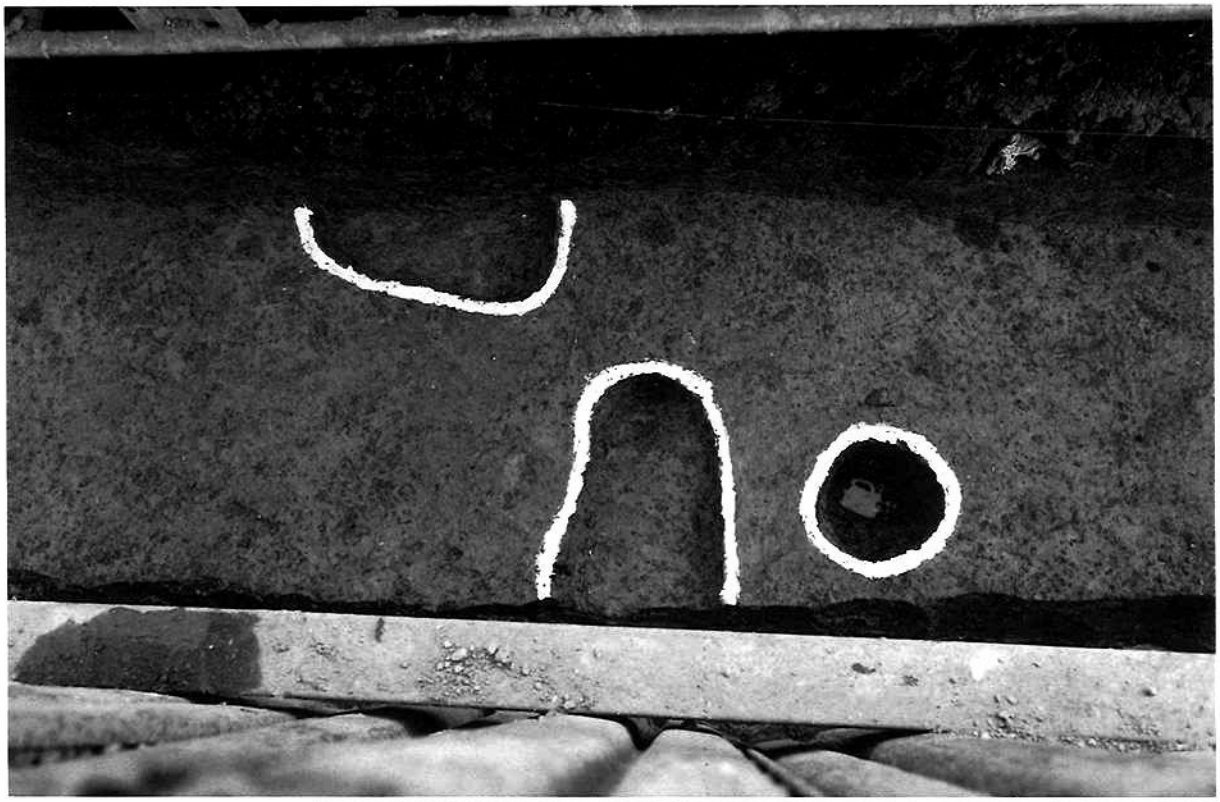


G地区第１遺構面
土壙26・27、
ピット32・33検出状況
（南より）



F・G地区第１遺構面
ピット34～38、土壙28、
溝10検出状況（南西より）

図版21　遺構（弥生時代）



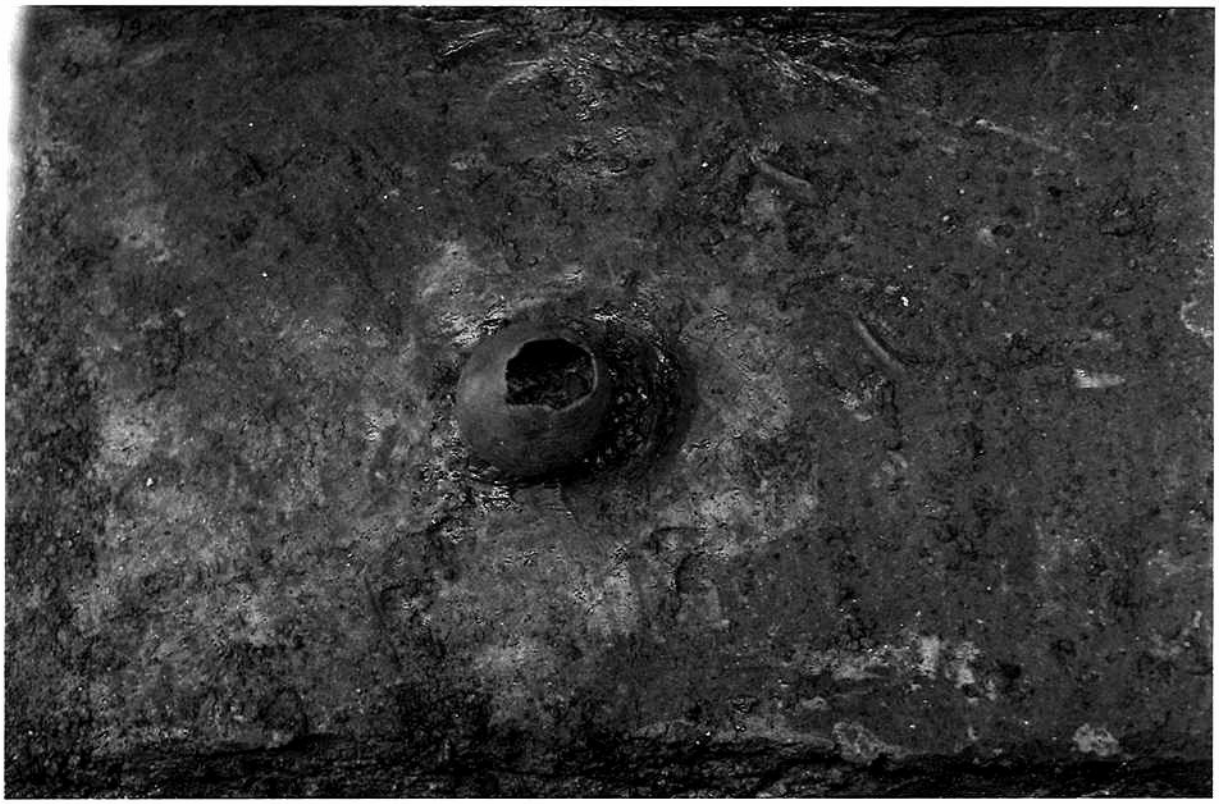
G地区第２遺構面土壙32、
ピット47、溝15
検出状況（南より）

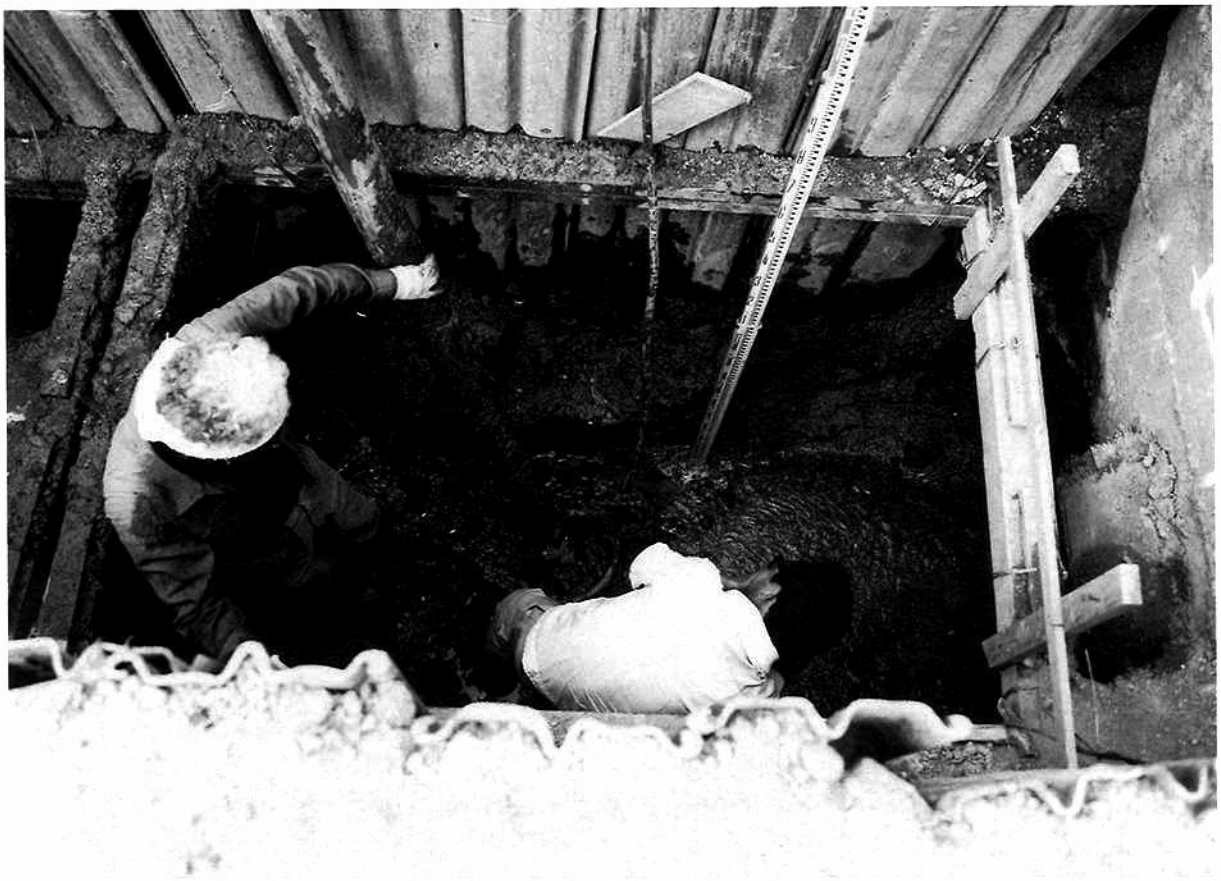
G・H地区第１遺構面
ピット30・31、
土壙23～25、溝９
検出状況（南西より）

図版22　遺構（弥生時代）

H地区第１遺構面溝
他検出状況（南西より）

H地区第１遺構面溝５
弥生土器甕出土状況
（南より）



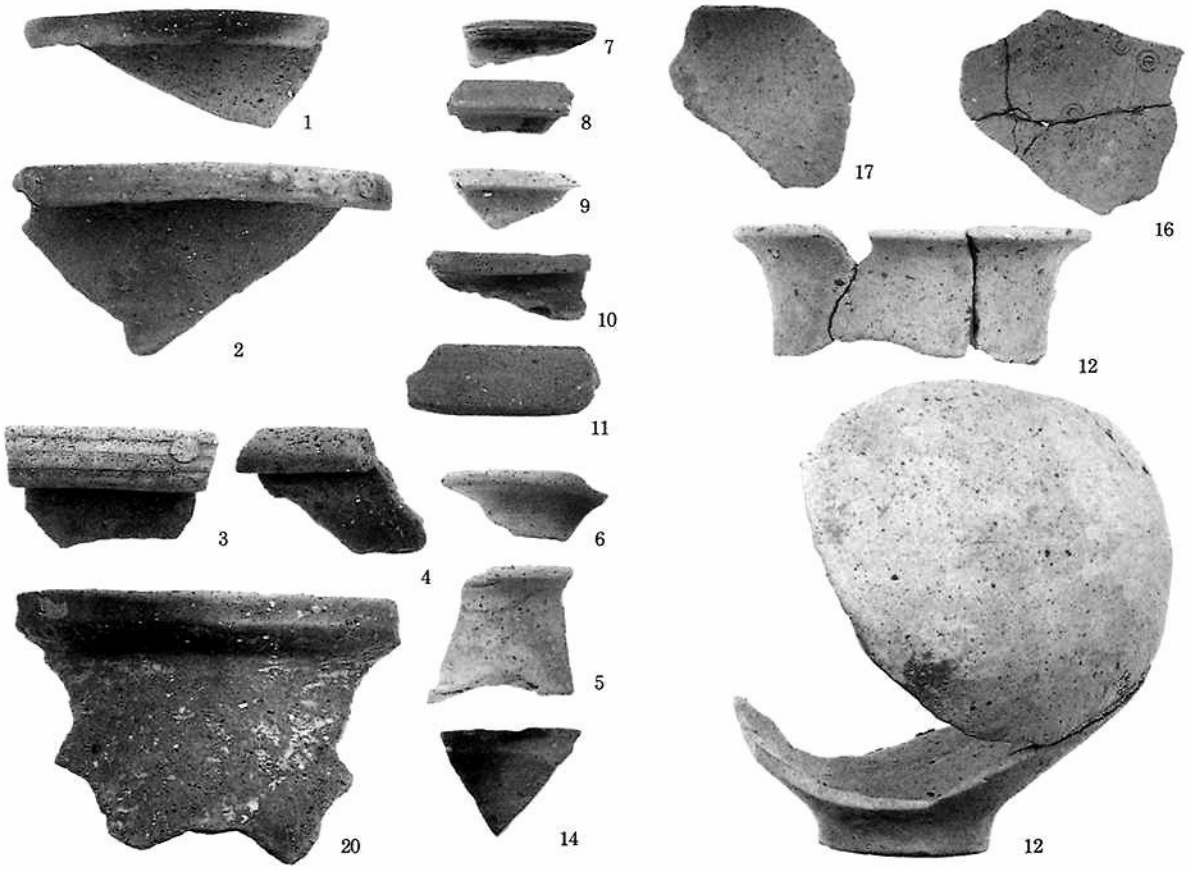


H地区第1遺構面溝5調査風景（南より）

K・L地区調査状況（南西より）

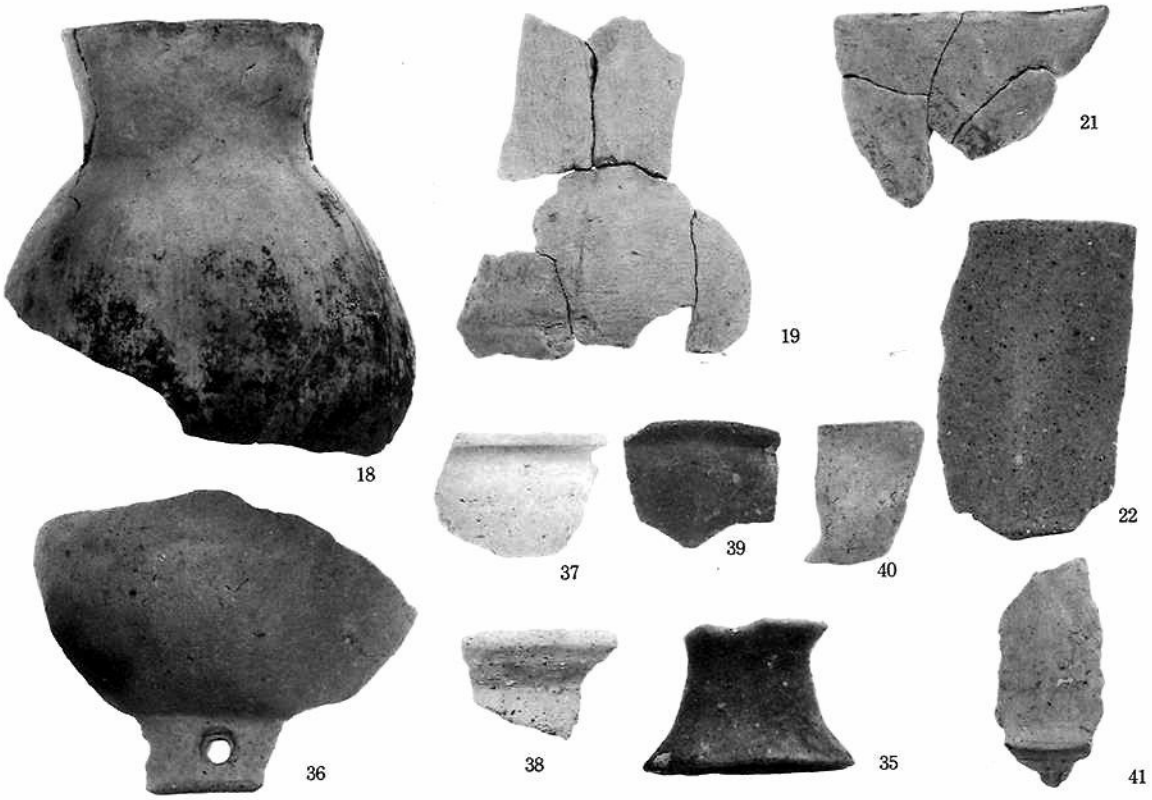
図版24　溝1・2・5・11・12出土遺物（弥生時代後期）

壺（13・15）

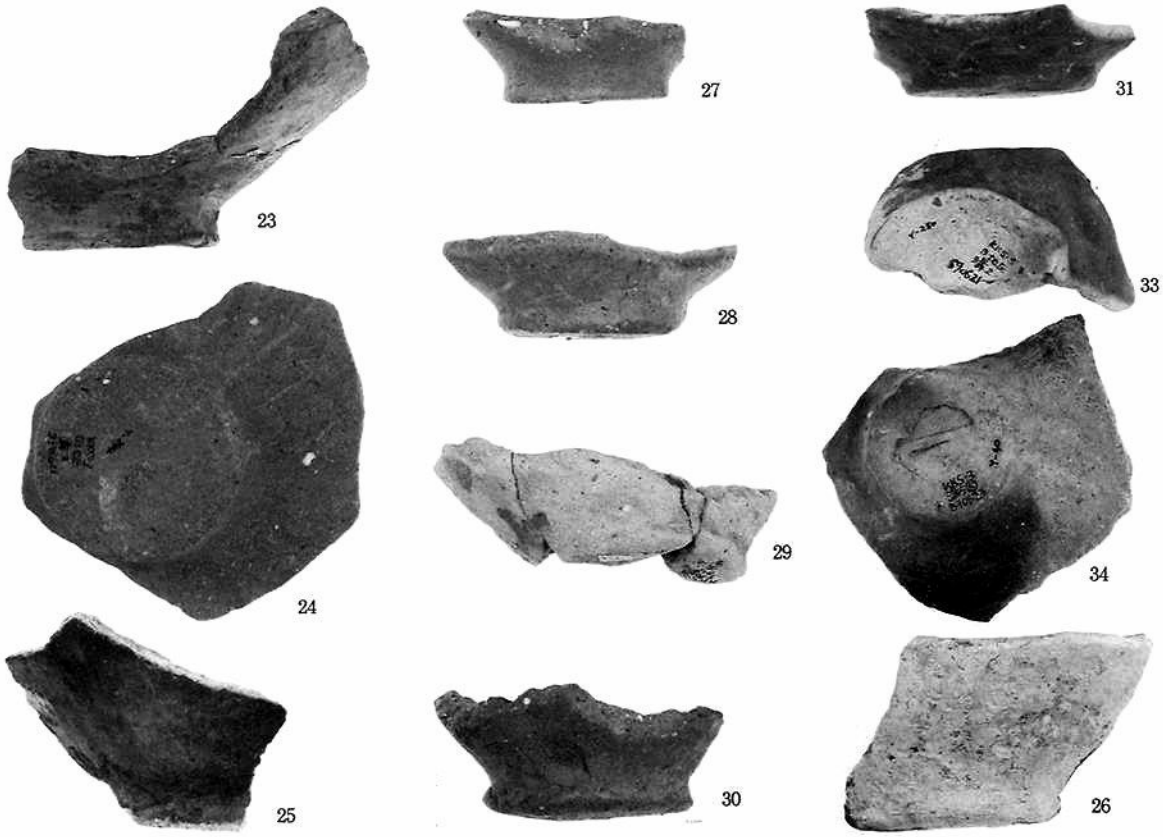


壺（1～12・14・16・17・20）

図版25　溝2・5・11・12出土遺物（弥生時代後期）

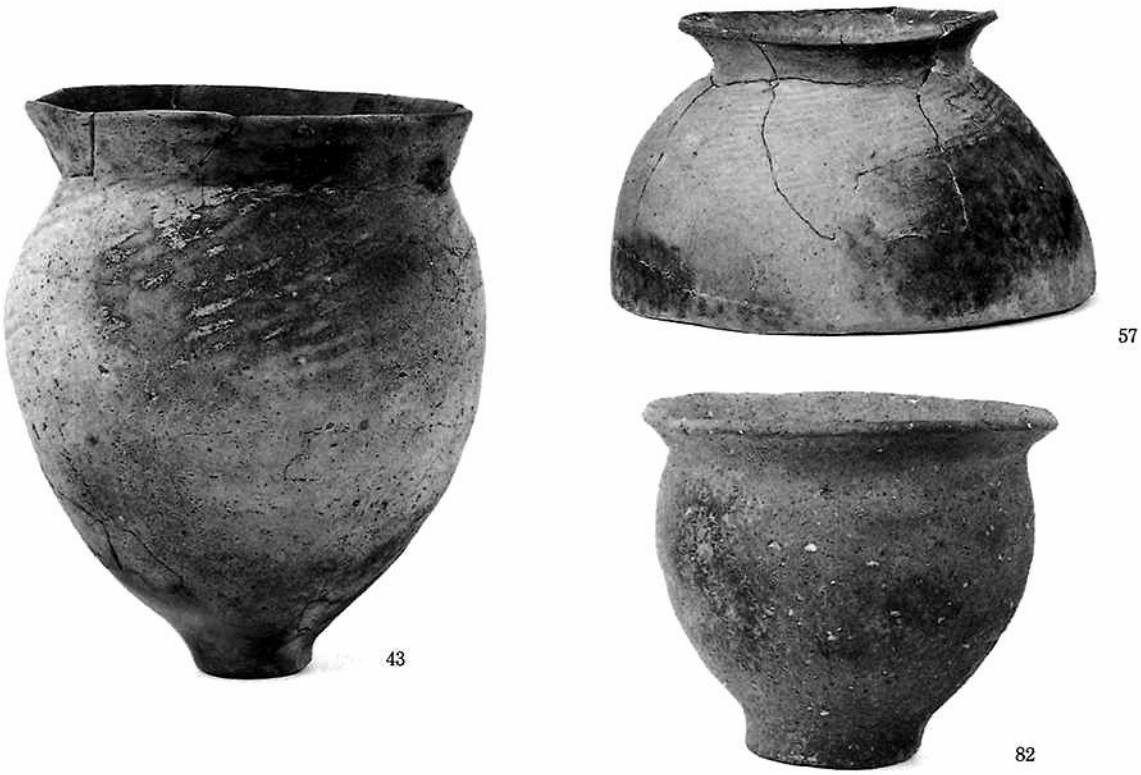


壺（18・19・21・22）鉢（35～40）手焙形土器（41）

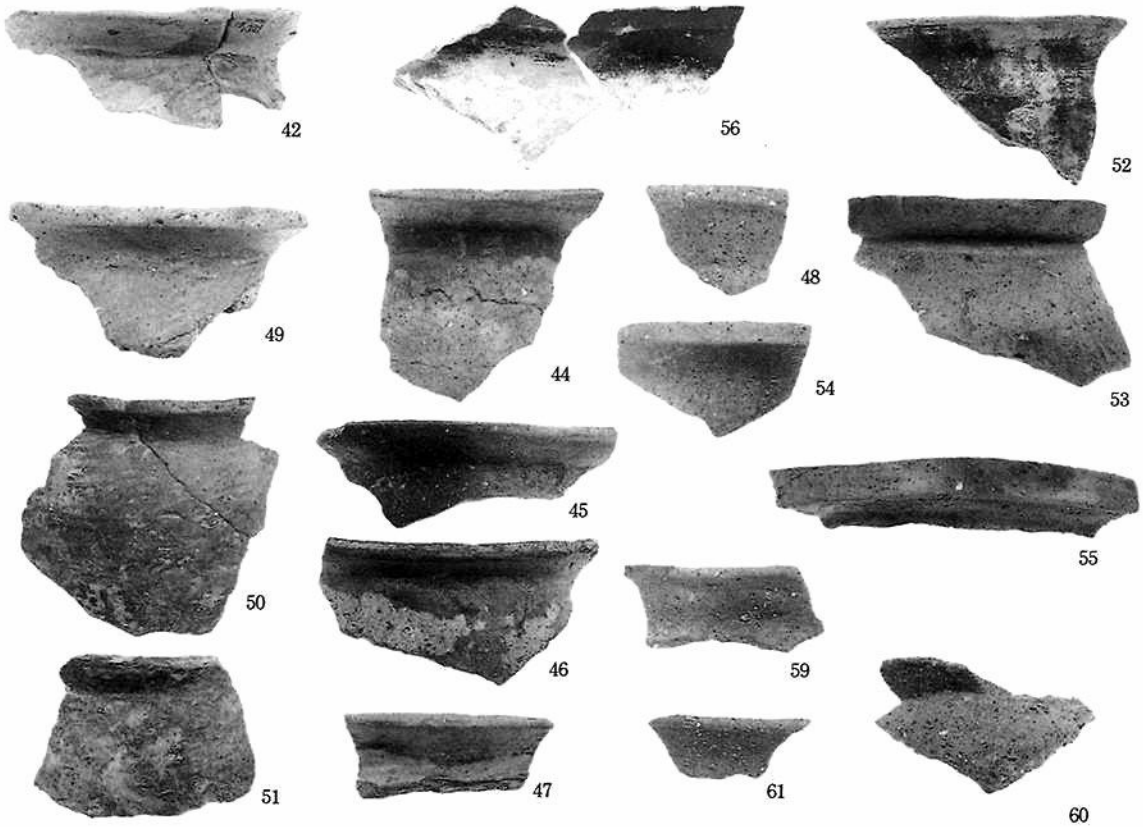


底部（23～31・32・34）

図版26　溝2・5・11・12・14出土遺物（弥生時代後期）

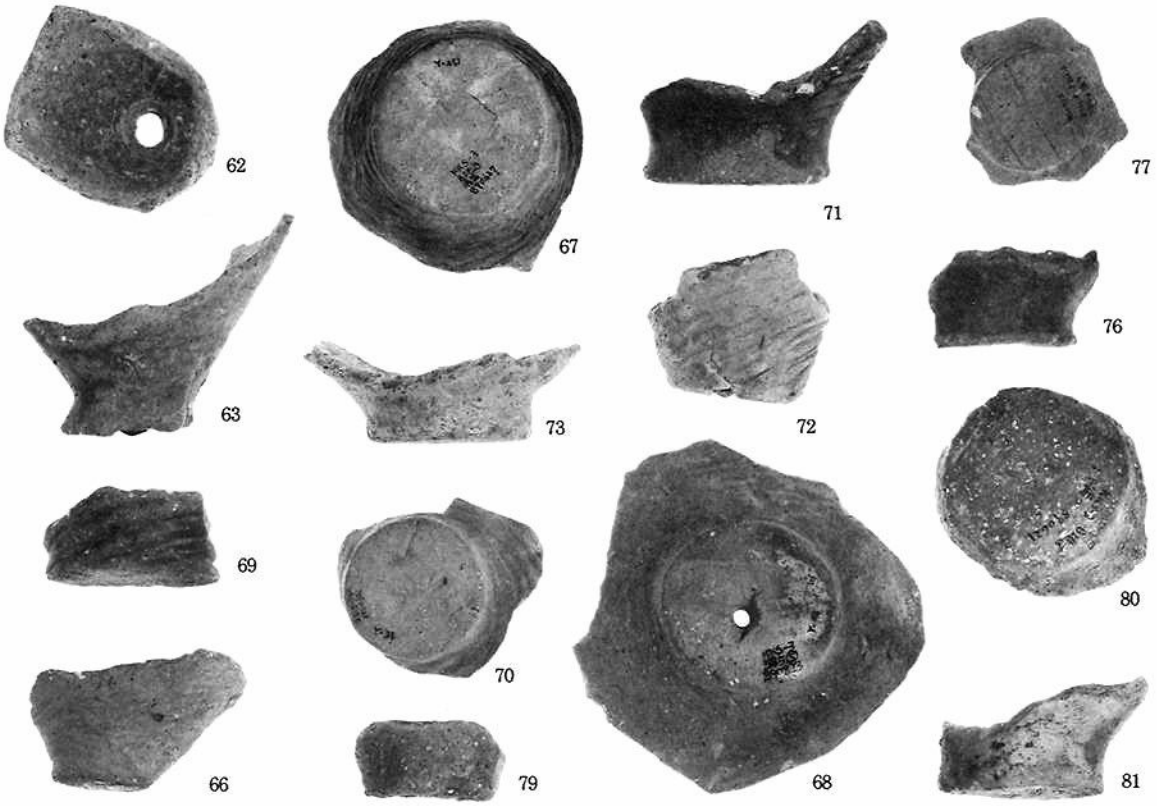


甕（43・57・82）

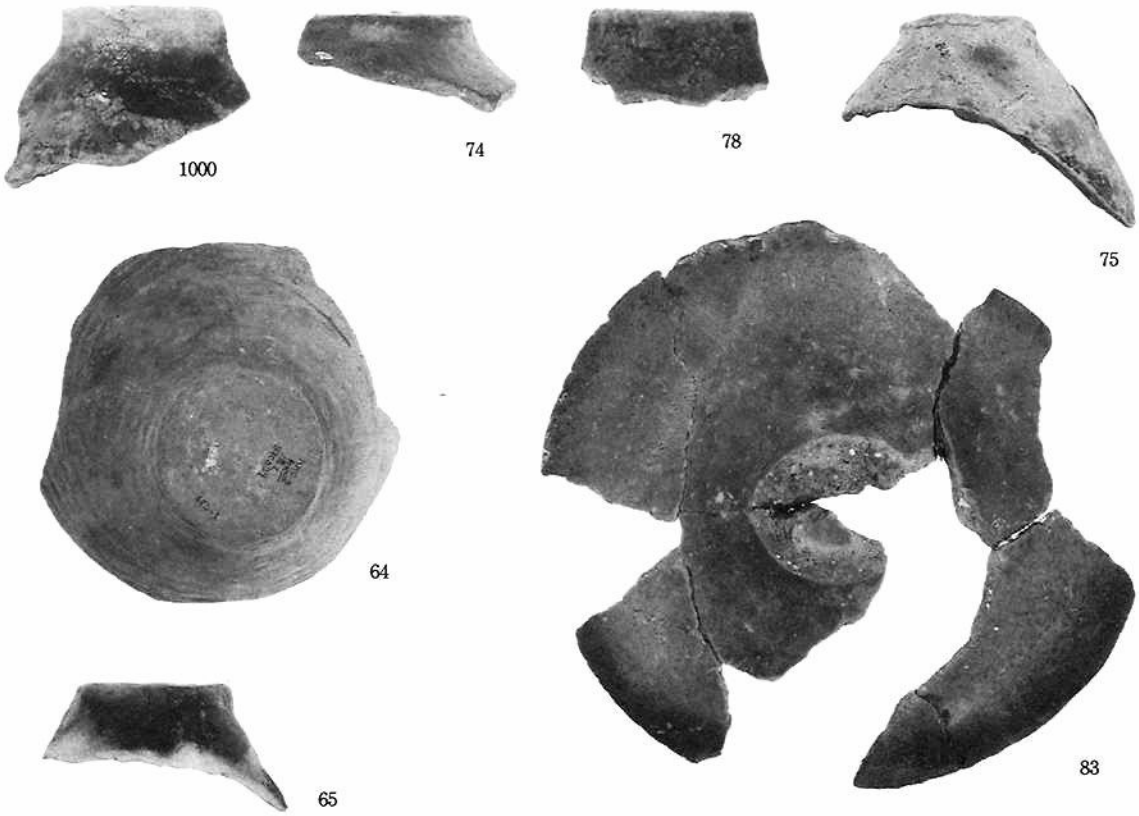


甕（42・44～56・59～61）

図版27　溝2・4・5・11・12出土遺物（弥生時代後期）

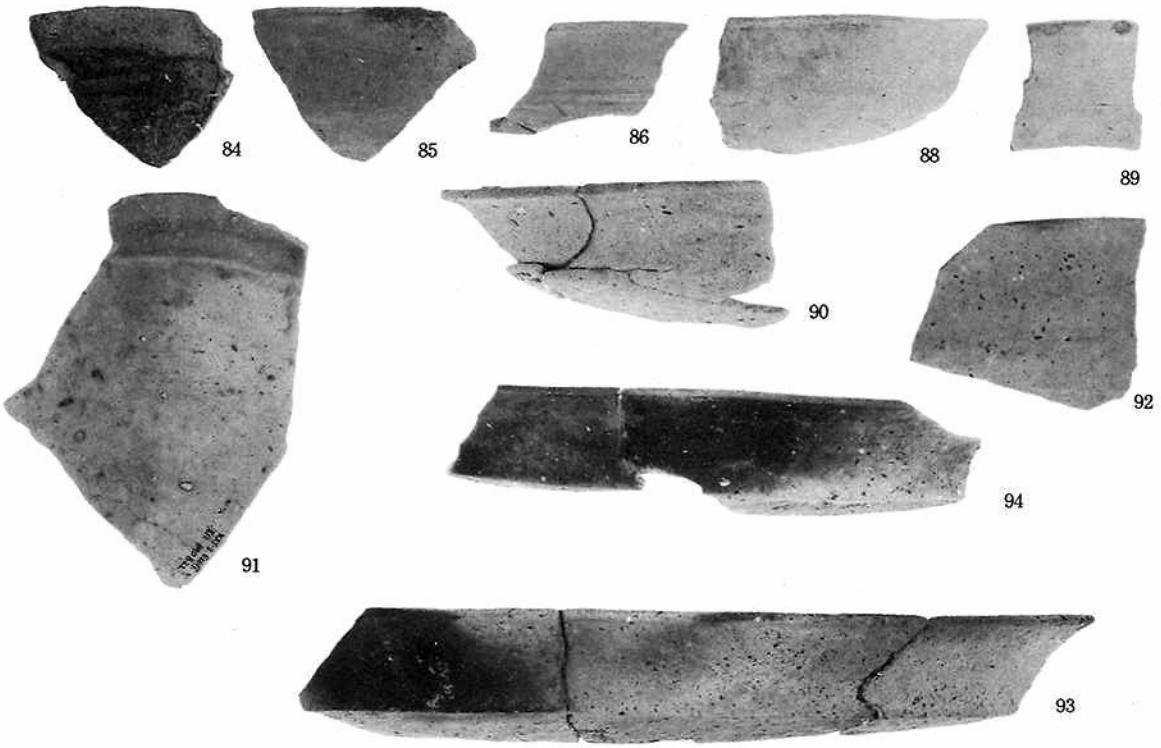


底部（62・63・66～73・76・77・79～81）

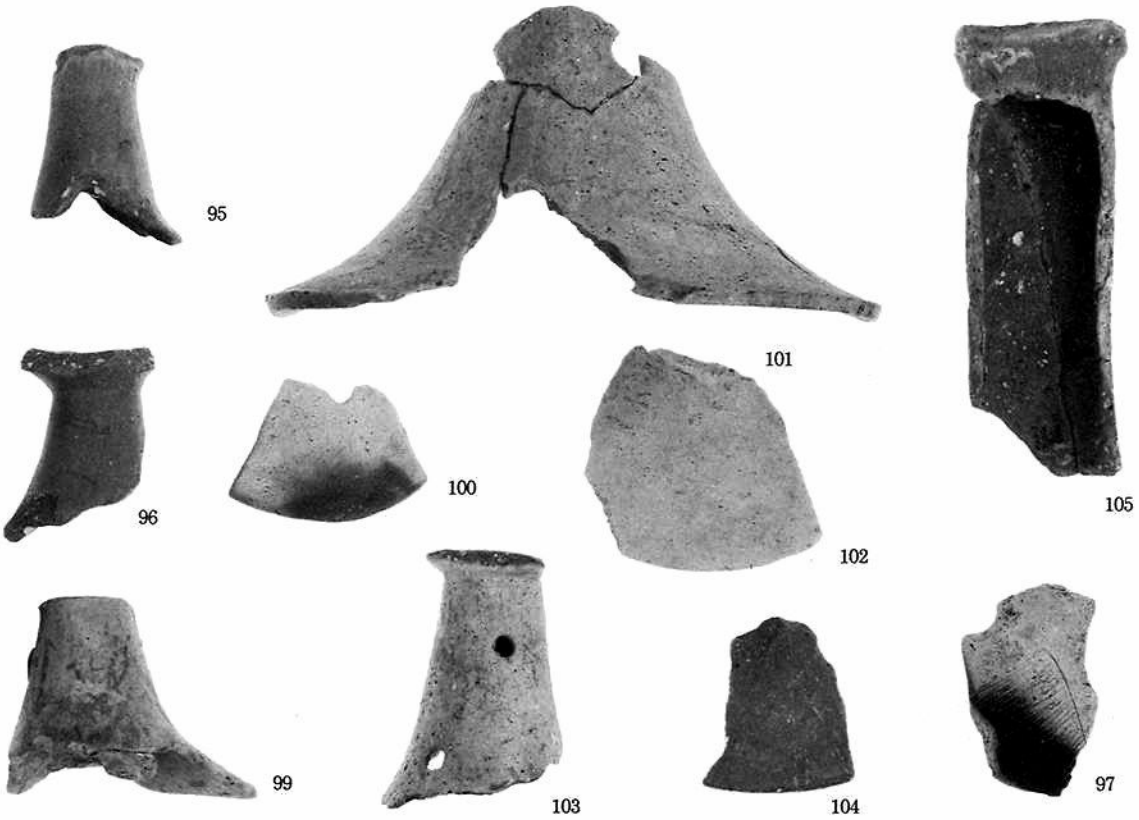


甕蓋（64・65・74・75・78・83・1000）

図版28　溝2・4・5・11・12・14出土遺物（弥生時代後期）



高杯（84～86・88～94）



高杯（95～97・99～105）

図版29　溝5、落ち込み1出土遺物（弥生時代後期）

87

98

108

110

117

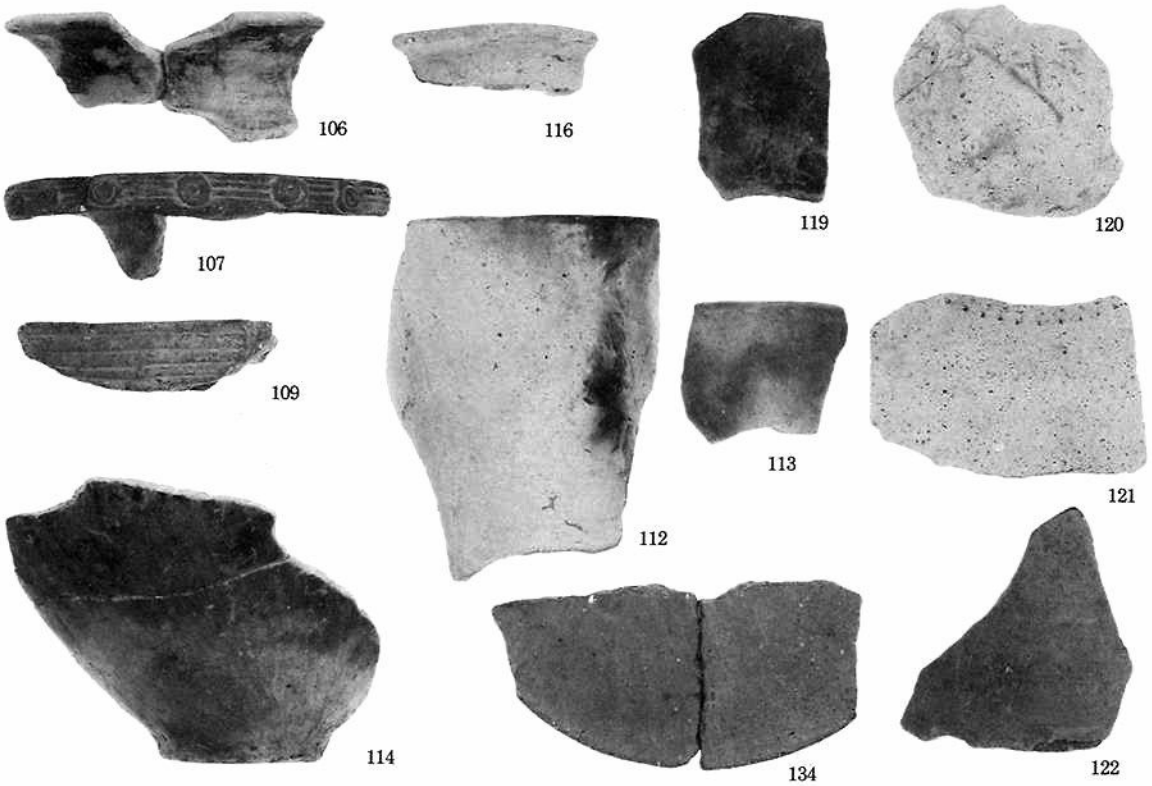
111

118

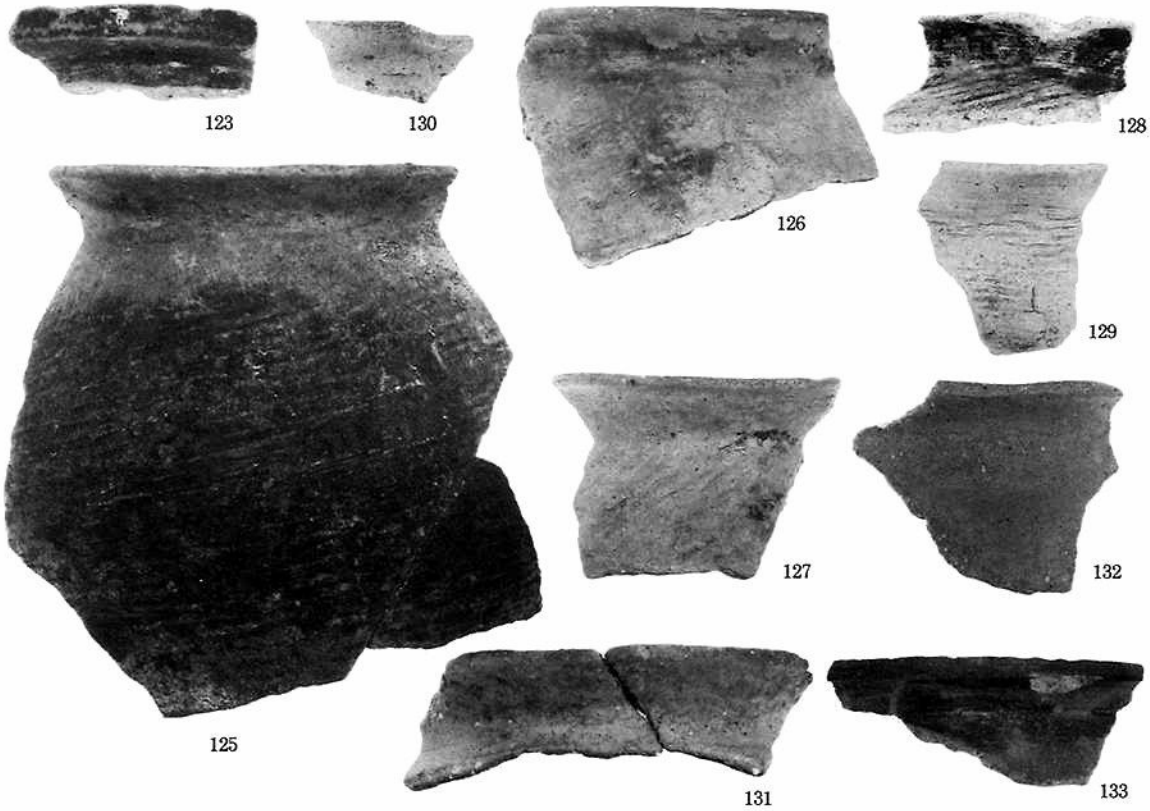
124

壺（108・110・111・117・118）甕（124）高杯（87・98）

図版30　落ち込み1出土遺物（弥生時代後期）

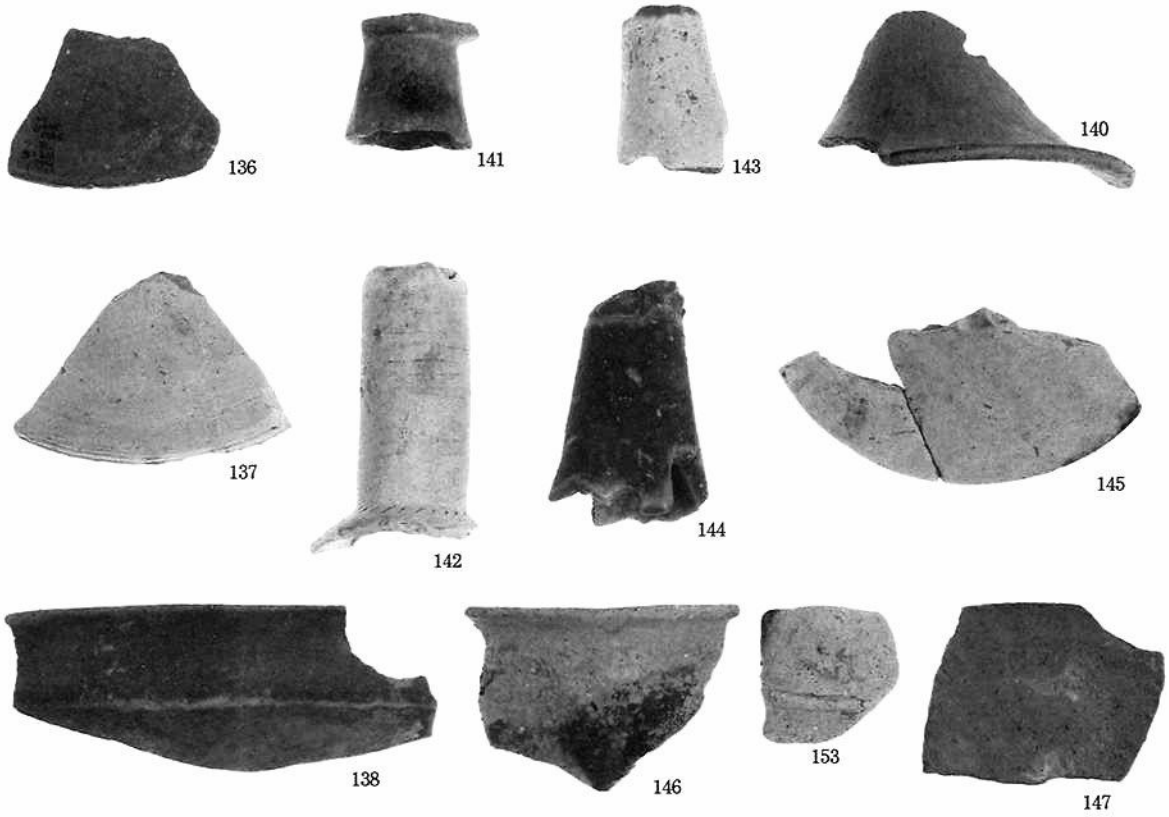


壺（106・107・112～114・116・119～121）器台（109・122）壺蓋（134）

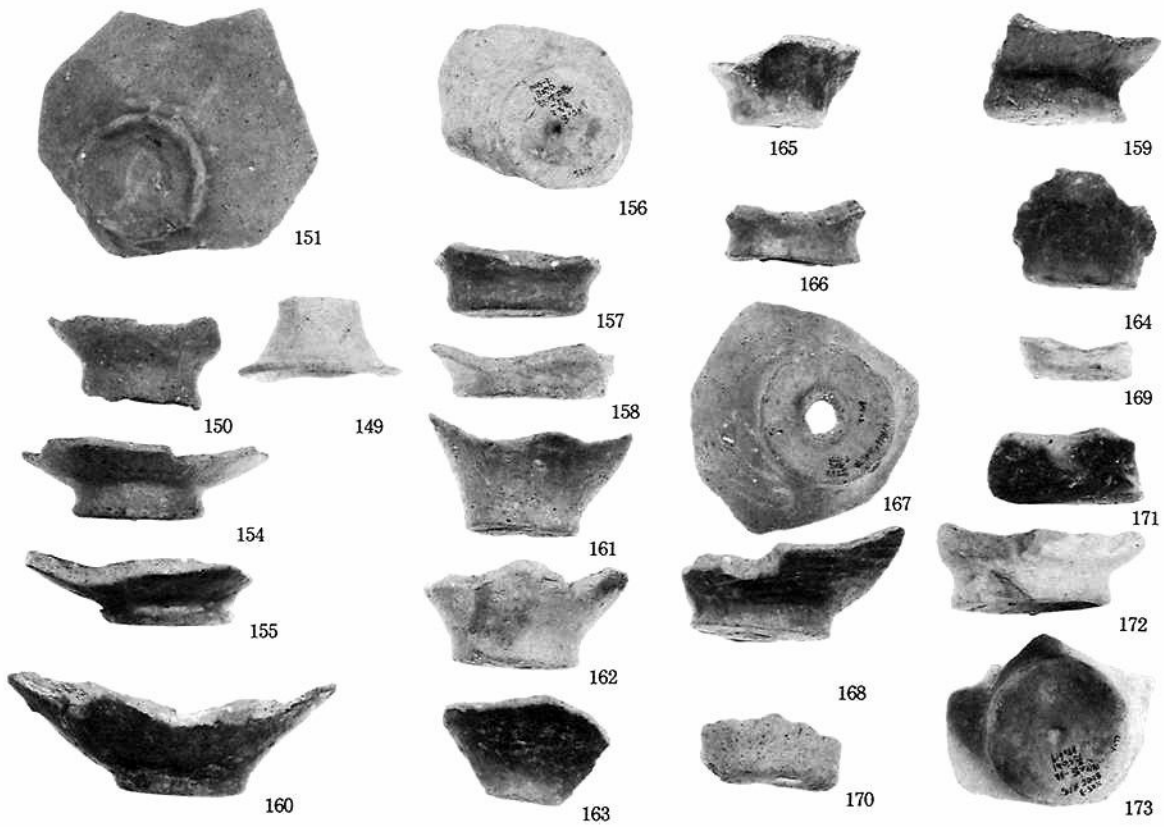


甕（123・125～133）

図版31　落ち込み1出土遺物（弥生時代後期）



高杯（136～138・140～145）鉢（146・147）手焙形土器（153）



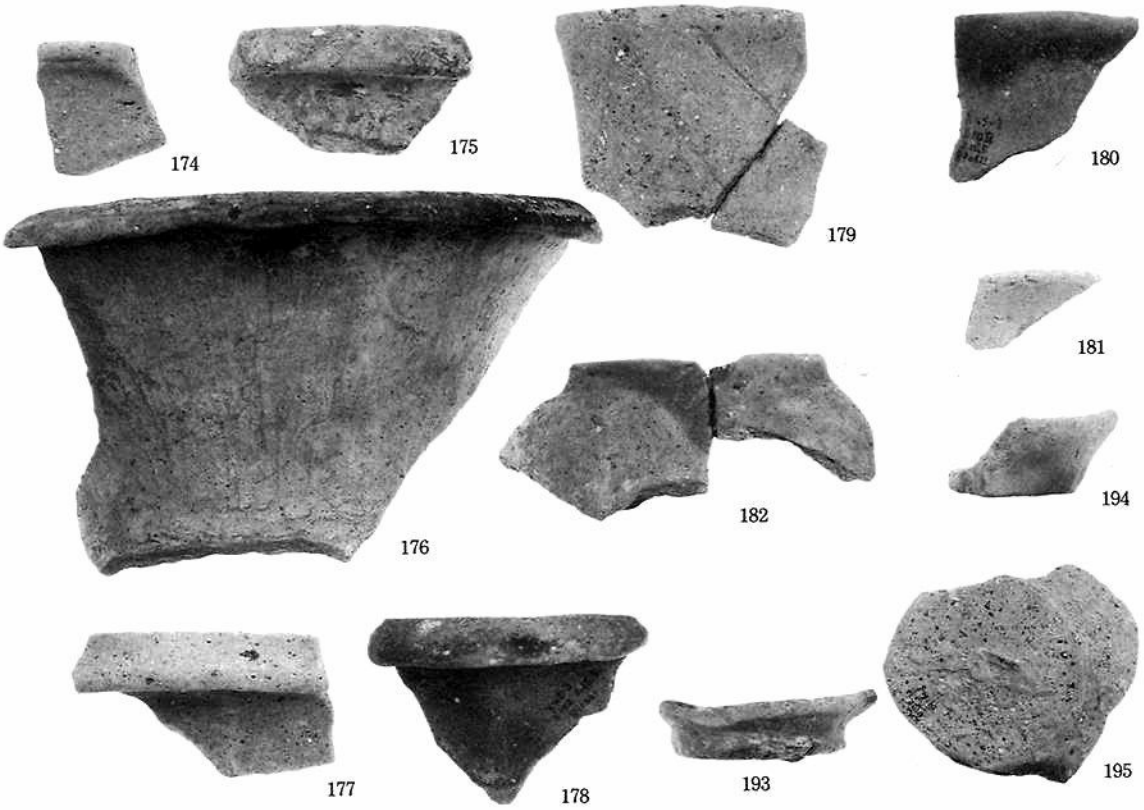
鉢（149～151）底部（154～173）

図版32　溝2・5、落ち込み1・2出土遺物（弥生時代後期）

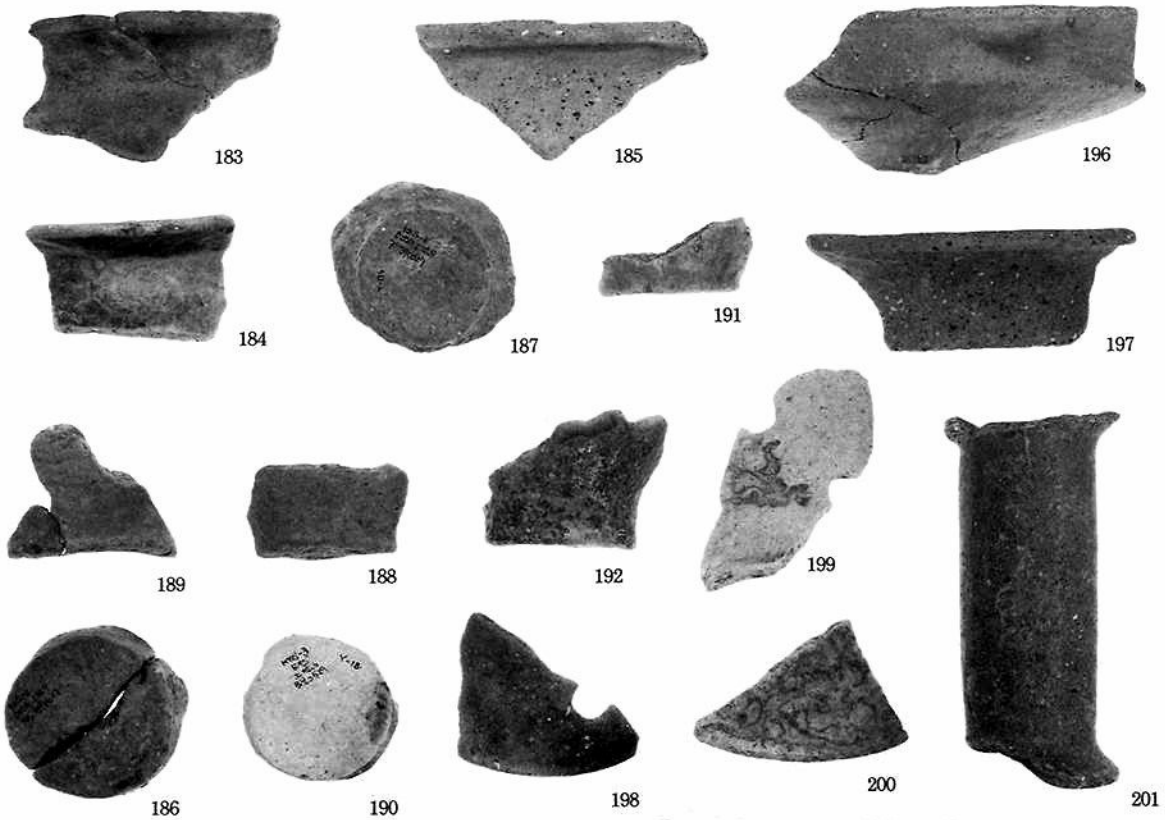
壺（15・111・118）甕（43・82）鉢（148）

高杯（135）鉢（148・152）器台（139）

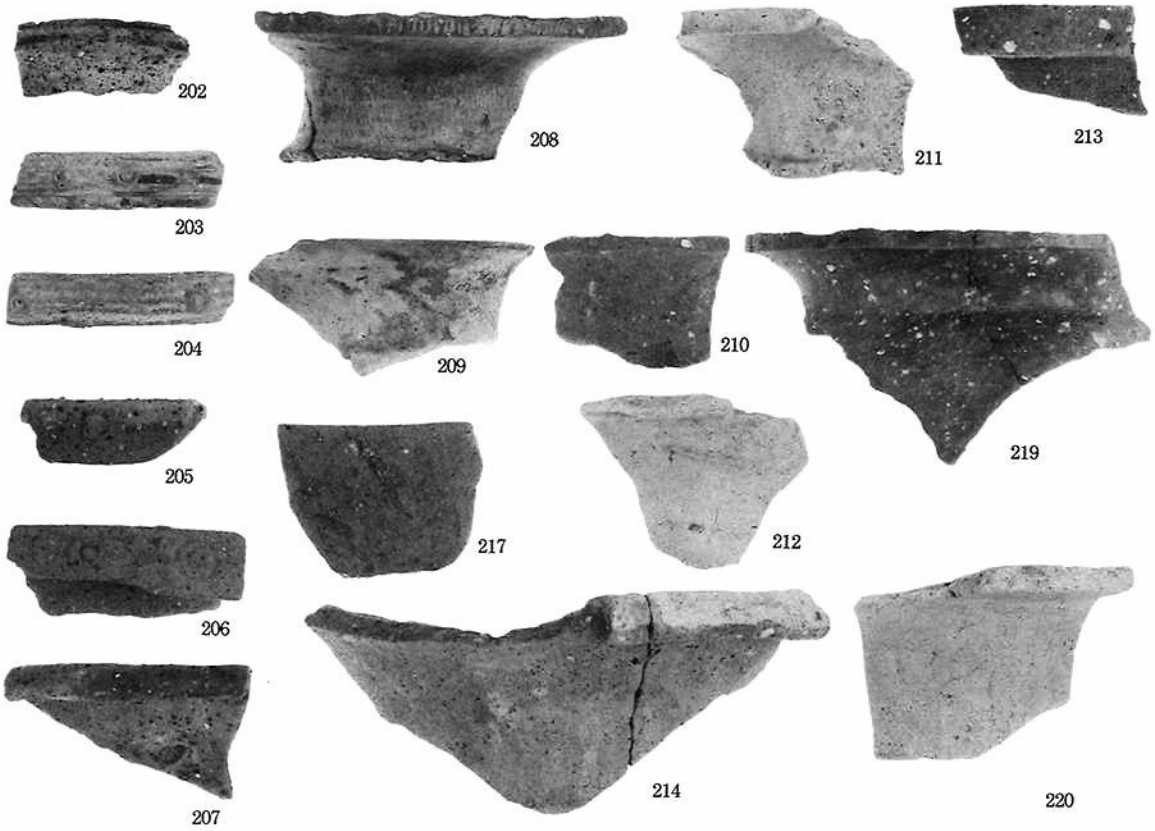
図版33　土壙5・6・7・9・27、ピット39出土遺物（弥生時代後期）



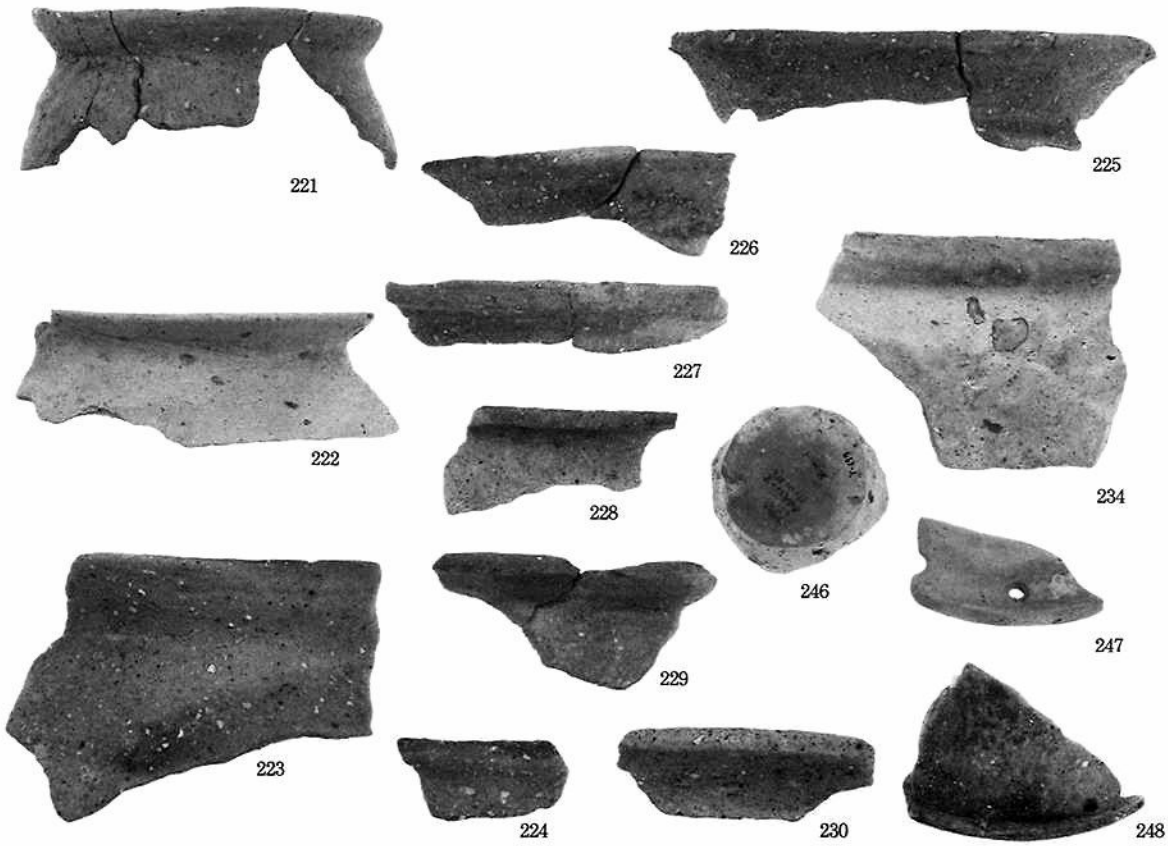
壺（174～182）底部（193～195）



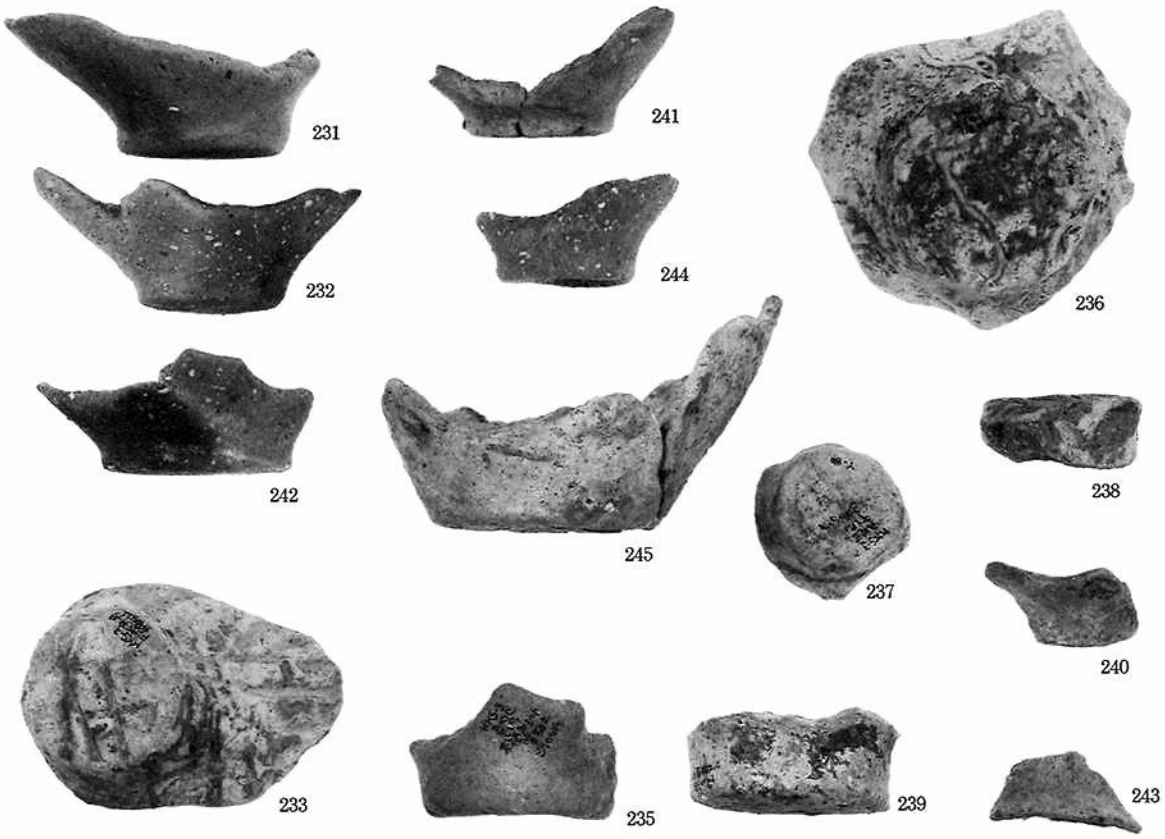
甕（183～185）高杯（196・198～201）器台（197）底部（186～192）



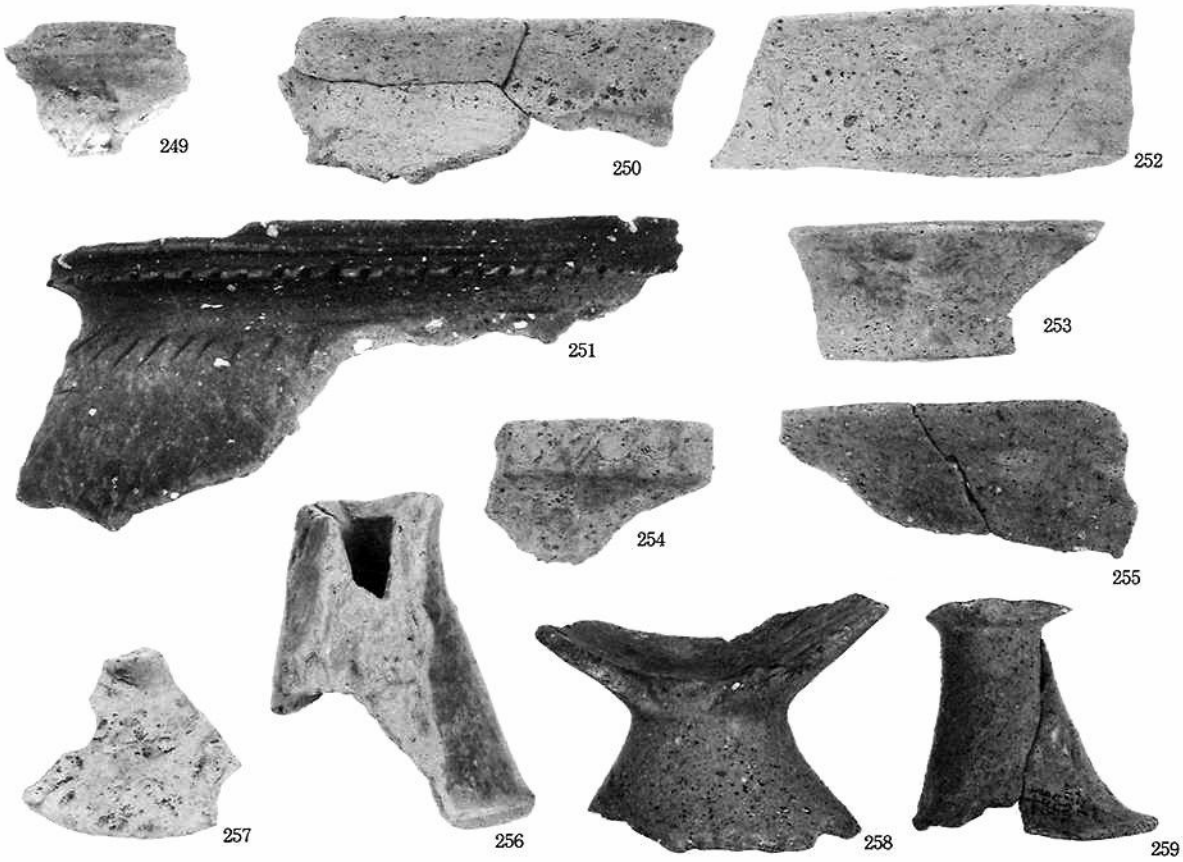
壺（202～214・219・220）



甕（221～230）鉢（234）壺蓋（247・248）

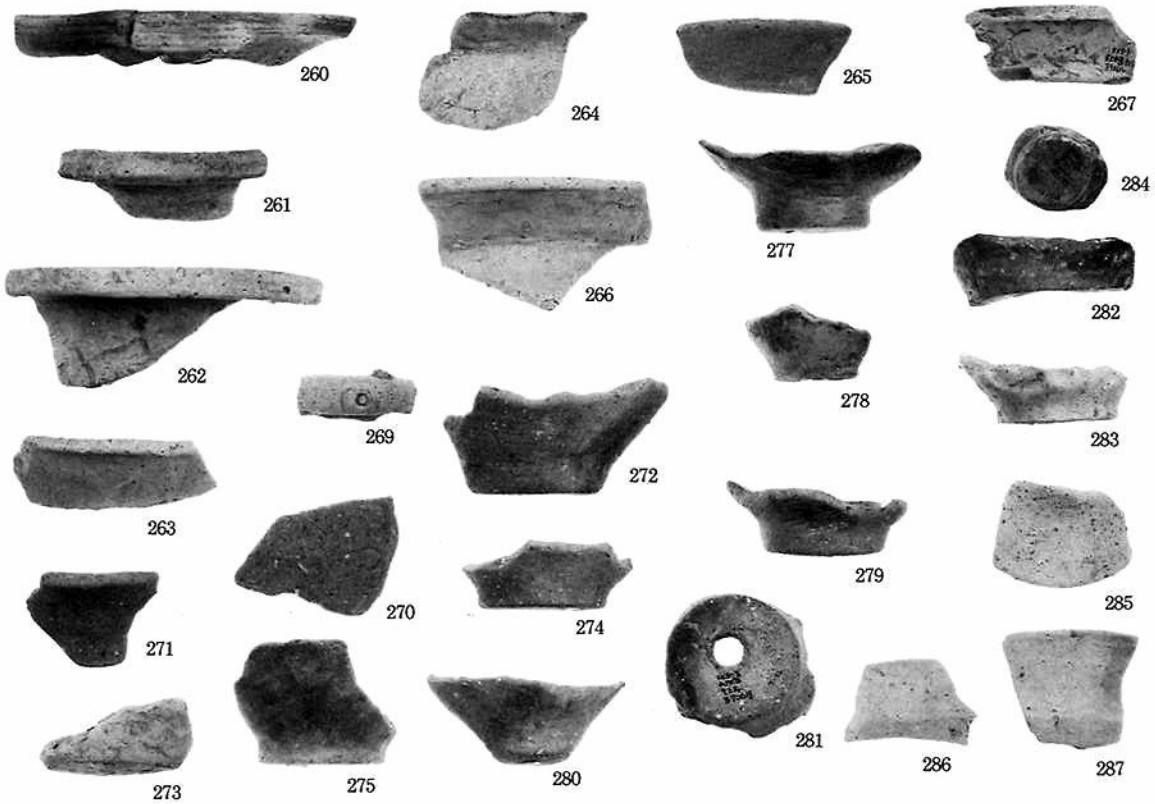


底部（231～233・235～245）

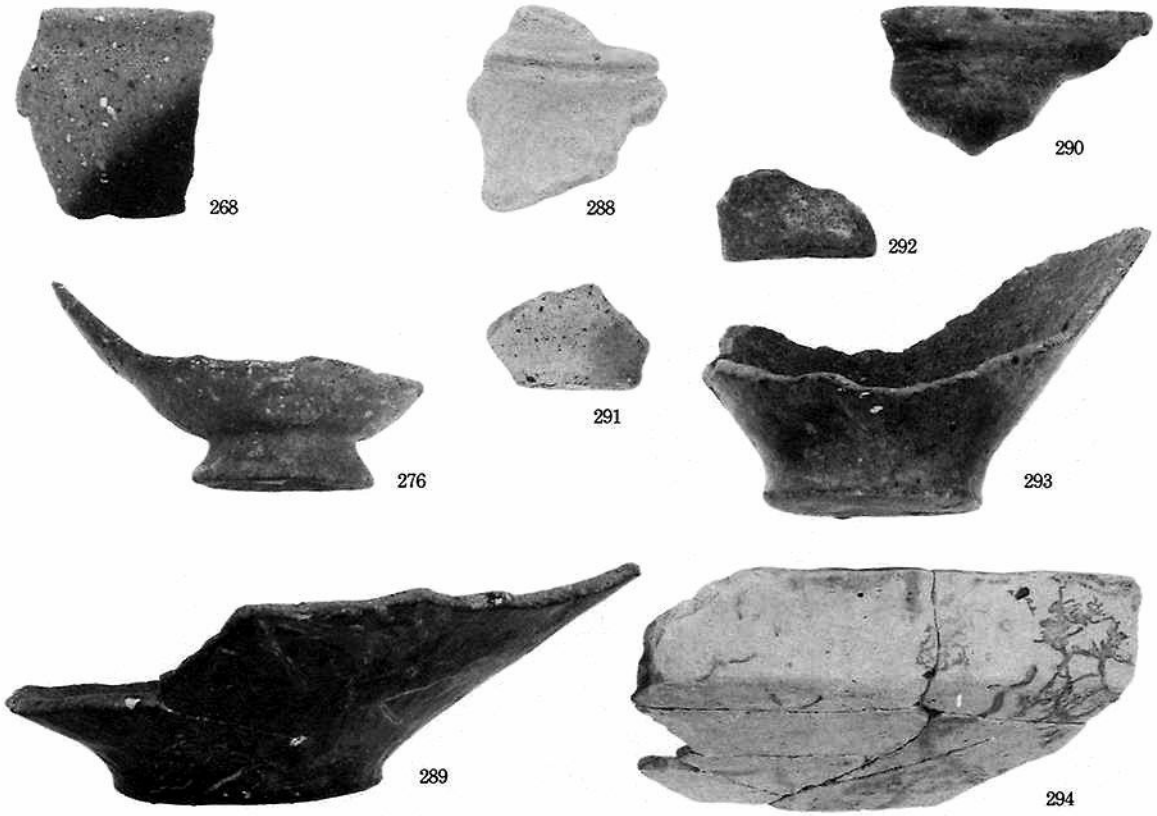


甕（249～251）高杯（252・253・256～259）鉢（254・255）

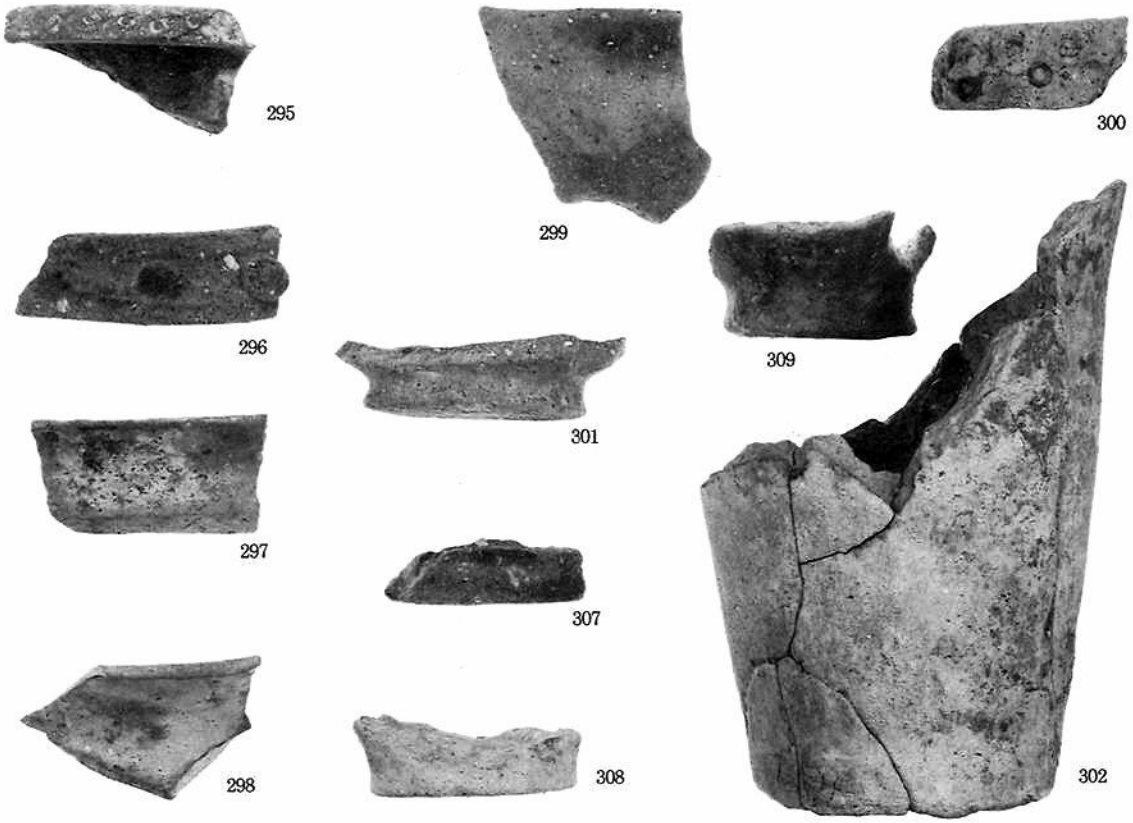
図版36　包含層出土遺物（弥生時代後期）



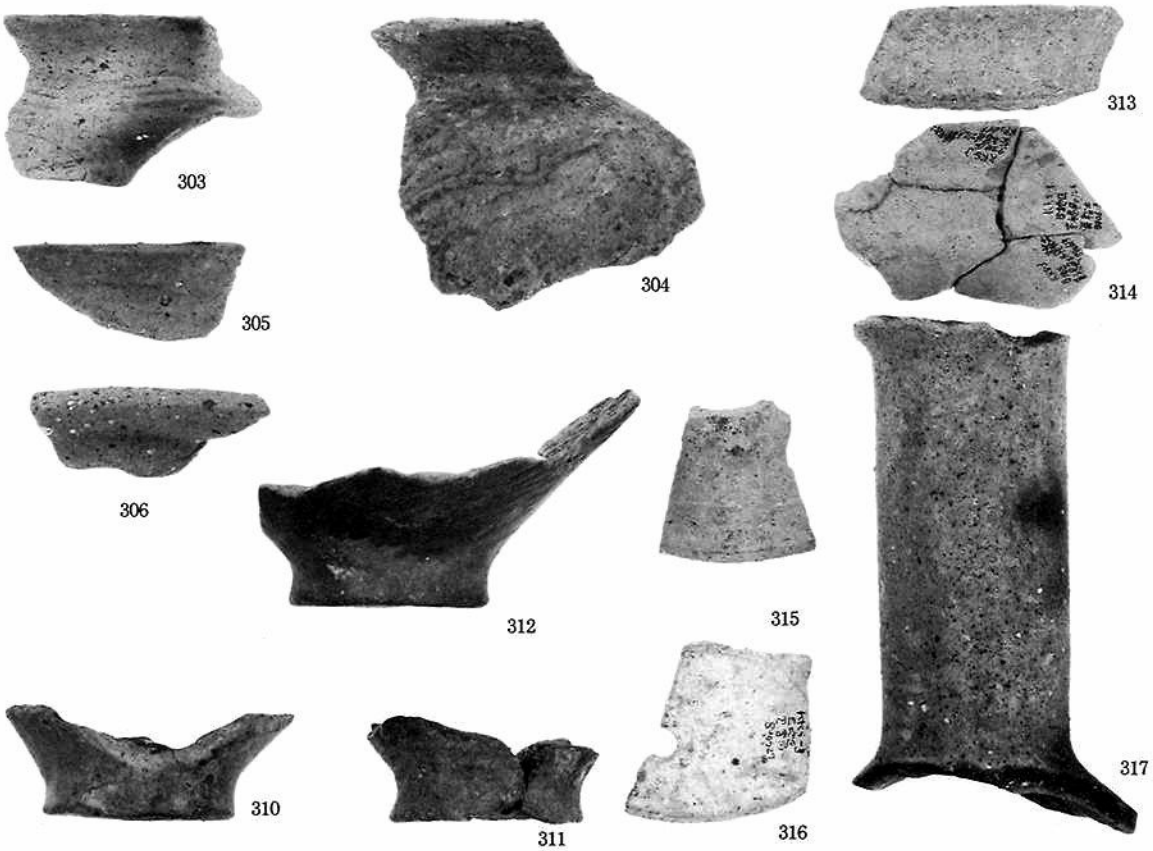
壺（260～263・269～271）甕（264～266）高杯（285～287）器台（267）甕蓋（284）底部（272・274・275・277～283）



壺（288）甕（290）鉢（268・276）高杯（294）底部（289・291～293）

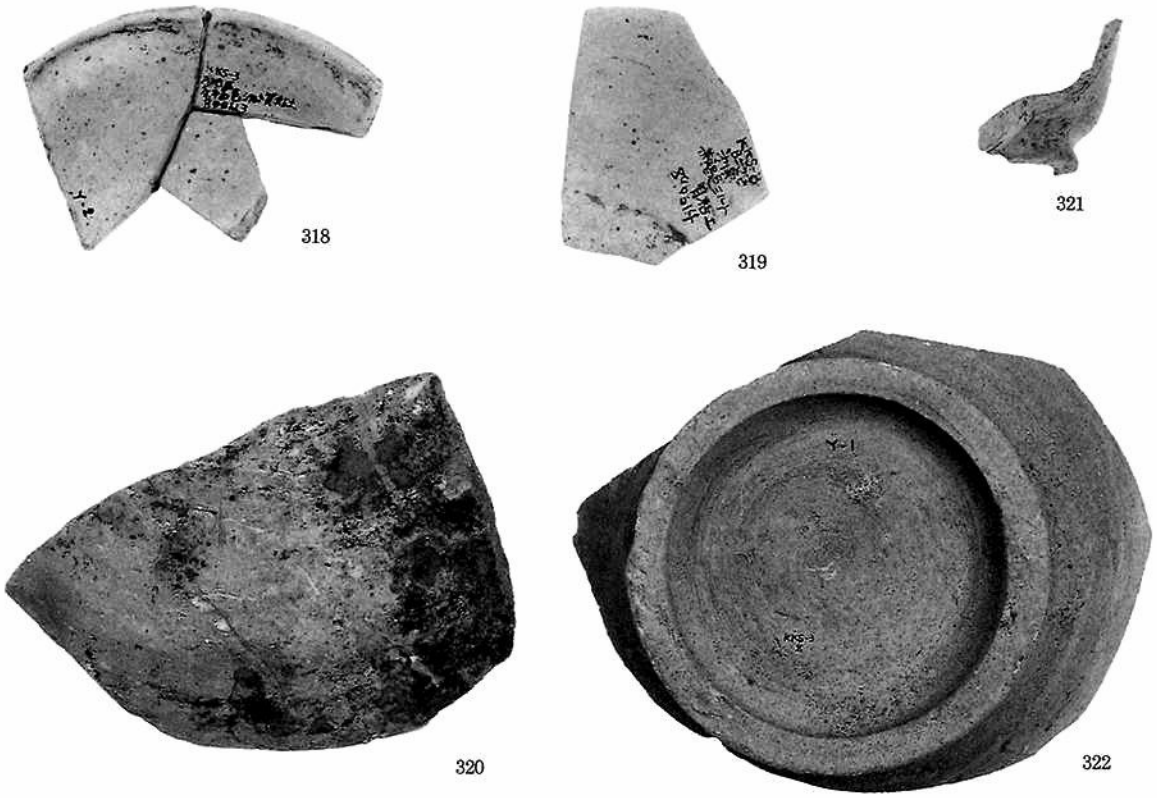


壺（295～300・302）底部（301・307～309）



甕（303～306）高杯（313～317）底部（310～312）

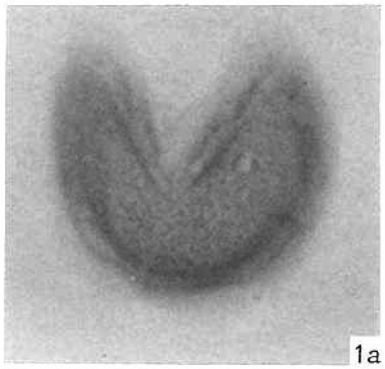
図版38　包含層出土遺物（弥生時代後期・古墳〜中世・石器）

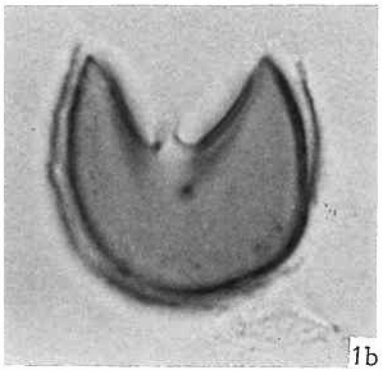


土師器皿（318・319）須恵器杯蓋（320）杯身（321・322）

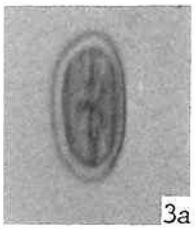
砥石（323）石錘（324）石皿（325）

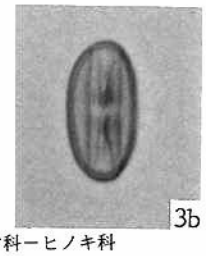
図版39　花粉化石



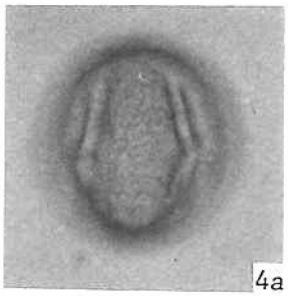


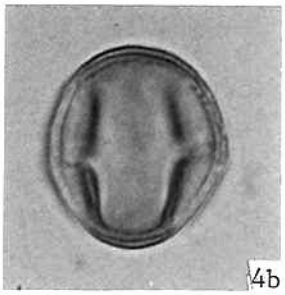
1　a・b　スギ属



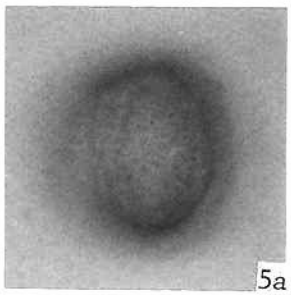


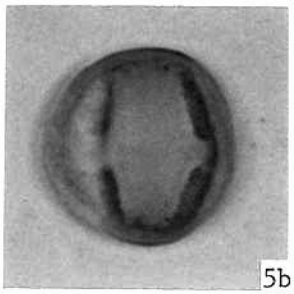
2　　イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科
3　a・b　クリ属ーシイノキ属



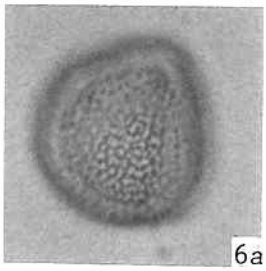


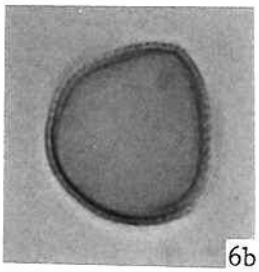
4　a・b　アカガシ亜属



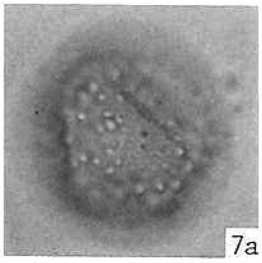


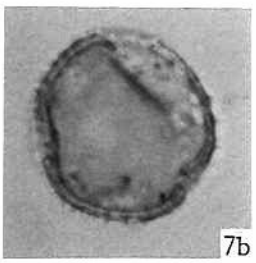
5　a・b　アカガシ亜属



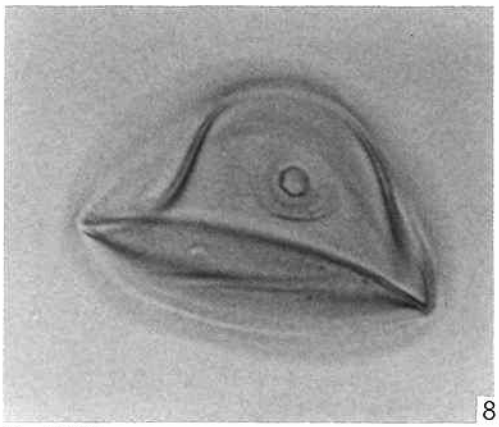


6　a・b　ガマ属

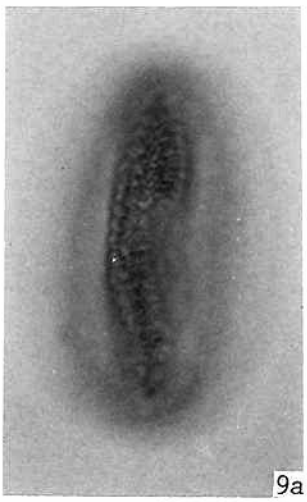


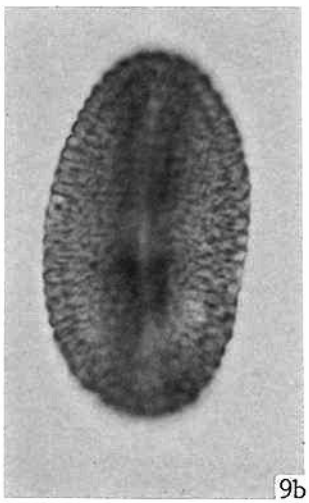


7　a・b　オモダカ属



8　イネ科

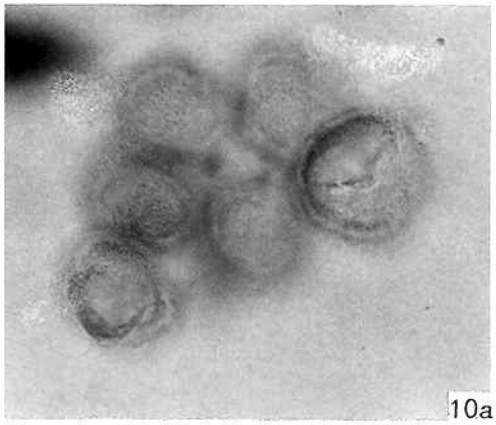


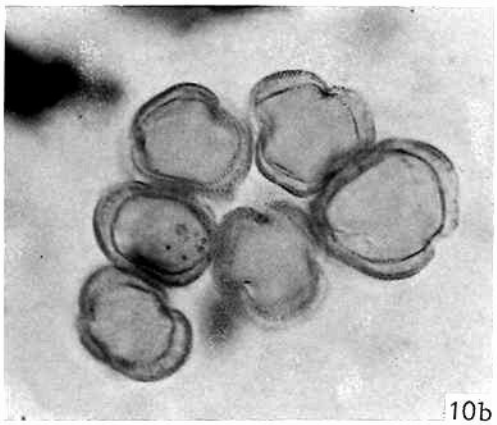


9　a・b　ソバ属

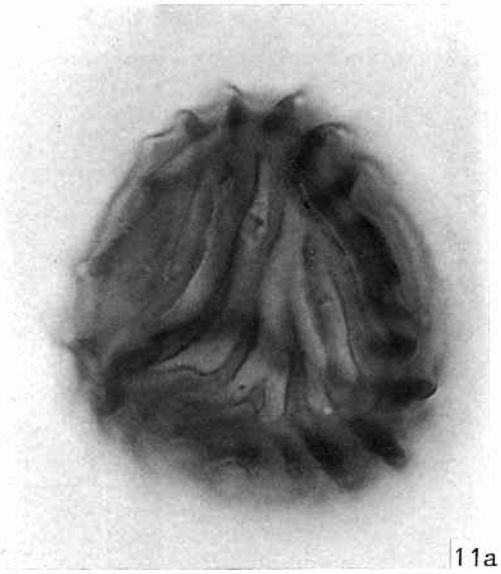
50μ

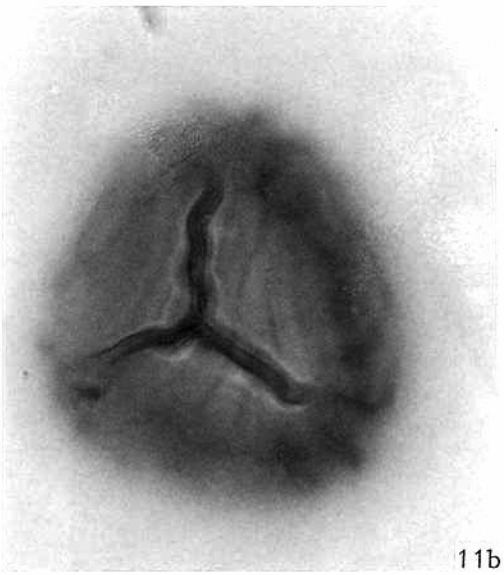
図版40　花粉化石



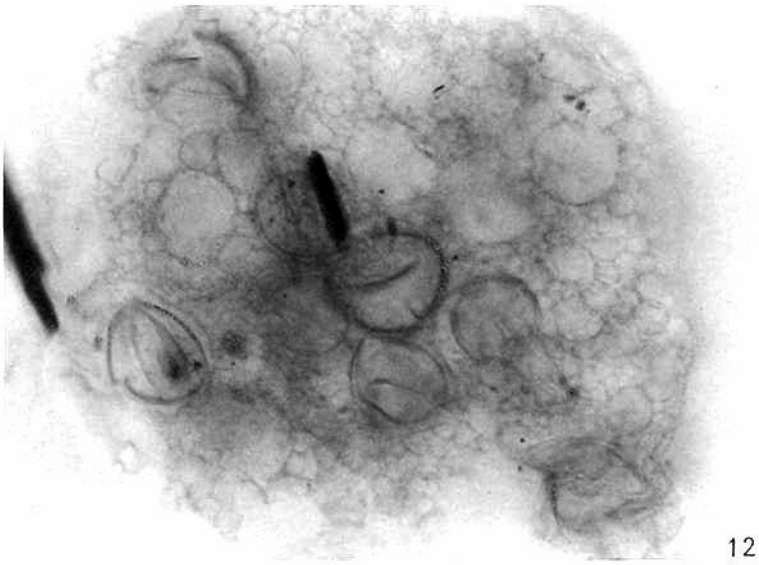


10　a・b　ヨモギ属（プレパラート上での産状）





11　a・b　ミズワラビ属



12　サンショウモ

100μ

報 告 書 抄 録

ふりがな	かみこさかいせきだい　じはっくつちょうさほうこく
書名	上小阪遺跡第3次発掘調査報告
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	福永信雄
編集機関	財団法人 東大阪市文化財協会
所在地	〒577　東大阪市荒川3丁目28－21
発行年月日	1998年3月31日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	調査期間	調査面積 m²	調査原因
上小阪遺跡	大阪市若江西新町4～5丁目	27227	1988年6月5日～9月25日	250m²	下水道管理設工事

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落	弥生時代後期 奈良時代	溝・土壙・柱穴	弥生土器・石皿・石錘・須恵器・土師器	弥生時代後期中ごろの一括資料

上小阪遺跡第3次発掘調査報告書

1998年3月31日

発 行 所　財団法人　東大阪市文化財協会

印 刷 所　株式会社　中島弘文堂印刷所